

江將王常欲立續新市平林將帥憚其威明遂立更始立續爲大司徒秀爲將軍秀徇昆陽定陵郾皆下之莽遣王邑王尋大發兵平山東以長人巨無霸爲壘尉驅虎豹犀象之屬以助兵勢號百餘萬旌旗千里不絕諸將見兵盛皆走入昆陽欲散去秀至郾定陵悉發諸營兵自將步騎千餘爲前鋒尋邑遣兵數千合戰秀奔之斬首數十級諸將曰劉將軍平生見小敵怯今見大敵勇甚可怪也尋邑兵却諸部共乘之連勝遂前無不一當百秀與敢死者三千人衝其中堅尋邑陣亂漢兵乘銳崩之遂殺尋昆陽城中守者亦鼓譟出中外合勢呼聲動天地莽兵大潰走者相踐伏死百餘里會大雷風屋瓦皆飛雨下如注虎豹皆股戰溺死澠川者萬數關中聞之震恐海內豪傑響應皆殺莽牧守自稱將軍用漢年號旬月徧天下續兄弟威名日盛更始殺續秀不敢服喪飲食言笑惟枕席有涕泣處更始慙拜秀大將軍封武信侯未幾以秀行大司馬事遣徇河北所過除莽苛政南陽鄧禹杖策追秀及於鄴秀曰我得專封拜生遠來寧欲仕乎禹曰不願也但願明公威德加於四海禹得效其尺寸垂功名於竹帛耳更始常才帝王大業非所任明公

莫如延攬英雄務悅民心立高祖之業救萬民之命天下不足定也秀大悅令禹常宿止於中與定計議(字解)

謂也 未來記或はるくしに類して一種の漢書傳なり(國師公先き王莽に殺されたる劉棻の父とす(大節)大休の義理)の帝業也(家人)一家の意を(林衣大冠)林は赤衣なり乃ち將軍の服也(良人)お、男なり(數十)首一つ取れば位一級を加ふはと(秦)の制なり故に之を用ゆるなり(敢死)決死に同じ(股肱)も、扱はせ悉る、こと(牧守)地方官(旬月)十月と云ふ一説に僅か十日か一日と解する方可なりとの説あり(莽)馬に鞭打つての意(對)人を役付けることと云ふ(望)おらしやの意(延攬)引き込むこと(不足定)定むるまでもな(謙義) 世龍并武皇帝の名は秀にて字は文叔と云ふ(望)望沙なる定王(望)の後にして扱て漢帝が稱と云ふ漢の意にて易きを云ふ(謙義) 生み獲は漢帝なる節侯の買と云ふを生み大名と云ふこと(二)三代乃ち熊羆を匿て仁の代に至り(望)分符にて南陽なる白水郷に移り此地の名を春陵と改め一門の人々は春陵に往て住居せり扱て買の末の子に外と云ふあり外は(望)と云ふ子を生み南陽縣の令なる秋を生み秋は帝なる秀を南陽の地にて生み時目出度き相ありて一本の望より九本の望出でれば秋のひいであるの意を取りて秀と名づけたり又此時氣を見分ける者ありて春陵の方を望み扱て見味なることか(望)望の氣の盛んにして尋常の事にあらずと云へり扱て此時王莽は通貨を改めて貨泉と云ひしが世の中は誰れ云ふとなく此貨泉のこと(望)を白水郷人と異名せり是れ泉の字を分けて白水の二字とし貨の字を分けて眞人の二字とせしことにて夫れは白水郷方より眞正の人が出て天下を治定するとの前兆にして乃ち秀は前兆の如く白水郷より起りたり扱て秀は生れ付き昂柱高く米かみの處に高き肉ありて人相に於ても十分なりし又師に從ふて尙書と云ふ書を學び其大意を會得せり或る時蔡少公と云ふ人の家に往ししが全体蔡少公は未來の事を豫言する術を學び知れるが劉秀と云ふ者が天子となるべきことと云へば或る居合はせたる人は夫れは國師公なる劉秀なるやと云へど秀は戯れ笑ひながら何とて拙者なる劉秀と云ふことを知らるゝやと云へり以上は劉秀が天子となるに人力にあらず元より天命を受けて天下を治むる處の人なりと云ふも發明することなるが是れも矢張り子孫と家臣との飾りにて小説と見て可なりさて其後新市平林の兵が起るに及び南陽は大いに騒動しくなりたれば宛の人なる李通と云ふ者が秀を迎へて兵を起したるを秀の兄なる續字は伯升と云ふは義理に付て激する生實にて又大ひなる心立てありて不慮に世の有様にて憤り王莽を誅して漢室の帝業を恢復せんものと思ひ平生より一家の帝業を願せし身代を打入れ家財の有ん限り天下の英雄俊才に交はりしが此時に至り親密にする人々を手分けして諸縣にや兵を集めさせ續も自分にて春陵の少年子弟を呼ば集めたるに人々は皆恐れて逃げ隠れ僻外は我々も死地に入れるなりと云ひしが劉秀が赤き服を着て大なる冠を戴き將軍の腰鎧するを見て又皆驚ききて平日謹み深く手堅き人も斯くする時勢にたりたることかと云ひそこで人々も安心せり夫れより豫て決りたる人々を手分けして宛々に兵を起し居る大將を暇し論して招かせたれば新市平林下江の兵は皆來り集りたるが兵士は多くして諸大將がなきゆへ

一同の者が相談し劉氏の人を立て、人民の望みに協へんとせしに下江の大將なる王常の劉績を立てんと思ひしも新市と平林との大將は劉績は威勢強く賢明なるを恐れ愚昧なる者を立て、自由になんとう更始を立て、天子とし劉績を立て、大司馬とし劉秀を將軍とせり、劉秀は昆陽と定陵と郟との三縣を説き廻りて皆我が手に入れたり、此時王莽は王邑と王尋との二人は大兵を起して山東を征伐させ、大男なる巨無霸と云ふ者を、最尉と云ふ役とし、虎豹犀象などの猛獸を驅り集めて兵勢の助けとし、捷軍勢は百餘万と云ひ、大旗小旗は千里の間も絶へ間なく見へたり、因て漢の諸將は餘り王莽の兵勢の盛大なるを見て皆走て昆陽に逃げ込み、一時皆逃げ散らんとせしに劉秀は郟定陵に至りて悉く諸將の兵を集め、自分が歩兵騎兵千餘人の大將となりて、手となりて進み、たれば王莽王邑の兵數千を遣りて合戦させしかば、秀は打破り首を切ることを五六十年なり、此時諸大將はさて劉將軍は平日は小勢の敵を見るも臆病なるに今は大軍の敵を見て勇み進むとは甚だ不思議なりと云へり、さて彼の王莽王邑の兵は退きたれば、諸部ハ兵の付け込みて打ち續きに勝ちて夫れより進み、たれば御方の一人ハ敵の百人に當らぬことはなかりき、又劉秀は決死の者共三千人と敵の木陣を打ち、たれば王莽王邑の陣は亂れしに漢兵はすかさず御方の勝に乗りて打ち崩し、とうとう王莽を昆陽にて殺せり、此時城を守る者も亦太鼓を打ち、時の聲を上げて打て出で、中と外より勢を合せ呼び叫ぶ聲は恰も天地をも動かす計りなれば、王莽の軍勢ハ大ひに崩れ逃ける者が相互ひに踏み合ひ倒れたる屍骸は百餘里の間に續きたり、丁度又大雷大風にて、屋根の瓦も皆飛び雨の降ること、は水を傾けるが様なれば、虎豹も皆股振はせて恐れ縮めり、此時敵兵の灌川にて溺れ死したる者も万を以て數ふる程なり、さて關中は此事を聞て、振ひ恐れ、又天下の聲は響の聲に從ふ如く、我れも我れも王莽の地方官を殺し、自分にて將軍と云ひ、漢の年號を用ゆること、備か旬月の中に天下に行渡り、又劉績兄弟の威光と名譽とは日々に盛んになり、たれば新市平林の大將は心に思ひ、内々二人を殺すことを更始に勸めり、又劉績の下大將に劉縯と云ふ者あり、劉縯の皇帝とならぬことを立腹し、更始を罵り、たれば更始は劉縯を捕へて殺せり、縯は其無罪を云ひ争ひ、たれば縯をも共に殺せり、此時劉秀は押て屈服をも受けず、飲食談笑すること平生の通りにて、只寢室なる枕と席との間に涙の跡ありしと云ふ、因て更始も心に耻ぢ、劉秀を大將軍に進め、武信侯に封じ、何程も立たぬ内に、大司馬の事を行はせ、河北の土地を論し下しにやりたり、劉秀は到る處にて王莽の苛酷なる政事を取消したり、さて南陽なる人にて、鄧禹と云ふ者は、馬に鞭打て劉秀の跡を追ひ、鄧と云ふ處にて追付きたれば、劉秀は我れは人を役付させざることを專斷することが出来るか、若くは遠く來るは役付せんと思ふか、と云ふ、云へば鄧禹は役付させぬことなり、只願ふ所は君權の威光と恩徳とが四海の中に、行渡り、私も一尺一寸程の手柄をなし、其手柄の名譽を歴史に残さんとすることなり、さて更始は常並みの才にて、帝王となるは實に大事業なれば、中々更始の出來ることには、あらず、君權の英雄を引き込み、成るべく、人民の心を喜ばせ、漢の高帝を立て、万民の生命を救はるゝに越すことなし、去れば天下は定むるまでもなく、實に容易なることなり、と云へば劉秀は大ひに喜び、夫れより鄧禹を常に水陣の中に止宿させ、一處に計畧の評定をなしたり。

邯鄲卜者玉郎詐稱成帝子子輿入邯鄲稱帝、徇下幽冀州

郡響應。秀北徇薊。上谷太守耿況、子弇、馳至。盧奴上謁。秀曰：是我北道主人也。薊城反應。王郎秀趣出城。晨夜南馳。至蕪蕪亭。馮異上豆粥。至饒陽。乏食。至下曲陽。聞王郎兵在後。至薄沱河。候吏還白：河水流澌。無船不可濟。秀使王霸視之。霸恐驚衆。還即詭曰：水堅可渡。遂前至河。水亦合。乃渡。未畢。數騎而冰解。至南宮。遇大風雨。入道傍空舍。馮異抱薪。鄧禹爇火。秀對竈燎衣。異復進麥飯。至下博城。西惶惑不知所之。有白衣老人指曰：努力。信都爲長安城守。去此八十里。秀即馳赴之。時郡縣皆時降。王郎獨信都太守任光和戎太守邳彤不肯。光出聞秀至大喜。彤亦來會。發旁縣得精兵。移檄討王郎。郡縣還復響應。秀引兵拔廣阿。披輿地圖。指示鄧禹曰：天下郡縣如是。今始得其一。子前言不足定。何也。禹曰：方今海內殺亂。人思明君。猶赤子慕慈母。古之興者在德厚薄。不在大小也。耿弇以上谷漁陽兵。行定郡縣。會秀於廣阿。進拔邯鄲。斬王郎。得吏民與郎交書數十章。秀會諸將。燒之曰：令反側子自安。秀部分吏卒。皆言願屬大樹將軍。謂馮異也。爲人謙退。不伐。諸將每論功。異常獨屏樹下。故有此號。更始遣使立秀爲蕭王。令罷兵。耿弇說王。辭以

河北未平不就徵王擊銅馬諸賊悉破降之諸將未信降者降者亦不自安王敕各歸營勒兵自乘輕騎案行諸部降者相語曰蕭王推赤心置人腹中安得不效死乎悉以分配諸將南徇河內赤眉西攻長安王遣將軍鄧禹等兵入關禹薦寇恂文武備具有牧民御衆之才使守河內王自引兵徇燕趙擊尤來大槍等諸賊盡破之王還至中山諸將上尊號不許至南平棘固請又不許耿純曰士大夫捐親戚棄土壤從大王於矢石之間固望攀龍附鳳翼以成其所志耳今留時逆衆恐望絕計窮則有去歸之思大衆一散難可復合馮異亦言宜從衆議會儒生強華自關中奉赤伏符來曰劉秀發兵捕無道四夷雲集龍圖野四七之際火爲主群臣困復請乃卽皇帝位于鄴南改元建武（講義）（衆皆侯吏）物見（流漸）冰とけて流るゝなり（燕）焚くなり（白衣老人）是れ亦神仙の標に飾り書きたるなり（努力）勉強（形）音ゆう（楸）木の札にて軍閥を著きたるもの（反側子）反復する者（伐）誇るなり（勅）捕へ止めること（案行）調へに行くこと（成民）民を育てるまど（御衆）大衆を治め使ふこと（赤伏符）赤きみくじの類にて乃ち漢は赤色を尊ぶゆへなりさて此赤符の文の丸で休をなすす實に小兒の戯れのみ今試みに云はんに七字の句三句にて斯る法なし又句の下に韻字を用いず是れ文休の二失なり次に文意を云はんに第一句は劉秀が兵を起して無道なる者を捕ふとなり是れ未來記にあらす既往記にして又劉秀と明白に書せり是れ等の未來記の休をなすす第二句は四方の夷が雲の様に集り龍が野原にて合戦するとなり當時四夷の關係なく又龍の合戦は鳥の文字にて龍圖野其血を流して禍の小より大になるものを云ひし言葉にて假りに戦乱のこととすれば元より未來記にあらす王莽が位を奪ひしより戦亂は繼續せり故に此句も既往記なり第三句は四七の際に火が主となるとなり四七は二十八にて劉秀が兵を起せしは二十八日と云

へば未來記にあらす又二十八は劉秀の二十八將なりと云へば際の際の字が解けず又四七の間の五六を取り乘して二十を得るも劉秀の即位は年三十一なり是れ亦當らず故に此の四七の際の四字は全く無用物とす火爲主の火徳なる漢が天子となること云ふまでにて照應もなく人にへつらうの生質ある者はいつも云へることなり故に此二十一字は實に取る所一字もなしさて是を考ふるに劉秀の子孫家臣が作りて天命を受けて天子となりたるの證據にせるものと見れば餘り下手過ぎゆへ是れハ當時の無學なる書生が利益を得んとて斯る物を書きて劉秀に媚びたるを大増らしく記（講義） 茲に邯鄲なる古の都なりと云ふ兵を起して邯鄲の城に入り自分にて天録に書き載せて殘せしものならん見苦し見苦し（都）音かく（講義）なる子與なりと云ふ兵を起して邯鄲の城に入り自分にて天子となり幽州冀州を論じ下したれば近傍の州郡は實に成帝の子なりと思ひ尋の聲に従ふ様に王郎に御方せり此時劉秀は北の方なる藺縣を説き廻りしに上谷太守なる耿況の子なる兪と云ふ者が馳せて盧奴と云ふ處に至り面謁を乞ひたれば劉秀は大に喜び是れは我が爲めに北に入る道案内者と云へり然るに藺縣は劉秀に叛きて王郎に御方せしかば劉秀は乗物を備へて城を出て夜を日に繼いで南に馳せ饒陽の北の端の宿場なる蕪蕪亭にまで至れり然るに空腹になりたれば主簿なる馮異が豆のかゆを進めたり夫れより饒陽縣に入りしが食物乏しく従ふ人々も大に困難せり又下曲陽縣に至りたるは王郎の兵は饒陽の方に入りと聞き津陽と云ふ大河まで來れり然るに物見の者は歸り來り河の水は冰解けに氷と一處に流れ居り船なくは渡ること出來すと云へば劉秀は王郎に云ひ付け今一度駕を見届け來れと云へば王郎は河岸に至りしに如何にも物見の云ひし通りなりし然れども實を云へば衆人を驚かさんことを心配せしゆへそこて引返し歸りて氷は固く張り詰めたれば渡るに十分なりと云へり因て劉秀は進んで河岸に至りたるに氷も丁度張り詰めたればそこで渡りしが後陣數騎が渡り終らぬとき氷は又解けたりと此事甚だ奇異なり或る人の劉秀が王郎を見せにやりしは渡れると詐はれと云ふ心にてやりたるなり夫れは河手前にて王郎に追ひ打たれば到底支へられぬゆへ河岸に至り若し追ひ打たば韓信が背水の陣に習ひ決死の戦ひをなさんとの爲めなりしが王郎も茲に心付きて詐りたるなり然るに天は劉秀の爲めに氷を張りしゆへ劉秀が渡れば直きに跡より解け王郎の渡れぬ様にせしなりと云ふ是れは感心出來ぬことなりさて劉秀は河を渡り信都郡なる南宮縣に至りしが大風雨に出逢ひしゆへ道はたの明き家に入りたれば馮異は柴を抱へ來り鄧禹は火をもやせば劉秀は釜戸に向ひ濡れたる衣服をあふれり此時馮異は又麥飯を進めり一脱に此麥飯には鴨の肉を添へ器物なきゆへ一處に逃の葉に盛りたりと云ふ此豆の粥と麥の飯は後に又出づるゆへ丁寧な書き注意を引き置くなりさて夫れより邯鄲なる下博城の西に至りしが人々皆恐れ惑ひ行くべき方向を知らず只ばんやりとなりたるとき白き衣服を着たる老人がありて努力せよ信都は長安なる更始の爲めに城を守れり信都城は此より只八十里なりと信都の方を指さして云ひたれば最早十三里餘なれば人々も勇み立ち夫れより劉秀は直ぐに馳せて赴きたり此時諸郡縣は皆已に王郎に下りしが只獨り信都の太守なる任光は利戎の太守なる孫彤との二人は降るを承知せざりし任光は外に出でたるが劉秀が來ると聞き大に喜び孫彤も亦來り集まりたれば近傍の縣々を慕りて兵を手に入れたれば軍閥を移して王郎を征伐せしかば邯鄲は又々雲の聲に歸服せり因て劉秀は兵を引寄せ連れて廣阿を

攻め取りたりきて劉秀ハ全國の地圖を開き鄧禹に見せ天下の郡縣は此通り多きが今やつと其一を手に入れたり其方は先きに天下は定むるまでもなしと云ひしは如何なることやと云へば鄧禹は方今は海内は大いに乱れ人々は皆賢明なる主君を得んと思ふことは丁度赤子が慈母なる母親を慕ふ様なれば實に天下を定むるに容易なる時なり其上古の大業を立てたる人を見るに恩徳の厚きと薄きとにありて其土地の大なると小なるとにあらざれば君も恩徳を施し天下の人望を取られよと云へり此時耿弇は上谷と滎陽との兵を従へて遂に郡縣を定め廣阿に來り劉秀に加はりたり夫れより進んで邯鄲を攻め取り王郎を切れり此時耿弇は上谷と滎陽との兵を送り通したる書面數十通を手に入れたれば劉秀は諸大將を集めて其目の前にて燒き捨て叛き従ふことの定まらぬ者共を安心させるなりと云へば昔々の劉秀の胸の廣きに感心せりさて劉秀が役人兵卒を手分けする時は皆々は大樹將軍に從ひたりと云へり大樹將軍とは馮異のことなり全体馮異の生れ付きは謙遜にして遠慮深く手柄に誇ることなく諸大將が互ひに手柄を論し云ふことあれば馮異はいつも獨り大なる樹の下に退き避け自分の手柄手柄を云ふことなきゆへ大樹と云ふ名目が付きたりさて此時更始は使者を以て劉秀を蕭王となし兵を止めて行在所に召したれば耿弇は劉秀に就き王は河北の土地がまだ平定せぬを云ひ立て召を辭退せよと云へり劉秀は召に従はず夫れより銅馬と云ふ諸賊を征伐し悉く破りて降参させたり然るに諸大將はまだ降れる者を信ぜず又降る者も安心せざりしかば劉秀は命令し降りたる者は夫れ夫れ陣處に歸り兵卒を捕へさせさて劉秀は自分が騎馬にて降りたる者の陣々を調へに廻りたれば降参せし者共は相互にさて蕭王は新たに降りたる我々が兵を捕へ居る處へ兵隊をも連れず輕々と敷く立ち入り殺さは殺せと云ふ諒なり是れが蕭王自分が人を疑はぬの真心を他人の腹の中へ押し入れらるゝと云ふものなり何とて我れ我れは斯る人の爲めに一命を差し出さず濟むものかと云へり劉秀は夫れより降参人を悉く諸將の手に分配し南なる河内の地を尙へしが此時赤眉は西の方長安を攻めしゆへ劉秀は將軍鄧禹などの兵を遣り關中に入らせり時に鄧禹は寇恂と云ふ者を薦舉せり此寇恂は文武の才能備はり人民を育ひ衆人を治め使ふの才あれば河内の土地を守らせ劉秀は自分にて兵を引きて進んで蕭趙の國を尙へ下し尤來大槍と云ふ諸賊を打て悉く破り歸りて中山と云ふ處に至りしが諸將は皇帝の尊號を奉りしが劉秀は許さず又南平棘に至りたる時諸將は固く皇帝の位に上るを請ひしる劉秀は聞入れざりし因て耿純と云ふ者が進み出て乃今士大夫が自分の親戚を見捨て自分の田地を捨て矢や石の飛び來る危ふき戰場にて大王に從ひ居るハ元より龍の鱗に取り付き風の羽に取り付く様に大王の御影にて自分の志す所の手柄を立て望む所の恩賞を受けんと願ふなり然るに今此時を止め衆人の心に遠はれば恐らくは人々の望みも絶へ計も窮まれば立去り歸るの心を起さんさて大衆が一たび散すれば又合はすに困難なりと云へり馮異も亦衆議に従ふが宜しと云へり此時丁度生なる強華と云ふ者が關中より來り赤色なる伏符を差し上げたり其言葉は劉秀が兵を起して不道なる者を捕へ四夷が驚の如く集りて龍が野に合戦し四七の間に火が主となると云へり因て群臣ハ又即位を請ひたればそこで鄧縣の南にて彌上皇帝の位に上り更には年號を改元して建武と云へり

○赤眉樊崇等立宗室劉盆子爲帝年十五時在

軍中主牧羊被髮徒跣敝衣赭汗見衆拜恐畏欲啼○賊入長安更始走帝下詔封爲淮陽王○宛人卓茂嘗爲密令教化大行道不拾遺上即位先訪求茂以爲太傅封褒德侯○車駕入洛陽遂都之關中未定鄧禹引衆而西號百萬所至停車駐節勞來百姓垂髻載白滿車下名震關西至枸邑久不進兵赤眉大掠而出禹乃入長安赤眉復入禹戰不利走徵還京師遣馮異入關禹慚無功要異共攻赤眉大戰於回溪敗績收散卒堅壁已而大破赤眉於峭底璽書勞異曰始雖垂翅回溪終能奮翼澠池可謂失之東隅收之桑榆赤眉餘衆東向宜陽上勒軍待之樊崇以劉盆子丞相徐宣等肉袒降上陳軍馬令盆子君臣觀之謂曰得無悔降乎宣叩頭曰去虎口歸慈母誠歡誠喜無限上曰卿所謂鐵中錚錚庸中佼佼者也各賜田宅○睢陽人斬劉永降劉永在更始時立爲梁王更始亡永稱帝至是敗○漁陽太守彭寵奴斬寵以降初上討王郎寵發突騎轉糧不絕自負其功意望甚高不能滿幽州牧朱浮與書曰遼東有豕生子白頭將獻之道遇群豕皆白以子之功論於朝廷遼東豕也上徵寵寵自疑遂反至是敗○劉永所立齊王張

に仕立て見へる處の阿耳計りを十分に能くして見へぬ處は疎未なるを云ふ(東方)洛陽(維)洛に同じ(殷)殷の左右の邊處のこと(岸)高き髪包み(陛)殿陛の下に戈を持つ衛兵を置くこと(盜)盜名(帝)帝號を盗み付けること(侯)侯大にしてさつぱりしたること(同符)符を合はす加く同じこと(行在)天子の宮處(指)指し示し計を定むること(徑)徑小路(道)道(病)病(餓)餓をやんで讀む(病)病(氣)氣の上(餓)餓へての意(建武)建武本段中に建武八年と建武九年との句あり二ヶ處とも建武の字を削り去るべし夫れは即位元年の處に改元建武の(講義)扱て赤眉の樊崇などは漢の一族なる齊王の肥の後なる劉盆子を立て、帝となせり年は十五にて時に軍中句われはなり(講義)に置きて羊を飼ふことを司らせたるが髪はふり乱しかちたしにて破れたる衣服を付け顔赤らめて汗を流し衆人の拜禮するを見て恐れ縮みて泣かんせり此時赤眉は長安に入りたれば更始は逃げ走り因て帝は詔を下し更始を淮陽王に封せり宛の人にて卓茂と云ふ者は以前に密縣の令となり教へ導く所の政治が大ひに行はれ人民も道に落ちたる物をも拾ひぬ陳になりたり帝は位に即き先づ卓茂を訪ひ求めて太傅となし襄陽侯に封せり此年帝は洛陽に入りとうとう茲に都を定めり因て東漢と云ふなりさて關中はまだ平定せぬゆへ鄧禹が軍を引て西に向ひ總勢百万と號し至る處に軍を止め旗節を止めて百姓を慰め招きたれば老弱は鄧禹の軍の下に集り鄧禹の名は關西の地に振ひ渡れり夫れより栢邑と云ふ處に至り久しく軍を進めざりしが赤眉は大ひに人民を掠めて財物を擄奪し長安を出てたれば鄧禹はそこで長安に入りしに赤眉は又入り來り大ひに戦ひ鄧禹は利あらずして逃げ走れり因て帝は京都へ召し返し馮異を遣りて關中に入らせり鄧禹は手柄なきを耻ぢ馮異を待ち受け一處に赤眉を攻め大ひに回溪にて戦ひ又破れたる因て敗軍を集めて堅く城を守れり其後大ひに赤眉を脅威にて破れり此時帝は御印のある賞狀を賜はり始めに翼を回溪にて垂れたるもとうとう能く翼を滝池にて振ひ上げたり是れ東の隅にて失ひし物を西の端にて取り入れたりと云はれること、云へりさて赤眉の餘衆は東の方宜陽に向ひたれば帝の軍勢を揃へ止めて待ち受けたれば樊崇は劉盆子及び丞相を後悔するもと云へば徐宣は頭を以て地を叩き否を否な危き虎の口を去て悲愴なる母に従ひ此上もなき喜びなりと云へば帝はさて君は鉄の中の堅きもの庸人中の好き人物なりと云ひ夫れ夫れに田地を屋敷を賜へり此年睢陽の人なる慶童と云ふ者は劉永を切りて降参せり此劉永は更始の時にて於て立て梁王と爲り更始亡びて劉永は帝と稱したるが茲に至りて亡びたり又滎陽の太守なる彭寵の下部が彭寵を切りて降参せり是れより以前帝が王郎を征伐せんとし彭寵は衝突騎兵を出し又兵糧を運送して絶へざりしが自分にて其手柄を手頼りにし望み甚だ高く容易に満足せざれば幽州の牧なる朱浮と云ふ者が書面をやりさて遠東に乘ありて白き頭の子を生みたれば是れは珍敷とて献上せしと思ひ都を向ひしが途中にて多くの家に従ふに皆白き頭なりし故献上を止め立歸れりさて君の手柄を朝廷の上にて計り云へば丁度遠東の家様のものにて君は大なる手柄と思ふも外に比べ見れば格別のおとなしと云へり其後帝は彭寵を召したるに彭寵は自分にて罪を恐れ疑の心を起しとうとう謀反せしが是に至りて亡びたり又劉永が立てたる齊王の張歩は降参せり是れより以前に帝は張歩を以て東萊の太守とせしが其後劉永の命を受けて齊王となれり因

て將軍なる耿种は度々合戦して大ひに齊を破り祝阿と齊南と臨淄とを抜き取れり帝は臨淄に至り軍勢を慰問し且つ耿种に向ひ將軍が以前南陽にありて齊を打つの策を立てしが我れは其時此計は大ひにして容易に都合よく行き難きと思ひしが將軍は其計を通りしとげたり實に志ある者は格別にて大事も成就することなりと云へりさて張歩が敗れ降りたれば齊の地は丸で平ぎたり又將軍なる吳漢などは劉永が立てたる處の海西王の蓋及及び謀反せし大將軍なる龐參などを打ち破り江淮山東の土地は悉く平らぎたり此時只隗囂と公孫述の二人がまだ平らからざりし然るに帝は多年戰場にて辛苦を積みたるゆへ此上又軍を起すを好まず因て諸大將に向ひ暫く隗囂公孫述の二人を法度の外に置くべきこと、云へりさて馮異は關中を平定し此時入朝したれば帝は公卿に向ひ是れ我が軍を起せしときの主簿なり我が爲めに赤眉の賊を平らげ關中を定めし大功ありと云ひ又詔して馮異を慰勞し先きに戰亂急場の時燕蓋亭にて豆の粥を進め津龍河にて麥の飯を進め我が飢餓を救ひし厚意は久しく返禮せざりしとて多く珍寶を賜へり同じ八年に帝は自分が大將となりて隗囂を征伐せしに丁度潁川郡に群盜が起りたれば帝は引返し執金吾なる寇恂に向ひ潁川の京都に接近せり實に大切なる場所なれば我れが思ふに此盜を平定するは只君計りならん故に君は九卿より出で、太守となるも苦しからずは往て此盜を平らげよと云へば恂は天子の親征を勧めしにより帝は其言葉に従ひたれば盜賊は悉く降参せり因て寇恂は太守に拜命せし帝は從ひ歸りしに人民共道に先き廻りして何卒一年間寇君を拜借せんと願ひたれば帝はそこで寇恂を留めて地方を鎮め治めさせ大軍は合戦にも及ばずして京都に歸り同じ八年に隗囂が死したる隗囂は更始の初年より軍を起し建武の初めに至り天水と云ふ處に擁護り自分にて西州の上將軍と稱せり其後或る時馬援と云ふ者を對の成都にやり公孫述の様子を見させたり馬援と公孫述とは元より舊交ありければ馬援が思ふに此度往きたれば互に手を握り平生の如くに親密ならんと云ひしに此時公孫述は帝と稱せしより四年目に馬援が來りたれば先づ盛んに殿前に衛兵を陳列して後に馬援を引き入れたれば馬援は隨行員に向ひ天下の勝負はまだ定まらぬに公孫述は含み物を吐く様にして名士を迎へず反て上はへのみを飾り其意かさし人形を見る様なり斯ることにては何として天下の士を久しく引付け止め置くこと出来んやと云ひさて暇乞ひして歸り隗囂に向ひ公孫子陽は井戸の中の蛙と云へば隗囂はそこで馬援に書面を持たせ洛陽に遣りたりさて馬援が初めて來りしときや、久しくして引き入れ帝の廻廊の下より冠をも着けず只高き髪包をなし笑ひを含みて出て迎へさて君は隗囂公孫述二帝の間に往復すると聞けり今君を見るに我心に耻敷く思ふなりと云へば馬援は拜伏し當今只君が名臣を撰ばるゝばかりならず臣も亦名臣を撰べり私に公孫述とは同縣の生れに今少年の時は親密なる交りせしが私が先きに蜀の成都に往きしとき公孫述は殿前の衛兵を備へて後に私を引き入れたるに今私に遠くより來りたるに陛下は何として暗殺せんとする惡人ならずと知り斯く手懸にせらるゝや實に賢明の程恐れ入りたりと云へば帝は笑ひ君の暗殺者にはならずして辯舌を以て人を論ず者ならんと思へりと云へり馬援は今や天下は反覆混亂し帝王の號を盜み付ける者數へられぬ程あり此度陛下を見るに御心さつざりとして廣く實に高帝と同一なりとて帝王には自然と備はる眞徳あり

と云ふことを知りて云へりさて馬援は國に歸りたれば隗囂は東方の様子を問ひしに馬援は帝の才明らかに勇著ありて中々世の人の敵對出来る人にあらず其上心を開き誠をあらはし少しも隠し持つ所なく心廣く智達して大ひなる氣立てあることは大休高祖と同様にして又廣く先聖の道を學び政事上の文章辯舌あることは實に前代に比較する者なしと云へば隗囂は去れば君は高帝に比べい如何んと思へるやと云へば馬援は夫れは高帝には及ぶまじ其跡は高帝は好き所もなく好む所もなく一段勝れたる今上帝の政務を好み動作は法度に合ひ又酒を飲むを好まずと云へば隗囂は心に喜ばず君の云ふ様なれば却て高帝に勝るならんと云ひ夫れより長子の恟と云へるを遣り人質の様に帝の左右に差置けり此時馬援も恟と共に京都に至れり然るに何程もなく隗囂は又叛き或る時班彪と云ふ者に戰國時代に大名が合從連衡せし事を問ひ今日も此法を行はんと思ひしに班彪は王命論と云ふ文を作り帝王となるは丁度天の命する所ありて中々人力にて帝王となる事の出来ぬことを述べたれどなく異見せしも隗囂は聞入れざりし此時帝は京都を出でたれば馬援は行在所に至りたるに帝は馬援に云ひ付けて隗囂を討させ其ついでに自分にて書面を隗囂に賜ひ歸順を勧められしも隗囂はつまり公孫述に服従せしかば公孫述は大いに喜び隗囂を朔寧王となせり是に於て帝は彌よ隗囂を征伐せり此時馬援は帝の前にて米を以て蜀の山谷の形を指し示し又軍勢の進むべき大路小路をも示し見せたらば帝は之を見て敵は我目の中にありと云ひ夫れより軍勢を進め攻めたれば隗囂は支ふることもならず西城と云ふ處に出奔し病氣に掛り其上賊へて憤をりて死去し其子なる純は降参し隗右の地を悉く平ぎたり

○十二年公孫述亡述茂陵人自更始時據蜀稱帝國號成上既平隴右曰人苦不自足既得隴復望蜀遣大司馬吳漢等將兵會征南大將軍岑彭伐蜀彭在荊門裝戰船漢欲罷之彭不可上報彭曰大司馬習用步騎不曉水戰荊門之事一惟征南公爲重而已彭戰船並進所向無前述使盜刺殺彭吳漢繼進至成都擊殺述蜀地悉平○涼州牧竇融率河西武威張掖酒泉燉煌金城五郡太守入朝融自建武初據河西後遣使奉書上以爲牧賜璽書曰議者必有任鸞教尉佗制七郡之計書至河西皆驚以爲天子明見萬里之外上

征隗囂融率五郡兵與大軍會蜀平奉詔歸朝拜冀州牧○十八年代王盧芳死於匈奴芳安定人詐稱武帝曾孫劉文伯自建武初據安定匈奴迎之立爲漢帝數爲邊郡寇患後來降王子代復反奔匈奴以病死○二十二年匈奴求和親上遣使許之自呼韓邪單于死子成帝時其後累世皆仕漢平帝時王莽頒條於匈奴謂中國無二名諷單于改名莽篡漢易漢所賜單于璽曰章單于怨恨數寇邊建武以來匈奴助盧芳寇漢後又數與烏桓鮮卑連兵入寇至是始請和○西域請都護不許遂附於匈奴先是莎車王賢鄯善王安皆遣使奉獻賢使再至上賜賢都護印綬邊郡守上言不可假以大權詔收還更賜大將軍印賢恨猶詐稱大都護諸國悉服屬賢賢驕橫欲兼并西域諸國懼凡十八國遣子入侍願得漢都護上厚賜遣還其侍子至是復請上復卻之○二十四年匈奴南邊八部立日逐王比爲南單于款漢塞內附於是分爲南北匈奴○二十五年朔人鮮卑烏桓並入朝○二十六年立南單于庭置使匈奴中郎將以領之徙南單于居西河美稷○二十七年匈奴亦遣使求和親明年又請許之(字解)

(考)音しん(爲重)しつの意(任鸞教尉佗)秦の二世のとき南海の尉任鸞が死するととき龍川の令趙佗に教へ自立

をさせたること(七郡)南海と桂林と蒼梧と合浦と交趾と九真と日南となり(頌條)條例を頒布するを云ふ(二名)二字名にて平帝が
 箕子と云ふ名を符と改めしより云ひしなり(改名)單干の名は義知牙斯なるを知と改めしこと(都護)總督する職とす(十八國)詳ら
 ず(講義)同じ十二年に公孫述は亡びたり公孫述ハ茂陵の人にて更始の時より蜀に稱して帝と稱し國を成と號せり帝は最
 もの云ひ大司馬なる吳漢をやり兵を引き連れて征南大將軍なる岑彭と會同して蜀を征伐させたり岑彭は荊門にありて
 戰鬪船を仕度せり然るに吳漢は船軍を止めんとせしに岑彭ハ開き入れず上書して差圖を乞ひたれば帝は岑彭に指令し大司馬吳漢
 は歩兵騎兵を用ゆることにたれたれども水上の合戦は知らぬことなり此度荊門の戦は征南公なる岑彭を主任者とするに由り見
 込通りたせよと云へりさて岑彭の戰鬪船は並び進みたれば前ふ所敵する者なかり然るに公孫述は大いに恐れしより暗殺者を出
 し岑彭を殺したり因て吳漢なほは繼て進み成都に入り公孫述を打ち殺し蜀の地は全く平らぎたり此年涼州の牧なる竇融と云ふ
 者は河西の武威と張掖と酒泉と燉煌と金城との五郡の太守を引き連れて入朝せり竇融は建武の初めより河西の地に稱ししが其
 後使者を立て、上書したれば帝は涼州の牧となし又書書を賜ひ君の爲めに計る者は屹度古の任賢が尉佗に教へて七郡を以て自立
 せし企てを勤めしならんと云へりさて叔苴を見て河西の人々は皆驚きさて天子の明眼は万里の外をも明らかに見抜くかと思れ入
 りたり其後帝が陳豨を征伐せらるゝ時竇融は五郡の兵を引き連れて加勢に來れり蜀平らぎて後詔を受けて朝廷に來りたれば改め
 て冀州の牧に拜せられたり同じ十八年に代王なる盧芳は匈奴にて死去せり盧芳は安定の人なるが詐て武帝の曾孫なる劉文伯なり
 と云ひ建武の初めより安定に稱し居たりたれば匈奴は迎へ立て、漢帝となし度々國端の諸郡を攻め國の憂をせり其後降参せしゆへ代
 州の王とせしが又疾ひて匈奴に出奔しとうとう病死せり同じ二十二年に匈奴ハ和親を求めたれば帝は使者をやりて許せりさて呼
 韓單干が成帝の時、死去せしより其後代々漢の帝位を續取りせしとも氣て漢より賜ひありし單干の印璽を奪へて奪と云ひ
 れとなしに云ひ論し名を改めさせたり其後王莽が漢の帝位を續取りせしとも氣て漢より賜ひありし單干の印璽を奪へて奪と云ひ
 されば單干ハ大いに怒みたれより度々邊郡を攻めたり又建武以來匈奴は盧芳を助けて漢を攻め後又度々烏桓鮮卑などの東の事と
 兵を合せて攻め寄せたるが此時に至りて和親を乞へり又西域は漢の都護の役を受けんと乞ひたるも許されざるよりとうとう匈奴
 に從へり是れより以前に莎車王なる賢と鄯善王なる安とは皆使者を以て方物を献上し賢の使者が二度目に來りたるとき帝は賢に
 都護の印綬を賜はりたり然るに國端の諸郡の太守が上書し都護の如き大權を乞へては宜しからずと云ひたれば詔して召し上
 げ改めて大將軍の印を賜はりしに賢は怒み矢張り大都護と詐り云ひたれば西域の諸國は悉く賢に服從せり賢は是より高振り我儘
 になり西域の國々を合せ取らんとせしゆへ諸國ハ大に恐れ繞て十八ヶ國は子を朝廷に差し出し何卒漢の都護の役を受んと願ひた
 るも帝は許されず厚く物を賜ひて差し出したる子を返しやれり然るに此時に至り又願ひしも帝ハ許されざりき同じ二十四年に匈
 奴の南手の八部落は日逐王なる比を立て、南單干となし漢の塞門に來りて内附を願へり是に於て匈奴ハ分れて南北となれり同じ

一十五年に匈奴の人と鮮卑と烏桓との王は並びに入朝せり同じ二十六年に南單干の王庭を立て使匈奴中郎將と云ふ役を置きて管轄
 させ、單干を移して西河なる美稜と云ふ處に居らせたり同じ二十七年に北匈奴も亦使者を以て和親を願ひ又明年に至り再び乞ひ
 たりば是れを許されたり

○中元二年。上崩。上起兵時。年二十八。即位。年三十一。第五倫
 每讀詔書。歎曰。此聖主也。一見決矣。手書賜方國。一札十行。細書成文。
 明慎政體。總攬權綱。量時度力。舉無過事。嘗幸南陽。置酒會宗室。諸母
 相與語曰。文叔平日與人。不款曲。惟直柔耳。乃能如此。上聞之。笑曰。吾
 理天下。亦欲以柔道行之。上在兵間。久厭武事。蜀平後。非警急。未嘗言
 軍旅。北匈奴衰困。減宮馬武。上書請攻滅之。鳴劍抵掌。馳志於伊吾之
 北矣。上報書。告以黃石公包桑記曰。柔能勝剛。弱能勝強。自是諸將莫
 敢言兵。閉玉門關。謝絕西域。保全功臣。不復任以兵事。皆以列侯就第。
 以吏事責三公。亦不以功臣任吏事。諸將皆以功名自終。祭遵先死。上
 念之不已。來歙岑彭死。鋒鏑。卹之甚厚。吳漢賈復。終於帝世。漢在軍。或
 戰不利。意氣自若。上歎曰。吳公差強人意。隱若一敵國矣。每出師。朝受
 詔。夕就道。及卒。上臨問。所欲言。漢曰。臣愚願陛下慎無赦而已。復自起
 兵時。爲督。上曰。賈督有折衝千里之威。嘗戰被傷。上驚曰。吾嘗戒其輕

敵果然失吾名將聞其婦有孕生子邪我女嫁之生女邪我子娶之其
 撫群臣每如此惟馬援死之日恩意頗不終焉援嘗曰大丈夫當以馬
 革裹屍安能死兒女手交趾反援以伏波將軍討平之武陵蠻反援又
 請行帝愍其老援被甲上馬據鞍顧盼以示可用上笑曰嬰鑠哉是翁
 乃遣之先是上婿梁松嘗候援拜牀下援自以交友不答松不平援在
 交趾嘗遣書戒其兄子曰吾欲汝曹聞人過如聞父母名耳可聞口不
 可言好議論人長短是非政法不願子孫有此行也龍伯高敦厚周慎
 謙約節儉吾愛之重之願汝曹效之杜季良豪俠好義憂人之憂樂人
 之樂父喪致客數郡畢至吾愛之重之不願汝曹效之也效伯高不得
 猶爲謹敕之士所謂刻鵠不成尚類鶩也效季良不得陷爲天下輕薄
 子所謂畫虎不成反類狗也季良者杜保保仇人上書告保以援書爲
 證保坐免官松坐與保游幾得罪愈恨援至是援軍至壺頭不利卒軍
 中松構陷之收新息侯印綬援前在交趾常餌薏苡以輕身勝瘴氣軍
 還載之一車後有追譖之者以爲明珠文犀上益怒得朱勃上書訟其
 冤乃稍解〔字解〕(第五倫第五姓以倫名也(總攬)すべし(文叔)帝の字(歌曲)人と交るに殊に取らな
 すこと(黃石公)張良の師(包桑記)書の篇名(郎)恤なりわはれむなり(自若)平氣なること(送)や

なり大分なり(隱)さかんなり(折衝)敵を挫くこと(顧盼)盼音へん二字にてふりむくこと(嬰鑠)音くわく若て盛なること(父母名)君主父母の實名を呼ぶ音くときは罪あり(誦敕)敕は飭なりいましめつゝしむこと(鵠)音こく雁に似て大なり(鶩)音はくわひる(意)以音よくい鳩多なり念珠玉なり近時肺病の新藥と云ふ(遊氣)山川の邪氣(文犀)犀角の輪正しきものにて尤も貴重なるもの(講義)中元二年に帝は死去せり帝は兵を起せしときは年二十八にて帝位に上りしときは年三十一なり第五倫と云ふ者が詔を拜讀する毎に感服し實に聖天子なり若し一度進見することを得ば屹度我が説を入れらるゝことは決定なりと云ひしが其後進見して會稽の太守に上げられたり帝の手書にして四方の王國に賜ふに一枚に十行程に細く書し文章をなせり大休政事上の事に付き明らかに懐み朝廷の大機を総べ取り時勢と實力とを計り比べて事を行はるゝゆへ事業をするに一一として過失なかりし又或る時南陽に行幸せしとき酒宴を設けて皇族を集めたるに此時諸の叔母は相共に物語り全体文叔は平日より人と交るに格別の取り成をもせず只正直柔和なる計りなりしが今却て斯く天子となりたるは意外の事なりと云へば帝は此言葉を聞き笑ひながら我れは天下を治ふるにも矢張り柔和の道を以て行はんと思ふなりと云へり帝は久しく兵馬の間はありて軍事を厭ひたれば威宮己に平らぎてより後は國端の急場なる外はまた軍旅の事を云はざりし然るに建武二十七年の事なるが北匈奴が塞へたれば威宮と馬武と云ふ大將は上書して北匈奴を攻め亡ぼすを請ひ二人は劍を鳴らし手を打ちて勇み身は中國に居りながら志は伊吾城の北に馳せいざ出陣せん勢ありし然るに帝は敕書を賜ひ黃石公の包桑記の言葉を以てし柔なる者は能く剛なる者に勝ち弱なる者は能く強なる者に勝つと云へり是れより諸將は敢て軍の事を云ふ者なかりき因て漢と西域との界にある玉門關を閉ぢて西域の交通を絶ち切り手柄ある家來を保ち全ふし又軍事を任せず皆非徒に列侯となして私邸に居らせ官職の事は三公に任じ手柄ある家來には官職の事に任せず夫れゆへ諸大將は皆功名を立てゝ安樂に身を送れり功臣の中に於て祭遵は先きに死したれば帝は思ひ出して已まらず又來欽と吳彭とは何れも刀物にて死したれば恩恤を加ふることを其だ手厚かりし又吳漢と賈復は帝の在世の中に死したり吳漢ハ陣中にありて時に御方の不利なることあるも意氣ハ平氣にて少しも恐るゝことをなれば帝ハ感心し吳公は大分に人の心を丈夫にすることにて憐なることは一の敵國の様なりと云へり扱て出陣の度毎に朝に詔を受けば其夕方には出立せり死去する時に及び帝は自分にて其邸に臨幸せられ云はんと思ふ所を問はれたれば吳漢は私に愚にして智識なきも何卒陛下は大赦して罪人を免し天下の常法を乱されぬこと計りを願ふなりと云へり又賈復は帝が兵を起されし時より軍の監督となれり帝は賞賛し賈復ハ敵衝を挫きて千里の外に追ひ拂ふの威勢ありと云へり或る時賈復ハ手紙を買ひたれば帝は大いに驚き我れは以前より敵を撃つ思ふを異見せしに今は果して此通りなり實に我れは名將を失ふたりと云ひたり扱て其妻の身持ちなることを聞きしゆへ帝は若し男子を生みたれば我が娘を嫁にせん若し又女子を生みたれば我が子の嫁にせんと云へり帝の群臣を扱ふに恩意ありたるハいづも此通りなりし只馬援ハ死去の時恩恤の意大いに全からず是れ情むことなり扱て馬援は或る時大丈夫なる男子ハ馬の皮に死骸を包む戰場にて打死すべしとて何とて家にありて病に苦しむ女子の手に看護せられて死することのあるべきやと云へり扱て交趾が謀

反せしとき馬援は伏波將軍の位にて征伐して平らげたり其後又武陵なる夷が謀反せしとき馬援は又征伐に行くを願ひたれば帝は其老なるを憐みしに馬援は鏡を着て馬に上り鞍の上に倚りて帝の方に振り向き老ても強壯にして役に立つことを見せられたれば帝は笑ひ老て益々壯なる老人かなと云ひ之を征伐にやりたり是れより以前に帝の娘なる舞陰公主の夫を梁松と云ひしが或る時梁松は馬援の處へ病氣見舞に行きしとき馬援の下にて拜伏せしに馬援は梁松の父の友人ゆへ今梁松の貴きも友人の子ゆへ相當の禮式をせざりし因て梁松は心に不平を起せり又馬援が交趾にありし時書面をやりて兄の子なる馬援馬敦の二人が人を誹り輕薄なる品行あるを異見せり其言葉は我れは其方違が人の過失を聞くことは父母の名を聞く様にすることを望むなり夫れは耳にて聞くは苦しからず自分の口にていふこと出來ぬなり凡そ好んで人の長短を計り云ひ政事の善惡を云ふことは我が大ひに惡む所に我が子孫の中に斯る行ひの者あるを願はぬことなり彼の龍述字は伯高の敦厚にして慎みの行き渡りたる人にて其上謙遜にして儉約なり我れは此人を親愛し貴重するなり願くば其方違は此人を手本として眞似せよ又杜季良は豪氣任侠にして義理を好む人にて人の心配を身に引受けて心配し人の樂を自分が樂みの様に喜べり先きに父の葬禮の時客人を招請せしに數郡の人々は皆會葬せり我れは此人を親愛し貴重するなり然れども其方違が此人を手本として眞似するは願はぬなり其諱は龍伯高の眞似をして出來ざるも矢張り慎み深き人となる事は出來るなり是れが世に云ふ鶴を刻りて出來損しても家鴨には似るなり又杜季良の眞似をして出來ざれば下つて天下の輕薄男子となるなり是れが世に云ふ虎の齧を畫て出來損しなば却て犬に似ると云ふものなりと云へり扱て季良とは杜保の字なり然るに杜保に怨みある者が上書して杜保のことを訴へ馬援の書面を證據として杜保は行事輕薄なりと云へば杜保は其罪にて免官となりたり又梁松は杜保と交際せしより卷き添へとなり罪に落ちんとせり扱て梁松は前の答禮せざることに馬援に對し不平を懷き居りしに此度出來事にて罪にまで落ちんとせしゆへ彌上馬援を怨み是非返報せんと思ひ居たるに此時馬援は進んで靈頭山と云ふ處に至り戦に利あらず疫病に掛りて軍中にて死去しければ梁松は得たりとて種々の事を云ひ作りて讒言せしかば帝も娘の夫の事ゆへ十分に信用し大ひに立腹し馬援の新息侯の印綬を取り上げたり扱て又馬援が以前に交趾に行きしとき不斷に蕭望仁を服用し身体を輕快にし邪氣を拂ふを覺へしゆへ交趾より凱旋するるとき蕭望仁を一つの車に載せて持ち歸りしことありしが此度又其事を引出して讒言する者ありて彼の交趾より歸りし時の一つの車に載せたるは夜光の玉と文犀とて貴重なる寶物なるとして戰地に取り私物とせりと云へば帝は益々立腹したるが丁度朱勃と云ふ者ありて上書して事實の相違を証明せしにより帝の立腹も少く

上於賊罪無所貸大司徒歐陽歙嘗犯賊歙所授尚書弟子千餘人守闕求哀竟不免死於獄所用群臣如宋弘等皆重厚正直上姊湖陽公主嘗寡居意在弘弘入見主坐屏後上曰諺言富易交貴易妻

人情乎弘曰貧賤之交不可忘糟糠之妻不下堂上顧主曰事不諧矣主有蒼頭殺人匿主家吏不能得洛陽令董宣侯主出行奴驂乘叱下車撻殺之主入訴上大怒召宣欲捶殺之宣曰縱奴殺人何以治天下臣不須捶請自殺即以頭叩楹流血被面上令小黃門持之使叩頭謝主宣兩手據地終不肯上勅強項令出賜錢三十萬當時州牧郡守縣令皆畏吏郭伋守潁川近帝城上勞之曰河潤九里京師蒙福杜詩守南陽郡人爲之語曰前有召父後有杜母張堪守漁陽人爲之語曰桑無附枝麥穗兩岐張堪爲政樂不可支劉昆爲令江陵有火叩頭向之反風滅火後守弘農虎北渡河上問行何德政而至是昆曰偶然耳上曰長者之言也命書之策尤重高節徵處士周黨至不屈伏而不謁或奏詆之上曰自古明王聖主必有不賓之士賜帛罷之處士嚴光與上嘗同游學物色得之齊國被羊裘釣澤中徵至亦不屈上與光同臥以足加帝腹明日太史奏客星犯御座甚急上曰朕與故人嚴子陵共臥耳拜諫議大夫不肯受去畊釣隱富春山中終漢世多清節士自此始方天下未平上已有志文治首起大學稽式古典修明禮樂晚歲起明

堂靈臺辟雍。粲然文物可述。每旦視朝。日昃乃罷。引公卿郎將。講論經
理。夜分乃寐。皇太子乘間諫曰。陛下有禹湯之明。而失黃老養性之道。
上曰。我自樂此。不為疲也。在位三十三年。身致太平。改元者二。曰建武。
中元。壽六十二。太子立。是為顯宗明皇帝。(字解)

(禮) 酒のいす米のぬかにて煮しき者の食ふもの(不下堂) 離縁せぬこと(不離) 成就せぬこと(蒼頭) 下部を云ふ(捨殺) 打ち殺すこと(擗) 杖にて打つを云ふ(擗) 丸杖(強項令) 頸骨のこはし縣令の意(阿岐) ふたまた(兼) 歴史記録のこと(處士) 家に居りて官に仕へぬ人(不風) 身を屈し従がはぬこと(不調) 姓名を云はぬこと(不實) 服従せぬ(物色) 人相書き形を云ふ(太史) 天文方(客星) 迷ひ星にて定宿するもの(御坐) 北極星の常處にて是れを天子に比し當るなり扱て此天象變化のことは當時の作説にあらざれば偶然のみ天何ぞ人事にあつからんや丁度我國にて彗星が出づれば合戦ありと云ふ如し本書中天文に掛るものと甚だ多し昔唐人の睡言と見て可なり(積式) 考へ法とすること(明堂) 天子が政をなす天を祭る處(靈臺) 天象を伺ひ又觀遊する處(辟雍) 天子射禮を行ふ處(文物) 可述(文華) 典章が後世に述べ傳へらるるを(講義) 扱て帝の賄賂の罪の少しも見のがしにすることなく大司徒なる歐陽欽が云ふ(黃老養性) 黃帝と老子との神仙宗教なり(講義) 或る時賄賂を取りたれば直ぐに捕へたるに歐陽欽が尙書と云ふ書物を教へたる四人千餘人が宮門に詰り寄せ赦免を哀訴したれどもつまり赦されず牢の中に病死したり又任用する所の群臣の中に宋弘などのは皆慎み重く手堅く公正實直なりし時に帝の姉なる湖陽公主は後家となりしが宋弘に嫁入するの心あれば宋弘が人見のとき公主を屏風の陰に居らせ扱て帝は宋弘に向ひ世の云ひならはしに富貴になれど友人を易へ貴人になれば家内を易へると云ふが是れは人情に憐れしやと問ひたれば宋弘は言葉正し決して然らず貧賤の時の舊友は決して忘るること出来ず辛苦を共にせし妻は離縁すること出来ぬなりと云へば帝は屏風の後なる公主を振り向き事成就せずと云へり扱て又公主の下部が人を殺して公主の屋敷に隠れしゆへ役人も捕ふることも出来ざりし因て洛陽の令なる董宣が公主の外出を伺ひ居たるに果して其下部が馬車に添へ乗りせしゆへ董宣は叱り付けて車より引下し其儘打ち殺せり因て公主は立腹して帝に申立てたれば帝も大いに立腹し董宣を召し出し杖殺せんとせしかば董宣は風せす下部が人を殺すを敢し置く機にては何とて天下を治むることが出来べき只私は杖打たるを待たず潔きよく自殺せんと云ひ頭を以て丸柱に打ち付け流れる血は顔一面になりたり此時帝は年少なる側付に云ひ付け董宣の頭を持ち公主の方に向け頭を地に押し付け無禮の語をさせんとせしに董宣は両手を地に突き力を入れて頭を下げざりし因て帝は大に悟り頭骨の強き縣令と退出せよと云ひ格別に錢三十萬を賜ひ其剛直を賞せり又當時の州牧や郡守や縣令の皆其良機

人にて郭伋と云ふ人は新川の太守となりて治績あり其上京都に接近せるゆへ帝は慰勞し扱て黄河は兩岸の地九里を潤すと云ふが其方が潁川を治むるにより京都も其幸福を受くるなりと云へり又杜詩と云ふ人は南陽の太守となりしが郡中の人民は杜詩の爲めに語を作り前にして前漢の宣帝の時召信臣と云ふ郡民を子の様に養ひ治めし父あり後にしては今杜詩と云ふ郡民を母が子を養ふ様にする人ありと云へり又張堪と云ふ人は漁陽の太守となりしが人民の矢張り語を作り桑に宿り木の付くなく夢の穂も二た又に出る様に培養するは張堪の政事が好きゆへ名々業を樂みとして勤むゆへなりと云へり又劉昆と云ふ人は江陵の縣令となりしが火災ありければ劉昆は火に向ひ頭を以て地を叩け風俄かに替り火の自然と消へたり其後弘農の太守となりたれば其地方の虎は河水を渡りて北の方なる他郡に移れり因て帝は劉昆に向ひ全体如何なる恩徳なる政事を行へば斯く不思議なること出来るやと問へば劉昆は無政あるゆへにあらす只自然の廻り合はせなりと云へり帝は益す感心し是れこそ實に有徳者の言葉なりと云ひ歴史役に云ひ付け此事を朝廷の記録に記載せたり又帝は尤も操の高き人を貴重せり或る時處士なる周黨と云ふ者を召したるに周黨は來りて風從せず只身を伏し拜謁の禮をなさりければ博士なる范滂は無禮なり奏上せしに帝は否な古より明王の時に吃度又服從せぬ名士あるものありと云ひ帝を賜ふて歸らせたり又處士なる嚴光字は子陵と云ふは以前に帝と一處に學問せし者なるに今は姓名を變じて隱者となりたれば帝は其賢明なるを思ひ謙姿を持たせて捜させたれば齊の國にて搜し當てたり此時は羊の皮の衣服を着て水澤の中に魚を釣り居たり扱て召されて京都に來りしが嚴光も亦風從せざりし因て宮中に留め置き色々以前の事を物語りとうとう同じ嚴光にて眠りたるに嚴光は自分の足を帝の腹の上に載せたるも帝は眠り醒すを心配し其儘辛抱したりし然るに明日天文役が奏上し一つの迷ひ星が帝星を犯すこと甚だ急なりと云へば帝は夫れは昨夜我れは故人なる嚴光と一處に眠りし故ならんと云へり扱て嚴光を諫議大夫とて政事の善惡を諷する役とせんとせしに嚴光は其命を受けず遂に去て富春山の中に入り田を耕し魚を釣りにて世を過せり扱て漢の世に清操高節の名士多きは是れより始まれり又帝は天下のまだ平定せぬ以前より早や文道を以て治むるの心立てありたれば先づ始めに大學校を起して古の典章を考へ法とし禮樂音樂を修め明らかにし又晚年に至り明堂靈臺辟雍を起したれば文華は粲然と明らかにして後世に述べ傳ふ事を得たり扱て帝は毎朝早く朝廷に出て、政事を開き日の西に傾くに至りて止め夫れより三公九卿より郎官大將を召して經書の義理を研究し夜半に至りて眠りに就けり或る時暇を見て皇太子は謀め陛下には古の禹王湯王の明徳ありて黃帝老子の養性の道を失せらるるゆへ何卒身を安んじ心を慰められよと云へば帝は我れは自分で斯くするを樂むことゆへ別に疲れとはならぬなりと云へり扱て在位は三十三年にて一代の間に天下を太平にせり年號を改むることは二度にて建武と中元と云へり其壽は六十二なりし太子が相續し位に即き是れを顯宗明皇帝と云へり

〔孝明皇帝〕初名陽。母陰氏。光武微時嘗曰。仕宦當作執金吾。娶妻當得陰麗華。後竟得之。生陽。幼穎悟。光武詔州郡。檢覈墾田戶口。諸郡各遣

人奏事見陳留吏牘上有書視之云。穎川弘農可問。河南南陽不可問。光武詰吏由。祇言於街上得之。光武怒。陽年十二。在幄後。曰。吏受郡敕。欲以墾田相方耳。河南帝城多近臣。南陽帝鄉多近親。田宅踰制。不可為準。以詰吏首服。光武大奇之。郭皇后廢。陰貴人立為后。陽為皇太子。改名莊。至是即位。○永平二年。臨辟雍行養老禮。以李躬為三老。桓榮為五更。三老東面。五更南面。上親祖。割牲執醬而饋。執爵而酌。禮畢。引榮及弟子升堂。諸儒執經問難。冠帶搢紳之人。圜橋門而觀聽者。億萬計。○三年。圖畫中興功臣二十八將於南宮雲臺。應二十八宿。鄧禹為首次。馬成。吳漢。王梁。賈復。陳俊。耿弇。杜茂。寇恂。傅俊。岑彭。堅鐔。馮異。王霸。朱祐。任光。祭遵。李忠。景丹。萬脩。蓋延。邳彤。鉅期。劉植。耿純。減宮。馬武。劉隆。惟馬援以皇后之父。不與焉。○十一年。東平王蒼來朝。蒼自上即位初。為驃騎將軍。五年而歸國。至是入朝。上問處家何以為樂。蒼曰。為善最樂。○十七年。復置西域都護。戊巳校尉。初耿秉請伐匈奴。謂宜如武帝通西域。斷匈奴右臂。上從之。以秉與竇固為都尉。屯涼州。固使假司馬班超使西域。超至鄯善。其王禮之甚備。匈奴使來。頓踈懈。超會吏

士三十六人。曰。不入虎穴。不得虎子。奔虜營。斬其使及從士三十餘級。鄯善一國震怖。超告以威德。使勿復與虜通。超復使于寘。其王亦斬虜使以降。於是諸國皆遣子入侍。西域復通。至是竇固等擊車師而還。以陳睦為都護。及以耿恭為戊校尉。關寵為已校尉。分屯西域。○十八年。北匈奴攻戊校尉耿恭。初。上即位之明年。南單于比死。弟莫立。上遣使授璽綬。北匈奴寇邊。南單于擊卻之。漢與北匈奴交使。南單于怨欲畔。密使人與交通。漢置度遼將軍於五原以防之。已而漢伐北匈奴。北匈奴亦寇邊。至是攻恭於金蒲城。恭以毒藥傳矢。語匈奴曰。漢家箭神。中者有異。虜視創皆沸。大驚。恭乘暴風雨擊之。殺傷甚眾。匈奴震怖。曰。漢兵神。真可畏也。乃解去。○上崩。在位十八年。改元者一曰。永平。壽四十八。上性偏察。好以耳目隱發。為明公卿大臣數被詆毀。近臣尚書以下。至見提曳。嘗怒郎藥崧。以杖撞之。崧走入牀下。上怒甚。疾言曰。郎出。郎出。崧曰。天子穆穆。諸侯皇皇。未聞人君自起。撞郎。乃赦之。上遵奉建武制度。無更變。后妃家不得封侯。預政。館陶公主為子求郎。上曰。郎官上應列宿。出宰百里。苟非其人。民受其殃。不許。當時吏得其人。民樂其業。

遠近畏服。戸口滋殖焉。太子立。是爲肅宗孝章皇帝。(字解) (仕官)仕官に同じ。(檢覈)實地取調のこと

(監田)開墾田なり(禮)札なり(祿)夫ればかりの意たゞと讀む(郡數)太守の云ひ付け(相方)相比較すること(首服)自首罪に服するなり(三老)三公中の最老者にて父とわがむ乃ち天地人三才の理を知るの意又天の五星に象るとも云ふ(五更)卿大夫中の最老者にて兄とわがむ木火土金水の更代の理を知るの意又天の五星に象るとも云ふ(祖制)左のかたを脱ぎいけにへの肉を切ること(禮)味増の類(饋)食物を送ること(爵)禮式の時の杯にて雀の形とす一合を入れるべし(酌)酌なり(摺紳)笏を差し夾み大帯を引くとて高貴の人を云ふ(園橋門)辟雍には四門あり廻りに欄あり毎門に橋あり乃ち人々橋門を取り登りて(二十八宿)星の名にて角亢房心尾箕の七星は東に屬す然れども一年に天体を一周す故に春は東にあり夏は南にあり秋は西にあり冬は北にあり斗牛女虛危室壁の七星は北に屬す春は北にあり夏は東にあり秋は南にあり冬は西にあり奎婁胃昂畢昴參の七星は西に屬す春は西にあり夏は北にあり秋は東にあり冬は南にあり井鬼柳星張翼軫の七星は南に屬す春は南にあり夏は西にあり秋は北にあり冬は東にあり(右臂)匈奴は漢の北にあり西域は漢の西にあり扱て南を前とすれば西域は匈奴の右にあるあり(假司馬)權司馬のこと(頓)俄なり(戊校尉)駐在官にて戊は固きをなすの意(己校尉)己は收め成すの意(度遼)遼水を城るの意(傳矢)矢の根に付けること(皆沸)疵口がとれる持ち上ること(惛)心狭く氣を過すこと(耳目)探搜者のこと(提曳)さげひくこと(禮々)深遠なること(皇々)敬ひ恐るなり(列宿)帝星の後に十五星あり是れを即位とす(百里)縣なり(講義)孝明皇帝は初めの名は陽と云ひ母は陰氏なり光武帝の微賤なるを耶官より出で、縣令となるなり(殊)殊なり惡弊なり(講義)き扱て仕官せば執金吾となるべきことにて妻を迎へば陰陽華を迎ふべきこと、云ひしが其後どうとう手に入れ賜を生めり陽は幼少より發明なり時に光武帝ハ州郡に詔して各地方の開墾地及び戸數人別を實地に付き調査させれば諸郡の役人を差出し出して調査の成績を上申せり然るに陳留郡の役人の差出したる調査の上文字ありて能く見れば潁川南陽は問ふこと出来るも河南南陽は問ふこと出来ずとあり因て光武帝は陳留の役人に其詳を問ひ詰めたるに役人は途行く人の云ふことをつい書きたるまでなりと云へり光武帝は答の判然せぬゆへ立腹せり然るに陽は此時年十二なるが垂れ絹の後に居りしが夫れは役人が郡守の云ひ付けを受け此度の調査を公平にして開墾の田地の廣狹を各郡共に比較せんと望むよとにて夫れゆへ潁川弘農は十分に理問すること出来るも河南南陽は理問する事出来ず其詳は河南は京城のある所なれば近臣などの領分多く又南陽は帝の故郷なれば皇族の領地多ければ總て田地屋敷を制限の外に超へ居れば外郡と同様に比準するよと出来ぬと云ふことなりと云へば帝は大いに喜び右の言葉を以て役人を詰問ひたれば陳留することならず服罪せり因て光武帝ハ陽の才を奇なりとせり其後郭皇后寵衰へて廢せられ陰貴人が立て皇后となり陽を皇太子となせり名を莊と改め此時に至りて位に即けり扱て永平二年に帝は辟雍に臨幸して養老の禮を行へり此時李躬を以て三老となし桓榮を以て五更とせり三老は正面して坐し五更は南面して坐せり帝は自分にてはだを脱ぎ生けにへの肉を切り醬を取りて與へ杯を取りて酌み三老五更に進めり扱て禮式終りて

桓榮及び弟子を引て堂に上らせ諸の學者は經書を取りて疑義を問答せり此時朝服を着けたる人士は辟雍の門の橋に群集して禮式を拜觀し議論を聽聞せし者は億万と云ふ計なりし同じ三年に光武帝中興の時の二十八將を南宮なる雲臺に畫像を畫き天の二十八宿星に象とりたり其人々は鄧禹を第一とし其次は馬成と吳漢と王梁と賈復と陳俊と耿种と杜茂と寇恂と傅俊と岑彭と堅鐔と馮異と王霸と朱祐と任光と祭遵と李忠と景丹と万修と蓋延と邳彤と姚期と劉植と耿种と臧宮と馬武と劉隆となり馬援は功臣なれども皇后の父なる國を以て此中に加へらざるなり同じ十一年に東平王なる蒼が入朝せり蒼は帝の即位の初めより驃騎將軍となり五年にして國に歸りしが此時入朝せしなり帝は蒼に向ひ家に居りては何事を樂みとするやと問へば蒼は善を行ふことが第一の樂みなりと云へり同じ十七年に又西域の都護職と戊己校尉とを置けり是れより以前に耿种は匈奴を征伐するを願ひ武帝が西域と交通し匈奴の右の腕とも頼める所を切り断ちたる機にすること宜しと云ひたれば帝は其言葉に従ひ耿种と臧宮とを都尉となして涼州に屯營させたり又傳聞は假司馬なる班超を西域に遣りたり扱て班超ハ西域なる都護國に至りたるに其王は始め丁寧を扱ひしに匈奴の使者が丁度來りたれば俄かに不扱ひになりたり因て班超は役人十を三十六人を寄せ虎の穴に入らねば虎の子は取れぬことなりと云ひ匈奴の陳屋に入り使者及び従ふ者三十餘人を切りたれば都護の一面は振ひ恐れたり因て班超は威勢と恩德とを論し再び匈奴に交通せぬ機にさせたり班超は又于闐國に使ひしたれば其王も匈奴の使者を切りて降参せり是に於て諸國は皆其子を差出して宮中に入侍させ西域は又交通することになりたり此時に至り實固なるとい車師を打て歸り陳睦を都護と及び耿种を以て戊校尉となし明帝を己校尉となし分れて西域に屯在させたり同じ十八年に北匈奴が戊校尉なる耿种を攻めたり初め帝即位の明年に南單于の比が死し弟なる莫が立ちたれば帝は使者をやりて莫と綬とを授けたり其後北匈奴が漢の國端しを攻めしとき南單于が打て遠ざけたり然るに漢が北匈奴と交通せるより南單于は怒みて叛かんとい内々使者を以て北單于に交通せしゆへ漢は度遼將軍を五原に置きて是れを防げり其後漢は北匈奴を征伐せしより北匈奴も亦國端を攻め此時耿种を余蒲城にて攻めり扱て耿种ハ毒藥を矢に付け匈奴に向ひ漢家の矢には神あり當る者ハ不思儀あると云ひ射付けたり夷は矢創を見るに皆沸上りたれば大に驚きたり耿种は大風雨に付け込み打ちたれば殺し傷つけること甚だ多く匈奴の振ひ恐れ漢の兵は神なり實に恐るべきと云ひ圍を解きて退き去りたり扱て帝は死去せり在位は十八年にて改元するものハ一なり永平と云ふ年號は四十八なり帝の生れ付きハ心狭く邪推深く好んで近臣を採搜させ人の隱事をあばき以て明智なりとし公卿大臣も度々探搜者の爲めに誹毀せられたり又近臣尙書以下の者は帝の怒りに逢ひ提げ引つらるゝに至れり或る時耶官なる藥松の事を怒り杖を以て突きたれば藥松は走つて林の下に入りたれば帝は益す立腹し急呼して耶山よ耶出よと云へば藥松は天子は深遠にして測られぬ者なり諸侯は恭敬畏恐する者なりまた古へより天子が自分にて立ち耶を突きたることを聞かずと云へば帝は怒りて殺されたり扱て帝ハ建武の制度規則を大事に守り改めずることなく皇后妃の家ハ大名に立てられ政事を取ること出来ざりし或る時光武帝の第二女なる館陶公主が其子の爲めに耶官にすることを乞ひたれば帝ハ耶官は上天の星宿にも當り出れば縣令となり百里の土地を支配する者ゆへ假りも相當の入物にあらざれば人民は禍

を受けることなりと云ひ許されざりし扱て當時の役人は皆人物を得たれば人民は其業を樂み遠近の者共朝威を恐れ服従し戸數人員も段々増加せり太子が位を續ぎ是れを肅宗皇帝と云へり

〔孝章皇帝〕名烜。母賈氏。馬皇后養之。立爲太子。至是卽位。○西域攻沒都護。北匈奴圍已校尉。又圍耿恭。詔遣兵罷都護及戊巳校尉官。惟班超上疏請兵。欲遂平西域。上知功可成從之。○北匈奴五十八部來降。時北匈奴衰耗。黨衆離畔。南部攻其前。丁零寇其後。鮮卑擊其左。西域攻其右。不復自立。乃遠引而去。鮮卑擊斬北單于。故部衆有來降者。○上崩。在位十三年。改元者三。曰建初。元和。章和。壽三十一。上繼明帝。察之後。知人厭苛切。事從寬厚。文之以禮樂。嘗議貢舉法。韋彪議曰。國以簡賢爲務。賢以孝行爲首。求忠臣必於孝子之門。上然之。廬江毛義以行義稱。張奉候之。府檄適至。以義守安陽。令義捧檄入。喜動顏色。奉心賤之。後義母死。徵辟皆不至。奉乃歎曰。往日之喜爲親屈也。上下詔褒寵之。州郡得人。如廉范。在蜀郡弛禁。以便民。民歌之曰。廉叔度。來何暮。不禁火。民安作。昔無襦。今五袴。當時皆以平徭簡賦。忠恕長者爲政。終上之世。民賴其慶。太子立。是爲孝和皇帝。〔講義〕

〔改沒〕攻め亡ぼすこと〔徵辟〕天子の召すを徵と云ひ郡守王侯の召し

〔講義〕孝章皇帝の名は烜と云ふ母は賈氏なるが馬皇后は養子とし立て、太子と多し故に燈火を禁するの制ありしゆへなり

孝章皇帝の名は烜と云ふ母は賈氏なるが馬皇后は養子とし立て、太子と多し故に燈火を禁するの制ありしゆへなり

〔孝和皇帝〕名肇。母梁氏。竇皇后子之。年十歲卽位。竇后臨朝。竇憲以外戚侍中用事。有罪。求出擊北匈奴。以自贖。后從之。大破匈奴。登燕然山。刻石勒功。而還。入爲大將軍。四年。父子兄弟並爲卿校。充滿朝廷。有逆謀。上知之。遂與宦者鄭衆定議。勒兵收憲印綬。迫令自殺。以衆爲大長

秋常與議政。宦官用權自此始。○先是漢兵擊北單于。走死。漢立其弟。後叛。追斬滅之。鮮卑徙據北匈奴地。自此漸盛。○徵班超還京師。卒。超起。自書生投筆。有封侯萬里外之志。有相者謂曰。生燕領虎頭。飛而食肉。萬里侯相也。自假司馬入西域。章帝時。為西域將兵長吏。至上以超為西域都護。騎都尉。平定諸國。在西域三十年。以功封定遠侯。至是以年老乞歸。願生入玉門關。上許之。任尙代為都護。請教超曰。君性嚴急。水清無大魚。宜蕩佚簡易。尙私謂人曰。我以班君當有奇策。今所言平平耳。尙後果失邊和。如超言。○上在位十八年崩。改元者二。曰永元。元興太子立。是為孝殤皇帝。(字解) (領)したあひ(漢) 孝和皇帝の名は僅と云ひ母の梁氏なるが即き實后が朝廷に出て政事を聞き實意は太后の兄にて帝の外戚なるより侍中となり政事をなし前漢王氏の如く是れより外家政事となりたり其後實意罪あり因て出で、北匈奴を打て罪を差引せんと望みければ后の其言葉に従へり因て大いに匈奴を破り燕然山に上り石を立て手柄を奪ひ付けて歸り京に入り大將軍となれり同し四年は實意が父子兄弟が並びに九卿將校となり朝廷の上に充稱せり扱て斯く自由なるより増長し謀反を企たれば帝は此事を知り夫れより宣旨なる詔書と評議を定め兵を集めて宮中に備へ實意が印綬を取りて人に迫らせ自殺せたり因て鄭衆を大長秋と云ふ彼となし常に政事を相談せり宣旨の朝權を取るは是れより始まれり是れより以前に漢の兵は北單于を打ちたれば單于は走りて死したり因て漢は其弟を立て、單于とせしが後又叛きしゆへ追て切り北匈奴を亡せり故に鮮卑は北匈奴の地に移り是れより段々盛になりたり扱て班超を召して京都に歸らせたれば何程もなく死去せり班超は書生より身を起し筆を授け捨て、万里の外に奇功を立て大名になるの志ありたり或る時人相見が班超を見て君は下あひは燕に似て頭は虎に似たれば燕の如く飛び虎の如く肉を食ふ相にて乃ち万里の外に大功を立て大名となる人相なりと云へり扱て班超は假司馬と云ふ役にて西域に入り章帝の時西域の將兵長吏となり帝は班超を西域の都護騎都尉となし諸國を平定

させ西域にわたること三十年にて手柄により定遠侯に封せられ此時に至り年老ひたるを以て歸るを乞ひ何卒生て玉門關に入らんと云へば帝は是れを許されたり因て任尙を代り都護となせり扱て任尙は任所に赴き治め方を問ひたれば班超は君が生質は嚴敏くして急なり全体水が清ければ大魚はなき道理なれば苛酷なれば人を和すること出来ぬゆへ成るべく寛大にして人を安んじ簡谷平易にせられよと云へり然るに任尙は内々人に向ひ我れは班君に何か奇計あらんと思ひしに其云ふ所は平凡なるものと云ひたるが任尙は果して其後西域の人氣を取り損じたり扱て帝は在位十八年にて死去し改元せしこと二にて永元元興と云へり太子は立らば是れを孝殤皇帝と云へり

〔孝殤皇帝〕名隆。生百餘日即位。改元延平。在位八閱月而崩。時皇太后鄧氏臨朝。與鄧騭定策立嗣。是為孝安皇帝。(講義) (爲)天折のよと(恩)歴るなりこへること(臨)音しつ(定策)帝を立てる

〔講義〕孝殤皇帝の名は隆と云ひ生れて百日餘りにして位に即き延平と改元し八ヶ月を歴て死去せり此時皇太后なる鄧氏は朝廷に臨み兄なる鄧騭と冊立の議を定め跡継ぎを立てたり是れを孝安皇帝と云へり

〔孝安皇帝〕名祐。清河王慶之子。章帝孫也。未冠迎即位。鄧后仍臨朝。鄧騭為大將軍。時邊軍多事。鄧騭欲棄涼州并力北邊。郎中虞詡以為不可。曰。關西出將。關東出相。烈士武夫多出涼州。衆皆從詡議。騭惡詡欲陷之。會朝歌賊攻殺長吏。州郡不能禁。以詡為朝歌長。故舊皆吊之。詡曰。不遇盤根錯節。無以別利器。及到官募壯士。攻劫者為上。傷人偷盜者次之。收得百餘人。使入賊中。誘令劫掠。伏兵殺數百人。又潛遣貧人能縫者。備作賊衣。以綵線縫其裾。有出市里者。輒禽之。賊駭散。縣境皆平。太后知詡有將帥之略。以為武都太守。叛羌數千遮詡。詡停不進。宣

言請兵須到乃發。羌聞之分鈔傍縣。詔因其散。日夜進道。令軍士各作
兩竈。日增倍之。或曰。孫臏滅竈。而君增之。兵法日行不過三十里。而今
日且二百里。何也。詔曰。虜衆多。吾兵少。徐行易爲所及。速進則彼不測。
虜見吾竈日增。謂郡兵來迎。衆多。行速。必憚追我。孫臏見弱。吾今示強。
勢不同也。既到郡。兵三千。而羌萬餘。攻圍赤亭。數十日。詔命強弩勿發。
潛發小弩。羌謂力弱。不能至。并兵急攻。於是使二十強弩共射一人。發
無不中。羌大驚。詔因出城奮擊。明日悉陳其兵。令從東郭門出。北郭門
入。賀易衣服。回轉數周。羌不知其數。相恐動。詔潛於淺水設伏。候其走
路。羌果大奔。因掩擊。大破之。賊由是敗散。○太后崩。鄧騭罷自殺。○汝
南太守王龔。好才愛士。以袁閔爲功曹。引進黃憲。陳蕃等。憲父爲牛醫。
憲年十四。穎川荀淑遇於逆旅。竦然異之。曰。子吾之師表也。見閔曰。子
國有顏子。閔曰。見吾叔度。邪。戴良才高。每見憲歸。惘然若自失。其母曰。
汝復從牛醫兒來。邪。陳蕃等相謂曰。時月之間。不見黃生。鄙吝之萌。復
存乎心矣。太原郭泰。過閔。不宿。從憲累日。曰。奉高之器。譬之汎濫。雖清
而易挹。叔度汪汪若千頃波。澄之不清。撓之不濁。不可量也。憲初舉孝

廉。又辟公府。人勸其仕。暫到京師。卽還。年四十八而終。○太尉楊震自
殺。震關西人。時人稱之曰。關西孔子。楊伯起。教授生徒。堂下得三鰓。都
講以爲有三公之象。取以進。曰。先生自此升矣。後嘗爲郡守。屬邑令有
懷金遺之者。曰。暮夜無知者。震曰。天知地知。子知我知。何謂無知。令慚
而退。及爲三公。時宦者及上乳母王聖用事。皆有請託。震不從。又數以
近習爲言。共構之。策收印綬。遂死。葬之日。名士皆來會。有大鳥高丈餘。
至墓前。俯仰流涕而去。○上少號聰明。旣卽位。多失德。在位十九年。崩。
改元者五。曰。永初。元初。永寧。建光。延光。太子先爲近習所譖。坐廢。爲濟
陰王。閻皇后臨朝。與閻顯迎章帝孫北鄉侯懿嗣位。宦者孫程等誅顯。
遷閻后。迎立濟陰王。是爲孝順皇帝。○字解(未冠二十以下(盤根)曲りたる根(錯節)多き節
(功曹)錄事(遊旅)旅人宿(疎)ぞつとすること(稱)あされる(時)月時は三月(郵)音いやく物をしみすること(汎濫)小なる泉(挹)
酌ひなり(汪々)大水(撓)みたす(鰓)班文あるうなぎ刺(講義)孝安皇帝の名は祐と云ひ清河王なる慶の子にて章帝の孫なりま
大夫の服章の象なりとす(近習)宦官なり(策)辭令の類(九冠)禮をも行いさるとき迎へられて位に即きたり(節)后は矢張り
朝廷に出で、政を聞き兄なる鄧騭は大將軍となれり此時邊夷に多事なれば鄧騭は涼州の土地を捨て、兵力を北の方に合さんとせ
しに耶中なる虞詡と云ふ人は其事を不可と思ひ扱て關西の土地は大將の出る處にて關東の土地ハ大臣の出る處なり烈しき士や勇
武の男は多くは涼州より出づるゆへ涼州は捨てられすと云へば大勢も皆其言葉に従へり因て鄧騭は虞詡を惡み禍に落し殺さんと
思ひしが丁度朝歌と云ふ處の賊が長吏を攻め殺したれとも州牧も郡守も其暴行を止むること出来ざりし因て鄧騭は虞詡を以て長
歌の長とせし賊の手を借りて殺さんとせしなり故に友人故舊は皆悔み用ひしに虞詡は曲りたる根や節多き木に出逢はざれば斧の

切れ味ハ見へぬことなりと云ひ扱て長歌に到るに及び勇壯の士を召し集め是れまで人を攻め財を強奪したる者を上等となし人を
 疵付け物を盗みたる者を其次となし百人餘りを集め皆其罪を免して賊黨の中に混入させ賊を誘ひ出して人を劫かし物を掠めさ
 せ兼て至る處を示し合させ兵を伏して待ち受け賊黨五六百人を殺せり又内々貧民の裁縫の上手なる者をやりて賊の衣服を縫はせ
 色糸を以て其裾に印を付けさせ其印のある者が市中や村里に出づれば色糸を目印に捕縛せしかば賊ハ大いに驚きて解散し縣内の
 皆平らぎたり扱て太后は虞詡は大將たるべき才畧あるを知り武郡の太守とせり然るに此地にも叛きたる兵ありしが虞詡の來るを
 聞き五六千人にて路を横切りたれば虞詡は止まりて進まず兵隊を朝廷に請ひ兵の來りたる上にて出發すると云ひ觸らしたれば夷
 は此事を聞き分れ分れになりて近縣を廻り物を奪へり虞詡は夷の散りたるに因り晝夜を合せて道を進み引連れる處の軍士に一人
 毎に二つの釜戸を連れ日々に倍増しにせり或る人は古の孫臋は釜戸を減したるに君ハ釜戸を増し又兵法書にハ一日に行くと
 五里計りとあるに今は一晝夜に三十三里程も進まるハは何事ぞと云へば虞詡は夷の兵は多く御方の兵は少なし遅く進めば追ひ付
 かれ易し速に進めば人數を測ること出來ず其上夷が我が釜戸の日々に増加するを見れば郡の兵が迎ひに來りたりと思ひ扱て兵士
 が多くして進みよとが早ければ吃度追ひ掛けるを憚かり恐れん孫臋は弱きを見せ我ハ今強きを見せることにて時と勢が同一なら
 ざるゆへなりと云へり扱て郡に至りたれば郡兵は三千にて夷は一万人餘もありて赤亭城を攻め圍みたること數十日なれば虞詡は
 命令を下し強き仕掛け弓は射ることを止め弱き小弓計りを射させれば夷は弓の力弱くして屈かずと思ひ兵を合せて急に攻め詰
 めたり因て二十裏の強き仕掛け弓にて共に一人つゝを射させれば當らぬ矢はなく夷は大いに驚きたり虞詡は此時に付け込み城を
 出で奮ひ打ち又明日は悉く兵士を行列させ城の東の門より出で北の門に入り何々衣服を着替へさせりいぐるると幾度も廻
 らせられたれば夷は總人數の何程なるやを知らず相互に恐れ動きたり虞詡は夷の走るを計り深き川に伏兵を設けしに夷は果して大
 に奔りたれば因て取り巻きて打ち大いに破りたり是れに因て賊は恐れ散りたり扱て鄧太后は死去し鄧隲は免官になりて自殺せり
 茲に汝南の太守なる王颉は才ある人を好み士人を愛遇し貴閭を以て功曹とせしかば又貴閭諸蕃などを引き進めり扱て貴閭の父ハ
 牛醫者にて貴閭が十四歳のとき穎川の荀淑と云ふ人は旅人宿にて貴閭に逢ひそつとして其才を奇とし君は我が師匠手本なりと云
 ひ其後貴閭に向ひ君の國には孔子の高弟なる少年大才なる顔子居るなりと云へば貴閭は夫れハ我が郡中の貴閭字は叔度を見し
 ならんと云へり又戴良ハ至て才高き人なるが貴閭に逢ふて歸る毎にいつもあきれて氣抜けの様になれば母親は又其方ハ牛醫者の
 子の處へ往きしやと云へり陳蕃も是ハ互に一月二月の間貴生に逢はざれば自然と鄙しき物惜しみの心が起るなりと云へり又太原
 なる郭泰は貴閭の家に行けば止宿もせずして歸りしが貴閭の家に行けば日を重ねて歸らず貴閭字は華高の才器は丁度小ざら求の
 標にて清しとは云へる酌み取ること易し又黃叔度は洋々たる千方坪もある波打ちの標にてすまさんと思ふも清ますださんとす
 るも濁らず實に測られぬ器量なりと云へり黃憲は以前孝廉の科目を以て薦舉せられ又郡守に召され人も仕官を勧めたれば暫く京
 師に至りしが國勢の可ならざるを見しものか直きに歸り其後西十八歳にて世を終れり扱て太尉なる楊震は自殺せり楊震は關西の

人にて時の人ハ關西の孔子は楊震字は伯起なりと云へり扱て生徒を教授し居たるが帝が三つの班文あるうなきをくはへ來りたれ
 ば塾長が是れは數は三にて班文は卿大夫の服章なり三公の象なりと云ひ取て差し出し先生は是れより三公に上られんと云へり其
 後楊震は郡の太守となりしが其支配下の縣令なる王密と云ふ者が舊恩を報ずる爲め金を持ち來りて送りたれば楊震は受けず因て
 王密は今夜中の事なり誰れも知る者なきゆへ是非受け入れられよと云へば楊震は否々天も知れり地も知れり君も知れり我も知
 れり何とて知る者なしと云ふやと云へば王密ハ耻ぢ服して立ち退けり其後三公なる太尉となりたる時は朝廷の政事ハ官官と帝の
 乳母なる王聖とが我儘にし楊震に乞ひ頼むことありしも楊震は從はず又度々官官の政體を亂たすことを帝に上申せしゆへ官官や
 乳母が相談し免官の辭令を送り印綬を取り上げたれば楊震は朝廷を正すことの出來ざるを耻ぢ怒りてどうとどう自殺せり扱て葬禮
 の日は一世の名士の皆會葬せり此時一羽の大なる鳥ありて高きは一丈に餘るが墓の前に來り或は仰ぎ或は俯し涙を流して遂に去
 りたり潛夫思ふに是れハ駱鳥にて支那は大陰ゆへ他方の禽獸が迷ひ來ること多し彼の麒麟の如きも今日なれば聖人の爲めに去
 るとは云ふまじ扱て此駱鳥は沙漠にて獵人に獲はぬゆへ人を恐れず徘徊俯仰せしならん涙とは例の飾りなるべし扱て帝は幼少よ
 り耳敏く目明かなりと云はれしが已に位に即てより官官と乳母に我儘をさせたるなと色々の帝たるべき德行を失へり在位は十九
 年にて死去せり改元せしことは五度なり永初と元初と永寧と建光と延光と云へり太子は先きに官官に讒言せられて廢せられ濟陰
 王となりたれば關皇后は朝廷に出で兄なる關顯と共に皇帝の孫なる北郷侯の懿と云ふを迎へて位を續がせしに八月月にて死去せ
 り因て關皇后ハ關顯と喪を隱し居たるに官官なる孫程などは關顯を殺し關皇后を押し込み前太子濟陰王を迎へ立てたり是れを孝
 順皇帝と云へり扱て北郷侯ハ現に八月月間位に上りしも關氏の私に成りたることゆへ正統に加へざるものとす然れども潛夫は官
 官の立てたる濟陰王に比すれば何れを正とするや寧ろ北郷侯を正とするの可なるを見るなり只北郷侯は短祚にして又敗者なり實
 に世は成敗の世にして正理の行はれざる古今此例あり深く歎くべきなり

〔孝順皇帝〕名保。爲孫程等所立。宦官以功封侯者十九人。○尙書令左
 雄奏令郡國舉孝廉限年四十以上。諸生通章句。文吏能牋奏。乃得應
 選。其有茂材異等若顏淵子奇不拘年齒。雄公直精明。能審覈眞僞。決
 志行之。有舉少年至者。雄詰之曰。顏回聞一知十。孝廉聞一知幾。邪。頂
 之中外坐謬舉。黜免者十餘人。惟汝南陳蕃。潁川李膺。下邳陳球等三

十餘人得拜郎中。○以皇后父梁商爲大將軍。商死以其子冀爲大將軍。不疑爲河南尹。遣使者八人分行州郡。張綱獨埋其車輪於洛陽都亭。曰豺狼當道安問狐狸。劾奏冀不疑無君之心。十五事。上知綱言直而不能。用冀欲中傷之。廣陵賊張嬰寇亂楊徐間。十餘年。乃以綱爲廣陵太守。綱單車徑詣嬰壘門。請與相見。譬曉之。嬰等萬餘人降。綱入壘宴。散遣任所之。南州晏然。在郡卒。嬰等爲之制服。行喪時二千石長吏有能政者。冀州刺史蘇章有故人爲清河太守。章行部爲設酒甚歡。守喜曰。人皆有一天。我獨有二天。章曰。今日蘇孺文與故人飲者私恩也。明日冀州刺史案事者公法也。遂舉正其姦賊之罪。○上在位二十年崩。改元者五日。永建。陽嘉。永和。漢安。建康。太子立。是爲孝冲皇帝。字解。

(章句) 經傳の義理にて每章毎句の意義を云ふなり(後漢) 綱文にて奏の上申書なり乃ち上書建白なを官用文を云ふなり(異等) 常並みにはづれたること(顔回) 孔子の高弟なる顔淵にて三十二歳にて死去せり(子奇) 十八歳にて齊の阿邑の宰となり武庫の兵器を竊て農具を作り倉を開いて貧民を救ひ大に治行あり(劉免) 降官免官なり(豺狼) 梁冀と梁不疑を指す(狐狸) 州郡の役員を指す(劾) 人の罪をわばくふこと(徑直) 直なりたゞちにと讀む眞直ぐに寄り道もせず直線行ける道より行くこと世の人或は直と速とを混同するがへるが直は右の様に速は早くなり(譬曉) たゞへを引き云ひさすとらすること(晏安) なり(制服) 行喪 忌服の衣服を作り忌服の禮を行ふこと(二千石) 長吏 二千石取りの地方長官にて州牧郡守の祿とす(刺史) 州牧にて州郡を巡廻し非違を監察する役(一天) 一つの天恩とす(二十石) 長吏 二千石取りの名は保と云ひ官官なる孫程などにて立てられたれば官官が手柄を以て大名に立てられたる者十九人あり扱て尙書令なる左雄は上申し郡國に命令して孝行廉直なる者を推舉させ其年齢は四十以上と限れり養生の經義に通じ文正

〔講義〕

の官文を上手に書く者も推舉に當ることが出来るなり又盛なる才あり常に異なる者にて古の顔淵や子奇の如き者の年齢に拘はらぬことせり扱て左雄は公直にして精明なれば能く眞偽を調べ明らかし心を定めて行ひ若し少年なる者を推舉し來れば左雄は詰り問ひ顔子は一つを聞いて十まで悟り知れり孝廉は今一つを聞き幾何を知るやと云へり暫時にして中外の官吏が推舉遂ひにて降官免官になりたる者十餘人ありたり只汝南なる陳蕃や潁川なる李膺や下邳なる陳球などの三十餘人は皆郎中の官に拜命すること出来たり茲に皇后の父なる梁商と云ふ者を大將軍となしたり然るに梁商が死したるゆへ其子なる梁冀と云ふ者を大將軍となし梁冀の弟なる梁不疑と云ふ者を河南府の尹となしたり是れより兄弟二人は大いに我儘をなせり此時使者八人を出動させ州郡を分けをして巡廻させ地方官の非違の事を監察させたり此時張綱と云ふ人も其八人の中の一人なりしが他の者は已に出立せしに此張綱は獨り出立せず乘車を脱して洛陽の都亭の土中に埋まらせ十分の決心を示し扱て今は豺狼の如き大惡人なる梁冀と疑ふこと朝廷の要路に立ち我儘し居るに何とて狐や狸の機なる地方の小姦人を問ひ調べることのあるべきやと云ひさして張綱の云ふ梁不疑が君上をないがしろにするの心あることを明らかにならばさて上奏せり其箇條書は十五ヶ條なりし帝は如何にも張綱の云ふ處は一々尤も至極と云ふを知りたるも其言葉を開入れて梁冀二人の罪を正すことい出來ざりし扱て梁冀は此事を知り張綱を法に當て罪に落さんと思ひしが丁度廣陵と云ふ處の賊なる張嬰と云ふ者が揚州徐州の間を攻め亂だし居るも十餘年なりければぞて張綱を以て廣陵の太守とし賊の手を借りて殺させんとしたり然るに張綱は守兵をも連れず只一つの車に乗り直ぐに賊營なる張嬰の城門に至り相與に面會することを乞ひ色々と譬曉したれり張嬰は始め一万人餘りの直ぐに降参を願へり因て張綱は賊の城中に入りて酒宴を設け夫れより降参せし者の罪を赦し名々勝手次第に往く處に任せ立ち去らせれば南の方なる州郡は晏然として靜かになりたり因て朝廷は張綱の手柄を賞し大名に取り立てんとせしに彼の梁冀は元より賊の手を借りて殺させんと思ひし釋ゆへ賞典を行ふことを拒みたれば張綱の大功あるも賞せらるることなく夫れより一年計り立ちて郡にて死去したり因て張綱を五百餘人の者は張綱の爲めに忌服の衣服を着け忌服の禮を行なひ又張綱の爲めに大ひなる墓を取り立てたり扱て此時に二千石取りなる地方の長官には政事を能くせし者ありて冀州の刺史なる蘇章字は孺文と云ふ者あり部内を巡廻し地方官の非違を檢査せしとき清河郡に至りしが其郡の太守は元の友人なれば先づ旅館に招き酒宴を設けてなす平生の交はりを語りたれば太守は大いに喜び人々は只一つの天恩を受くる計りあるも我れは斯く君が別懸にせらるゝからは我れの曲事は摘發せらるゝことなし去れば我れには獨り一つの天恩を受くる上又君の恩を受くることゆへ丁度二つの天恩を受くると同様なりと云へば蘇章は色を正し否や今日蘇孺文が元の友人と斯く酒を飲み樂みは是れ一己の私恩にて彌よ明日冀州の刺史なる蘇章が職權を以て部内の郡邑の官吏の非違を檢査するは國家の公法なれば決して私恩を以て公法を亂すことなしと云ひしがどうも其太守の惡事賄賂の罪を摘發し法律を正したり扱て帝は在位二十年にて死去し其間に改元せしことは五度にて永建と陽嘉と永和と漢安と建康と云へり扱て太子が立ち是れを孝冲皇帝と云へり

〔孝冲皇帝〕名炳。年二歲即位。三閱月而崩。改元者一。曰永嘉。梁太后迎立渤海孝王之子。是為孝質皇帝。〔講義〕孝冲皇帝は名を炳と云ふ二歳の時に帝位に即き僅か三月にして死去せらる。其間改元する者一つにて永嘉と云へり。梁太后は渤海の孝王の子を迎へ立て之れを孝質皇帝と云へり。

〔孝質皇帝〕名纘。章帝曾孫也。年八歲即位。少而聰慧。嘗因朝會。目梁冀曰。此跋扈將軍也。冀深惡之。使左右於餅中進毒。遂崩。在位一年有半。改元者一。曰本初。冀迎立蠡吾侯。是為孝桓皇帝。〔字解〕(跋扈)威張かへりて我がしものと云ふが如し(曾孫)章帝位を生みながら龍を生み龍は渤海孝王にして質帝は即ち其子なれば當に支孫とす可きに斯く曾孫とせ(講義)孝質皇帝は名を纘と云ひ章帝の玄孫なり八歳の時に位に即かれしが年少の比より事物に造り早くしは誤りなる可し(才)智ある人にて或るとき朝廷にて公卿百官等の相會するるとき衆人の中に梁冀を見て彼れ威張る將重なりと云へり然るに梁冀は帝の功くして此くの如き言あるは誠は油断ならぬことと思ひ深く惡み左右の近臣に云付けて毒を煮餅の中に入れて進めければ帝はとうとう死去せり此帝在位は僅かに一年有半なり改元するものは一にて本初と云へり。冀は蠡吾侯を迎へ立て是れを孝桓皇帝と云へり。

〔孝桓皇帝〕名志。章帝曾孫也。年十五即位。梁冀以定策功。益封。又封其子弟皆侯。李固杜喬欲立清河王蒜。至是蒜貶為侯。自殺。固喬下獄死。○前朗陵侯相潁川荀淑。少博學。有高行。李固李膺等皆師宗之。相朗陵。治稱神君。子八人。時人稱為八龍。其六曰爽。字慈明。人言荀子八龍。慈明無雙。縣令命其里曰高陽里。爽嘗謁李膺。因為之御。既還。喜曰。今日乃得御李君矣。同郡陳寔與淑齊名。嘗詣淑。長子紀。字元方。御車。次

子諶。字李方。驂乘。孫群。字長文。尚幼。抱車中。至淑家。八龍更迭侍左右。淑孫或字文若。尚幼。抱置膝上。太史奏。德星見。五百里內有賢人聚。寔嘗為大丘長。修德清淨。吏民追思之。紀諶之子。問其父優劣於其祖。寔曰。元方難為兄。季方難為弟。○詔舉獨行之士。涿郡崔寔。至公車。不對策。退而著政論。略曰。聖人能與世推移。俗士苦不知變。以為結繩之約。可復治。亂秦之緒。干羽之舞。可以解平城之圍。夫刑罰者。治亂之藥石也。德教者。興平之梁肉也。以德教除殘。是以梁肉治疾也。以刑罰治平。是以藥石供養也。自數世以來。政多恩貸。馭委其轡。馬駘其銜。四牡橫奔。皇路險傾。方將拊勒。鞅鞅以救之。豈暇鳴和鑾。清節奏哉。昔文帝雖除肉刑。當斬右趾。棄市答者。往往至死。是文帝以嚴致平。非以寬致平也。仲長統見其書曰。凡為人主。寫宜一通。置之坐側。○朱穆為冀州刺史。令長望風解印去者數十人。及到。奏劾貪汚。有宦者歸葬父。用玉匣。穆案驗。剖其棺出之。上聞大怒。徵穆詣廷尉。太學生劉陶等數千人。上書訟穆。謂中官竊持國柄。手握王爵。口銜天憲。穆獨亢然不顧。竭心懷憂。為上深計。臣願代穆罪。上赦之。陶又上疏乞以穆及李膺輔王室。

書奏不省。○梁冀凶恣日積。以外戚用事者二十年。威行内外。天子拱手而已。上與宦者單超等謀。勒兵收冀印綬。冀自殺。梁氏無少長。皆棄市。超等五人皆侯。自冀誅天下。想望異政。黃瑒首爲太尉。(高陽里) 昔し顯

のとき高陽氏に若舒賈豎大臨臨降庭堅仲容叔達と云へる才子八人あり共に舞に用ひられたり故に縣令斯く名づけたるなり(驢乘)車の乗りぞ(德星見)德星は日出度き星なり國に道あるときは天に現はると云へり(公車)吏民の章奏を受附る所とす(對策)朝廷より出されたる試験問題に應ずるなり(結繩之約)上古の別文字と云ふものなく繩を結びて約を成せり(干羽之舞)干は盾なり羽は騎なり舞ふものより二物を持てり古昔舞のとき有苗の國反さければ舜は干戈を用ひず此の舞を以て天下に無爲を示したるに反國皆徳に感じて服せり(藥石)藥には石質のもの多きを以て藥石と云ふ(梁肉)梁は糯米にして肉は鳥獸魚介の肉なり(四牡橫舞)四牡は四正のおし馬なり天子の車には四頭の馬を付けたる故に此く云ふなり扱て御者が惡しきを以て馬がきまに亂れ走るなり(拊鞀)鞀は手網なり拊は持つなり鞀は束持つこと鞀は車のがねなり(和鑿)和は車につく鈴にて鑿は馬に飾さる鈴なり(講義)地を益し又冀の子弟をも封じて諸侯となせり初め李固杜喬は清河王孫と云へる矢張り帝の曾孫を立てんとせしことわりしがこゝで蘇の清河王より落されて諸侯とせられ遂に自殺し固喬の二人も獄に下されたりしが遂に死せり(前)の期峻の相に須川郡の荀淑と云へる人あり年若くして學問あり且つ品行も至て正しき人なりければ李固李膺等は皆師と尊びて仕かへたり彼れが剛強に相たりしとき國能く治まり人々に神明の君子と賞せられけり又子が廣社精潔注爽蕭若とて八人ありしが時人は彼れ等の俊才なるを以て八龍と云へりそうして六人目の男子の爽と云へる人は其字を慈明と云ひしが世人は荀氏の入龍中にて慈明が第一等の人物なりと譽めたり縣令も其里を高陽里と云へり爽は皆て李膺に面會して膺が車の御者を成したりけるに事を終り歸りて今日は彼の德望ある李君の御者たること出来たとて尊んで語りし時に同郡に陳寔と云へる人ありけるが淑と向しく名をわり或る時寔は淑の家に至りしが寔の長男紀字は元方と云へるが車をつかひ次男諶字は季方と云へるが添へ乗りをなし孫の群字は長文と云へるは未だ幼少なりしゆへ車の中に抱かれて淑が家に至りけるに荀氏の入龍入り代はり立ち替はり寔の側に行き能く待遇し又淑が孫の群字は文若と云へるは未だ幼少なりしかば祖父淑の膝の上に抱かれ主客十分の歡を盡したり斯く德望ある人々相集まれる故に太史が德星が天に現出するを見て五百里の内に賢人が集ると上申せしと寔が以前に大丘の長と爲りしとき身の行を深くし寔もむさばりたるやうのことなければ手下の役人や人民が寔が去りたる後までも思ひて忘れざりしと紀と諶の子二人が紀と諶とは何れが寔るかど祖父寔に尋ねけるに寔は何れも才徳に當下なく兄弟同等同格にして優劣をつけ難しと答へけり

扱て詔して正道を守りて人に阿らざる士を選らび器げらるる時に派部の崔寔と云へる人獨行の科に應られて洛陽の公車府に在りけるが考ふる所ありて病を稱し策問に應ずりして引き返し政論一篇を著しけり其大畧を擧ぐれば聖人は物に滯せず世の成り行きに付きて其の時々の宜しき方によりて世に處すれども俗士は時の變遷を知らず只心を苦しめ一方に泥むものにて其心に思ふには上古の簡易なる繩を結びて約束したるやうなことも人心の腐敗せる秦の乱世に行ふて事を治むること出来ぬ昔又舜の有苗を服せしとき如き歌舞音楽にて高祖が平城にて匈奴四十万の大軍に圍まれたるを解かんを以ての外の考をなせり誠は俗士は迂なるものなりかゝる迂なる考を以て國を治むるは固を亂ると云ふても諷諷ではなし全体國を治むるは一身を治むる如きものにて平生壯健なるときハ梁肉を食し生を養ふて病氣の起らぬやうにするも一たび病に罹るときは如何に澤山の梁肉を食するも治すること出来ず是非とも藥を飲まねばならぬものなり之れを譬ふるに刑罰を重くするは世の紛亂せるを治める藥にて德教ハ國の太平なるを引き起すに用ふる梁肉なり扱て德教を以て殘賊を除かんと思ふは丁度病あるに當りて梁肉を食ひ平愈を待つが如く又刑罰を以て太平を治めんと考ふるハ平生壯健なるときにも藥を飲む如きものにて二つながら其用を異にし少しも世に益なきのみならず却つて害あるものなり我が朝五六世前より兎角政が實に恩澤を溥りに下し罪惡を産するを以て下民は上を輕んじ誠に云ふに忍びざるもの多し譬へば御者が馬の手綱を棄て放ちて手に執らざるがゆへ四匹の馬は轡をばづして氣まゝに走り天子の車の轡覆するはと危険のこととなりぬかゝる場合にありての急に手綱をしつかと取り直し車は轡をひきつけ馬の走ることを十分止めるの外に方なきなり何の暇があつて車上に安樂に坐し鈴を鳴らして拍子を取るが如きことが出来べきや今の時は即ち是れなり上に立つ御者が取りしまりなくして人臣は上を凌ぎ天下大に亂るゝの時なればなにに悠々寛々と德教のみを云ふ可きの時ならんや宜しく刑に貸す所なく罪あるものは十分厳しく罰す可し然かするときはかゝる乱世にても救ふことを得べきなり往古肉刑とて入墨真切り足切り等の刑ありしが文帝は其臣の願によりて此の肉刑を廢したるも此刑の中右足切る可きものは殺して免るべき又管たるものは往々死に至ることありし去れば文帝は嚴を以て太平をなせしものにて寛を以て治めたるにわらざるなりと論じたり山陽郡の仲長統は其書を見て深く感服し凡そ人の君たるものは此世一通を寫して側に置き大に參考となるものなりと云へりとも是れより先き冀州に洪水ありて民の飢に苦むもの數十方なりしも縣令邑長等は是れを顧みざりければ人民の困難は方なく此の報遂に京に聞へけるより朱穆を冀州の刺史となしたり然るに朱穆は嚴正なる人なりければ縣令邑長已れの姦たるを知られ罪せられんことを恐れ未だ穆の到着せぬさきに印綬を解き已れ等の郷里に逃げ歸るもの五六十人ありさて朱穆は任地に到着して直ちに官吏の賂賄を貪り品行の汚れたるものを取り調らへ奏上して皆それそれ罪をつけたり時に宦官趙忠と云ふもの父が死せしにより京より冀州に歸りけるが其遺骸を葬むるに玉匣とて金縷の玉衣を製し天子の葬と同様なる仕方にて埋葬しければ穆は直ちに吟味して其棺を掘り出し打ち破りて其屍を出したるに帝の怒り穆を斷獄官に召して罪せんとせり時に大學生劉陶等數千人は上書して穆に罪なくして宦官に罪あることを訴へて近比宮中に奉仕する宦官の輩は私かに朝廷の權柄を持ちて手に玉

侯の爵祿を握り口より天朝の法憲をばき出して諷りに人を生殺し一たび彼れに従ふときは忽ち高位高官に上せり一たび彼れに抗するときは法律刑罰に中る故に朝廷の人々は恐れざるものなく又従はざるものなし然るに穆は更に頓着せず剛強身の害を顧みず彼等の朝廷を輕蔑するを見て力を極めて矯正せんとし朝廷の爲めに能く計りしものにて手柄あるも罪なきなり然るを今穆を罪せんとすれば臣を以て穆に代へて相當の刑に處せよと云ひければ帝も是れに感して穆の罪を免るしけりそこで陶ハ又數箇條を擧げて朱穆と李膺とに王室を輔佐せんことを願ひければ帝も採用ならざりき茲に梁冀と云へるは恒帝の後の兄なるを以て威權益す盛なるに従ひ凶惡わがまなることも日々に積り只外戚と云へる故にて政事を執ること二十年に及び威光は朝廷の内外に行はれ天子は手を袖にして少しも略に與らず只冀の爲す所にまかせたるに冀は益々善に長じ後々國家を害し万民を害するに至りしかば帝も耐へ兼ね宜者なる單超徐璜具瑗左瑄唐衡等と相談して兵士を召集し冀が大將軍の印綬をとりわけ冀を圍み攻めければ冀及び其妻は皆自殺せりそとて梁氏一族は小兒大人の區別なく殘り無く殺されたりそこで宜者なる單超等五人は其功によりて皆侯に封せられけり冀が誅せられてより後は天下の人民は從來と異りたる善政あれかしと待ち望みしに冀と云へる賢臣が用ひられれば一着に太尉となりて天下の面目大に改まりぬ

○陳蕃薦處士徐穉姜肱等穉字孺子豫章人陳蕃爲守時特設一榻以待穉去則縣之穉不應諸公之辟然聞其死輒負笈赴吊豫炙一雞以酒漬綿乾暴裏之到家隧外以水漬綿白茹藉飯以雞置前祭畢留謁不見喪主而行肱彭城人與二弟仲海季江俱孝友常共被嘗遇盜兄弟爭死盜兩釋之穉肱被徵皆不至黃瑒卒四方名士會葬者七千人穉至進爵哀哭置生菑墓前而去諸名士曰此必南州高士徐孺子也使陳留荀容追之問國事不答太原郭泰曰孺子不答國事是其愚不可及也泰初游洛陽李膺與爲友膺嘗歸鄉里送車數千兩膺惟與泰同舟而濟衆賓望之者如神仙焉容年四十餘畊於野

遇雨避樹下衆皆箕踞容獨危坐愈恭泰見而異之遂勸令學鉅鹿孟敏荷甌墮地不顧而去泰見問之曰甌已破矣視之何益泰亦勸令學自餘因泰獎進成名者甚衆泰舉有道不就曰吾夜觀乾象晝察人事天之所廢不可支也陳留仇香名覽年四十爲浦亭長民有陳元母告元不孝香親到其家爲陳人倫感悟卒爲孝子考城令王渙署香爲主簿謂曰陳元不罰而化之得無少鷹鷂之志邪香曰以爲鷹鷂不若鸞鳳渙曰枳棘非鸞鳳所栖百里非大賢之路乃資香入太學常自守泰就房見之起拜床下曰君泰之師也不應徵辟而卒○自黃瑒以來三公如楊秉劉寵皆人望寵嘗守會稽郡大治被徵有五六老叟自山谷間出人資百錢送之曰明府下車以來狗不夜吠民不見吏今聞當見棄去故自扶奉送寵曰吾政何能及公言邪勤苦及老爲人選一大錢受之後入爲司空秉立朝正直爲河南尹時嘗以忤宦官得罪後爲大尉以卒陳蕃繼秉爲太尉數言李膺以爲司隸校尉宦官畏之皆鞠躬屏氣不敢出宮省時朝廷綱紀頽弛膺獨持風裁以聲名自尙士有被其容接者名爲登龍門云(字解)

(處士)人の仕官せぬ者(穉)腰掛蓋なり(白茹)精飯(白管)の草を以て飯の下しきものにする(南州)高士(徐穉)の生國(豫章)郡にして當時

楊州に屬し支那の南方に當れり故に南州の高士と云ふなり(箕踞)兩足を差して坐す形其の如し故に云ふ(危坐)足の踵を重ねて坐することなり(飯)飯を蒸すの器なり(鷹鷂之志)刑罰嚴ならずして只慈愛のみに亙りて恩威二つながら行はれぬを云ふ鷹も鷂も共に鳩や兎を捕りて食する鳥にして刑罰を嚴にするに比すなり(鷓鴣)二鳥共に慈みある鳥なり(枳棘)刺のある木なり(羶躬辟氣)身を屈めて意氣を殺しひつそり縮み込みて恐れる形容なり(綱紀)綱は大綱にて紀は小綱なり法律政度を云ふ(風起)風儀体裁なり(登龍門)名聲の上がること鯉魚の龍門の淵を跳り登り化して龍となること云ふ俗説の如く身極めて榮を得るを云ふなり

〔講義〕 陳蕃は此時尚書令の職にありしが處士の徐穉等五人を上に申し上げて朝廷に用ひける此の徐穉と云へる人は其れ徐穉が來るときは直ちに一の腰掛を出して共に對談し穉が歸れば腰掛を壁間に懸けをきて他人に寄らせず是れ陳蕃は徐穉を優待せるものなり穉は屢々諸公より仕官せんことを申し越さるゝも承賂せずされども其人が死することを聞くときははいつも直ちに買ひを荷ふて行きて弔ひけるをうして其行を稱する前に先づ一羽の雞を燒き又酒にて綿を濡し夫れを日光に干し乾かしてこのやきたる雞を包み扱て幕所に至り水を以て此乾きたる綿を漬たして酒となしをうして白き管を地にしき其上に一升ばかりの飯を置きて彼の雞のやきたるを其前に置き即ち酒肉飯の三品を供し幕前に向ひて靈魂を慰め祭り終りて自分の名刺を濁し裏主に達はすして去れり扱又美臆は如何なる人かと云ふに彼れは彭城の人にて仲海季江と云へる二人の弟もありて三人共に孝行に且つ友愛なる評判高く常に夜具を三人仲間にして起き臥しするはを陸じかりき或る時季江と一緒に某所に至りけるに途にて多くの強盜に出逢ひ殺されんとせるに兄は盜に向ひ自身を殺すとも弟の死を免されんことを乞ひ弟も身を殺して兄の死を許されんことを乞ひ互に死を争そひければ盜も大に感じて兩人とも許るしけり此二人の處士は陳蕃の進めにて朝廷に召されたれども斷はりて至らざりき大尉黃瑒が卒するときは四方の名士薈りに會するもの七千人の多きに及びたりしが穉も行き兼ねて用意せる酒を爵につぎて幕前に差上げ大聲を出して泣き生の草を墓前にきて去りけるに其處に會せる諸名士の此れは彼の南州の高士なる徐穉子ならん何とか留め置きたるものなりとて皆々評議の上陳留の府容に穉の跡を追はしけるに早速追付き扱て當今國家の急務を問ひければ穉は何の返答もなきやうければ容は如何とす可きやうなく引き返して右の次第を皆の名士共に語りけるに太原なる郭泰は穉子の返答せぬのは彼れ自から身を晦まして愚なるが如くし今日の時勢は論じたりとて無益なりとて頓着せぬことなる可しと云ひ大に穉子に感服せり此の郭泰と云ふ人は嘗て洛陽に在りしとき李膺と意氣相投合し尤も深き交りなりしが程なく泰は郷に歸らねばならぬこととなりたれば洛陽の諸士泰の別を惜み送り來るもの車數千輛の多きに至れり泰は膺と只二人にて舟を同くして河を渡り岸頭に饒別しけるに多くの送り來る人々は二人の様子を丁度神仙のやうにて中々俗人にあらざると褒めたり扱て郭泰は年四十餘りにて田野を耕作せるに或日大雨に出遇ひけるゆへ皆が木の下に避け兩足を投げ出して不行儀なりしも容は危坐して行儀正しければ泰は見て如何にも通常人と異なる考を起し進めて學問せしめけるに果して立派なる士となれり又鉅鹿郡の孟敏は飯を

荷ふて行けるに誤りて地に落とし跡を振り向きもせず立去りければ泰は見て奇妙に思ひ尋ねければ敏は答へ飯はもはや破れたり振りかへりて見るも益のなしと云ひければ泰は大に其心に感し進めて學問させたり其外泰に進められ學問し名を立てしもの甚だ多かりき泰は有道の科に採用せられたれども辭退し我れは夜は天文を見置は世の中の事を考ふるに天より漢を見察する所なればはや交へることを得ざるなり我れ世に出で奮發するも益なしといつそ安樂に年を終へんと云へり又陳留郡の仇香は名を覽と云ひ四十の年に蒲亭の長となれり時に蒲亭の民に陳元と云ふものあり其母元が不孝なることを申し立てたれば香は自分元が家にきて人間の爲す可き道を説き聞かせしに元は始めて感心してとうとう孝子となりたり孝城の令なる王奐は香を譽げ用ひて主簿の官に任じけるが或るとき王奐は香に向て君の陳留に居るとき陳元の罪を罰せず其家に至りて罰さざとせしよしなるが是れは刑罰をすて慈仁のみにかたより手ぬるき仕方ならんと云ひけるに香は私考ふるに刑罰の嚴重なるは懲罰の物を擱むか如く仁慈の徳あるか如く能く人を感化すること徳に及ぶものなしと云へば奐は大に感心し扱て積棘は鷓鴣の如き上等の鳥が棲む所にはあらず百里位の小縣は君の如き大賢人の事を治むるに足る所にあらず君の如き大賢人は今此處に止り區々たることに身を置くとは誠に惜し人物なりと云ひそて香を京師に遣り大學校に入れ其學資金は皆王奐が支拂ひたりさて香は大學に入りてより常に自ら身を修めて名聞利欲を好まざりしが一日郭泰は校の房舎に行き香に面會し床下に拜禮し君は泰の學友にあらず實に師と尊ぶ可き人なりと云へり香は後學問卒業して朝廷より召され郡府より召さるゝも天下の治む可からざるを知りて應せずしてとうとう其郷里にて一生を暮しけり扱て黃瑒が太尉となりしより三公にて楊秉劉寵の如き人の皆徳望ある人なり中にも劉寵は嘗て會稽郡の太守たりしとき一郡大に治まり其評判高く立身して京に召さるゝことになりしが時に五六人の老翁が山谷の間より出で來り何れも一白錢を以て寵に呈し從來の郡の太守方の時は盜賊大に我れ等を害し郡の吏は度々民間に來りて税を取ることを嚴くせしが一たび賢明なる閣下が此の郡に來任せられしより盜賊の徘徊することは更に無き故に犬が夜中に吠へ廻ることなく郡吏が人民に催促せざるが爲めに人民は吏を見ること無く誠に太平なること閣下の徳を思ひ喜ひ居りけるに今や閣下は私共小民を捨て玉ひ遠く京師に上ほらると聞けり因て一たび閣下の恩を謝し閣下の別を送らん爲め杖を力に老を助けて茲に來たりしなりと口を捕へて陳べければ寵は吾が政はさうして君等の云ふ通りならんや誠に老人を遠路の處に足勢させたりと云ひ名々か呈する百錢の中より一人ごとに一の大なる錢を選んで受けたり後に朝廷に入て司空となれり扱て又錫乘も朝廷にありて正直に事を執りしが以前に河南の尹たりしとき官官の意に忤ふことありて罪を得たりしが後に太尉となりて死去せり陳蕃は乘に繼て太尉となり度々李膺が人材なるをよ上奏しとうとう司隸校尉と爲しければ官官は皆膺を恐れて窮屈に思ひ無遠慮に宮省を出でず時に朝廷の政事は大に衰微せしも膺は獨り風儀を正しくし聲名譽を以て自から尊びたり故に當時の士は敬慕し交際して優待せらるゝ人は登龍門と云ひ稱譽せられたり

○以劉寬爲尚書令寬嘗歷典三郡多仁恕吏民有過以蒲鞭

召して獄に下だし死罪に行はんとせり時に山陽郡の太守なる程超は張儉を以て寄郵となし宦官の此の地にありて百姓を妨げ時の制に越へて身分不相應なる墓所や家宅を起したるものを破り壞し又東海王の相なる黃浮も宦官の其地におりて法を犯したるものを捕へて殺しければ宦官も冤罪なることを官に訴へしかば超浮も皆罪せられたり陳蕃は瑯琊超浮の罪なきことを度々諫むれども帝は聽かず又宦官は人に頼みて上進させ李膺が事を訴へ膺等は太學の遊士を養ふて共に徒党を組み朝廷を誹り風俗を乱だすものなりと云へりそこで帝は大に怒り郡國に人を出して右宦官の云へる徒党を捕へよと命し其命令の文案が三公の府に廻り來れるに蕃は退けて承詔の詔を捺さざりし帝は彌上怒り將相大臣を治する北寺の獄と云ふ所へ膺等を下だし罪を糺せしに其口供によりて連累者は杜密陳寔范滂等二百餘人に及べりそこで使者が彼等二百餘人を追捕の爲めに四方へ出で行けり蕃は又強て諫めしに帝は之れを惡み策書を以て蕃の官位を奪ひければ朝廷の人々震るひ恐れてもはや党人の爲めに一言も言葉を出すものなかりけり當時賢彪は其郷に歸り居けるが今都の騷動を聞きて吾れが西の方郡に上らざるは此の大難儀に治らぬと云ひそよで洛陽に行て皇後の父なる袁武に説きて云ひ歸りて事を治めんことを進めけり丁度膺等の裁判を取り調へたるに其口供に宦官の子弟の惡事を並らべ立てければ宦官も此の口供を恐れ帝に申して党人二百餘人を免るし皆其郷里に返へし名前を三公の府に書き遺して一生出仕を辭しく止めけり帝は在位二十一年にて改元するもの七つ建和和平元嘉永興永壽延熹永康と云へり上崩して寶皇后は解渫亭侯を迎へ立てり是れを孝靈皇帝と云ふ

〔孝靈皇帝〕名宏。章帝立孫也。年十二即位。竇太后臨朝。竇武爲大將軍。陳蕃爲太傅。徵天下名賢。李膺杜密等皆列于朝。天下想望太平。蕃武共議以宦官操弄國柄。濁亂海內。奏誅曹節王甫等。謀泄。宦者夜召所親。歃血共盟。請帝御前殿。作詔板。拜王甫黃門令。使其黨持節收武等。誣以大逆。先執陳蕃殺之。武自殺。梟首都亭。遷太后於南宮。○李膺初雖廢錮。士大夫皆高其道。而汚穢朝廷。更相標榜。爲稱號。以竇武陳蕃劉淑爲三君。言一世之所宗也。李膺荀昱杜密王暢劉祐魏朗趙典朱

寓爲八俊。言人英也。郭泰范滂尹勳巴肅宗慈夏馥蔡衍羊陟爲八顧。言能以德行引人也。張儉翟超岑暉苑康劉表陳翔孔昱檀敷爲八及。言能導人追宗也。度尙張邈王孝劉儒胡母班秦周蕃嚮王章爲八厨。言能以財救人也。及陳蕃竇武用事。復舉拔膺等。陳寔死。膺等復廢錮。曹節諷有司。奏諸鈞黨。膺詣詔獄。考死。滂就捕。母與訣曰。汝今得與李杜齊名。死亦何憾。滂跪受教。再拜而辭。顧其子曰。使汝爲惡。惡不可爲。使汝爲善。我不爲惡。聞者爲之流涕。黨人死者百人。其死徒廢錮者。又六七百人。郭泰私痛曰。詩云。人之云亡。邦國殄瘁。漢室滅矣。但未知膽爲爰止于誰之屋耳。泰雖好減否。而不爲危言覈論。故處濁世而禍不及焉。○詔諸儒正五經文字。命蔡邕爲古文篆隸三體書之。刻石立太學門外。○上好文學。引諸生能文賦者。並待制鴻都門下。置立太學。諸生皆斗筭小人。君子耻之。○開西邸賣官。各有賈。崔烈以五百萬得司徒。問其子以外議如何。子曰。人嫌其銅臭耳。○鉅鹿張角以妖術教授。號太平道。符水療病。遣弟子遊四方。轉相誑誘。十餘年間。徒衆數十萬。置三十六方。大方萬餘。小方六七千。各立渠帥。一時俱起。皆著黃巾。所

在燔劫旬月之間天下響應遣皇甫嵩等討黃巾嵩與沛國曹操合軍破賊操父嵩爲宦者曹騰養子或云夏侯氏子也操少機警有權數任俠放蕩不治行業汝南許劭與從兄靖有高名共覈論鄉黨人物每月輒更其題品故汝南俗有月且評操往問劭曰我何如人劭不答却之乃曰子治世之能臣亂世之姦雄操喜而去至是以討賊起○皇甫嵩討張角角死嵩與其弟戰破斬之○上崩在位二十二年改元者四曰建寧熹平光和中平子辨立何太后臨朝后兄大將軍何進錄尚書事袁紹勸進誅宦官太后未肯紹等畫策召四方猛將引兵向京以脅太后遂召將軍董卓之兵卓未至進爲宦官所殺紹勒兵捕諸宦官無少長皆殺之凡二千餘人有無鬚而誤死者卓至問亂由辨年十四語不可了陳留王答無遺卓欲廢立紹不可卓怒紹出奔卓遂廢辨陳留王立是爲孝獻皇帝(字解)(操弄)自由國の權柄をなすものにする(詔板)詔命を記するもの即ち詔書なり當時を撰と云ひ書を掲げて人に示すを榜と云ふ(銅憲)黨人のことなり互に引き助けて黨を爲すゆへに銅憲と名づけたり(詔獄)獄は天子の命する所なるゆへ詔の字を付す當時左右都司空上林中郎官皆詔獄あり詔を奉じて囚人を鞠す(考死)考は拷に全し拷問さびしくして死せるなり(危言駁論)言葉をひかへめせざるを危言と云ひ論議を立てきびしく論ずるを駁論と云ふなり(古文彙錄)古文は古代の科斗の文字彙は大篆小篆の二体あり大篆は周の字小篆は及後漢の時代に作りし字体なりと云ふ(待制)召し出さるるを待つなり(斗宵小人)斗宵は一斗二分を容る竹升なり心細しく見識なき生徒にて科にて量るはと云ふものと云ふなり(有賈)賈

ハ價に同じ夫れ夫れ定價あるなり(據其銅臭)公選の司徒ならずして錢を以て買ひたる官なれば人々錢くさしと嫌ひ恐むばかりなり(符水)神符神水共に病を治する材料(轉相誑誘)それからそれへと段々たましきさうなり(所在燔劫)燔は焚なり劫は刀を以て脅かすなり至る所家屋をやき材寶を奪しとるなり(機警)まてんを能くきかしてすばやきことなり人より我れを圖らんとすれば直ちにさとりて其覺悟をなすが如きことなり(輔政)人を手段にかけて引き廻す(詔獄)時々其人物の進み退くに從て改めるなり例令へば今月聰明の顯なりしも來月は頑愚となり去月柔弱と云はるるも今月は武健とかはるる等なり(蠶桑)手くばりを定む(背)かへんすと讀むは惡し、宜しくうけがはずと讀む可し凡て外に文字なく單に未肯又は不肯とあればうけがはずにて不行肯又は不來肯とあるときはかへん(講義)孝獻皇帝は名を宏と云ひ皇帝の玄孫なり年十二にて位に即き廢太后が朝廷に出で、政事を執りしと杜密等の如き賢才の人は皆招に應じて朝廷に列し政事を輔佐しければ天下の人民は世が再び太平に復し漢家盛ならんことを待ち望めり然るに蕃武二人は共に評議して昔日より相かひらず宦官は國の威權を自由にしなふるものにして世の中をにせし亂れすにより帝に申し上げて其巨魁なる曹節王甫等を殺さんよと企てけるに其の事が宦官共に泄れ聞こへたりければ宦官は大に驚き夜中に親しき者共十七人を召し瑛め血を飲りて心を變じす武等を誅せんことを望み直ちに帝に願ふて前殿に臨御し詔を作りて王甫を官者の長なる莖門金に拜し其黨を使者となして節亦を執りて馳せ向ひ武等を大逆無道なりとて無理に罪を付けて先づ陳蕃を捕へて殺せしに武は走りて自殺せりそふで二人の首を洛陽城内の御亭に掛け曝らして人に加し太后を南宮に遷せり是れより宦官再び志を得たれば君子の黨人を思ふ李膺等以下百餘人は殺されたり初め李膺は廢銅せらるれども天下の士大夫は皆膺の守る所の道を高しとし却て朝廷に宦官小人の多く集まるのを汚かれたりとして人々代る代る黨人中の名望あるものをはめわけ種々の稱號を作り即ち宦官陳蕃劉淑を三君と云へり其時世に於て人の尤も尊敬する本とする所なり李膺尙是杜密王暢劉祐魏朗趙典朱寓を八俊と云へり其時世に於て英傑といふことなり郭泰范滂平勳巴邨宗慈吳續蔡衍羊陟を八顧と云へり其時世に於て人を受順し德行にて引き進めると云ふことなり張儉趙舉陳劭陳翔孔昱程璜を八及と云へり其時世に於て能く財貨を以て人の困厄ばすを以て人も亦追慕してやまざることなり度衡張邈王孝劉備胡班蔡邕周蕃劉王章を八厨と云ふ其時世に於て能く財貨を以て人の困厄を救ふことにて厨は食を調ふる所なるを以て此く云ふなり扱て武蕃が世に出で、事を執るに至りて再び膺等を扱きんで、擧げ用ひられしが武蕃等が死してのち又禁錮せらるるのみならず宦官から恐まるるゝととも一層深くとうとう曹邕が保りの役人に夫れと歸らざるを知り刑辭を陳べて汝は今李膺密の如き賢才と美名を同ふすることを得たる上はもはや何にも残り惜しきことなければ世の免罪を受くることも天命とあきらめ深く死せよと云ひけるに滂は跪きて母の教を受け再拜して暇乞ひし扱て其子を振りかへりて當今の世の中は小人用ひられて君子捨てらるる時なれば我れ汝に惡をせよと云はんと思ふも中々荷りにも惡をすまじきもの

なり終らば汝に善をせよんと思ふも我れは善をしなから此の如き禍を受くるゆへぞうも云へぬことなりと遺言して別かれければ聞く人々ハ傍父子の情を思ふて涙を出し泣かぬものなかりきこのとき蘇人の殺さるゝもの百人其他死に就きたり無地に徙されたり終身細禁されて仕途の廢せらるゝもの實に六七百人の多きに至れり郭泰は私かに世の爲に痛み世の賢人君子が殺され亡びたれば邦國は屹度絶へ亡ぶと云ふことは詩經の文中に云へるが今の漢家は此の如きことにて賢人君子を此く無慘に殺し尽くせばもはや滅亡近きにあるなり又詩經中に彼の鳥を見るに食を求めて爰にわれども久しく止らず何れにか飛び去らん是れ何れの家に行て止まるか未だ知らぬと云ふことあるが丁度今の漢家も道から亡ぶるが其後の天下は何人の手に入るやら未だ分らぬがさて近比の事變は歎ず可きなりと云へり此の泰と云ふ人は平生好みて時事の得失人物の善惡を論ずれども言葉をひかへめにしてびしびしと烈しく論せざるゆへかゝる濁りたる世にありても禍が身に及び來らずして全く免れをせけること益平四年に諸儒に昭して詩書易禮記春秋の五經の中の誤りを改め正させ又蔡邕に云ひ付けて古文篆隸の三体を作りて書かせ石に刻みて太學の門外に立てしに碑の立つとき來り寫すもの日に千人なりと云ふ帝は此の如く文學を好みて諸生の詩文章を能くするものを引き出し一同洛陽の鴻都門下に止まりて命を待たせ又新に鴻都門内に一の太學を設立し諸生を教育する所とせり然るに此の諸生は皆斗背の小人にて心ある人々ハ耻とせり是の洛陽の西に店のかき邸宅を開き名づけて西邸と云ひ此の西邸にて政府の官職を賣り擲きけるが各代價の定まりたるあり時に強烈と云へる人ハ錢五百万にて司徒の官を買ひ扱て其子なる崔鈞に世人の風評如何ぞやと尋ねけるが鈞は只錢くさきを嫌ふの外別に濫評とてはなしと答へける扱て此と如く政道衰ふるの間に乘じ賊の起るは勢の免れざる所にて鉅鹿郡に張角と云へる強賊兵を擧げて叛きける張角は黃帝老子の道を奉ずると稱し妖しき術を門人に教授し太平道と號せり其方は神符神水などにて人の病を療治し弟子を四方に遊説させ此の法を施しつたり夫れから夫れへと段々廣く人を誘ひ込み十餘年の間に徒衆六七十万となり三十六の將軍を置き大將軍の部下には万餘人あり小將軍の部下には六七千人ありとす各首領を立て一時に兵を起し皆黃なる頭巾を着て出で立ち處々をやきはらひてかすめるを以て皆其勢に恐れ十月ばかりの間に天下響應するが如く附き従ひければ帝ハ大いに恐れ北地郡の太守なる皇甫嵩等をやりに征伐させけるに嵩は沛國の曹操と軍を合せて賊を破れり操の父なる嵩は宦官曹騰が養子となりて曹氏を唱ふれども夏侯氏の子なりとも云へり此の操と云へる人は年少にして機に應ずるの才ありて權謀術數に長ゆり其性質は任侠とて金錢を惜まらず身命を輕して人を救ひ且つ放蕩とらしくして家業を働らかず時に汝南郡の許都と云へる人は其從兄なる靖と名高く共に近在所々の人物を評論して毎月朔旦に前月分の人の行爲の變更するに付きて其人物の名目を改め褒貶するを樂みとせるが人々聞き傳へ汝南令郡の知る所となりつひに月旦評と云ふ名が付きけりさて操も此の事を聞き傳へ往て我れい如何なる人物か評せよと云ひけるに操は賤みて返答せざれば操ハ怒り刀を抜きてをせしけるにそこで已むを得ず勸は貴君は天下治まるときは才能を盡して國の用をなせとも天下乱るときは智を逞ふして事變をひき起す英雄なりと云ひければ操は心の中に能く當れりと思ひ喜んで去りけるが今や黃巾の賊の世を驚かすに當りて之れを征伐する

爲め始めて立身の基を開きぬ扱て皇甫嵩が賊の巨魁張角を討ちて角は死しければ嵩は角の弟なる張梁と戦ひ破て斬り殺し餘衆は悉く平ぎたり己にして帝死去せり帝の在位ハ二十二年にて改元するものは四つ建寧熹平光和中和と云ふ子の辨立つ何太后ハ朝に臨みて政事を執り後の兄なる大將軍何進は尙書事務を主せり時に司隸校尉袁紹は宦官の相更はらず我儘なるを惡みて何進に誅せよと進めけるに太后は未だ承許せぬが紹等は策を定め四方の猛將を召し兵を引きて京に向ふて出發させ又太后に無理に承許させ將軍董卓の兵を召したれども卓の未だ至らざる前に宦官が謀を知りて先きへ手を出して進を殺しければ紹も猶豫なく兵を揃へて諸の宦官を捕らへ年少半長の區別なく皆殺し尽し凡そ二千餘人の多きに至れり中には賤なきゆへ間違ふて宦官を見認められ殺さるゝものありたり當時宦官皆鬻を刺ることに極まれるゆへなり追々卓も馳せつぎ太子に向ひ亂の仔細を尋ねけるに太子は年十四にもなりて言葉すこしも解し得ず因て其弟なる陳留王に尋ねけるに殘らば事の由を答へければ卓は此人を立て辨を願はんことを相談せしに袁紹は承許せざりければ卓は怒りしゆへも亦怒り意見互に相容れざるより紹はとうとう冀州に出奔せり卓はつまり辨を願し陳留王を立てける是れを孝獻皇帝と云ふ

〔孝獻皇帝〕名協九歳爲董關東州郡起兵討卓推袁紹爲盟主卓燒洛陽宮廟遷都長安長沙太守富春孫堅起兵討卓至南陽衆數萬與袁術合兵術與紹同祖皆故大尉袁安之立孫也袁氏四世五公富貴異於他公族紹壯健有威容愛士士幅湊術亦俠氣至是皆起堅擊敗卓兵術遣堅圖荊州爲劉表將黃祖歩兵所射死○司徒王允等密謀誅卓中郎將呂布膂力過人卓信愛之嘗小失卓意卓手戟擲布布避得免允結布爲內應卓入朝伏勇士於北掖門刺之卓墮車大呼呂布布曰有詔討賊臣應聲持矛刺卓越斬之先是卓築塢于郿積穀爲三十年儲金銀綺錦奇玩積如丘山自云事成據天下不成守此以

を殺せり因て呂布は出奔せり茲に孫那なる劉備と云へるは字を玄徳と云ひ其先祖は前漢の景帝より出てたり中山なる靖王勝の血筋とす全体大なる心立てありて至て曹葉數少なく又喜も立腹も顔にハ顯はさぬ人なり又河東なる關羽と孫那なる飛龍とは兼て劉備と交り親密なりしが此度劉備が兵を起せしにより二人も從へり扱て孫堅の子なる策と云へるは其弟なる也と共に富春と云ふ處に留まり居たるか又舒と云ふ處へ移れり父なる堅が死去の時策は年十七なりしが往て其術に面會し父の殘したる兵士千餘を手に入れたり是れより以前策ハ十餘歳の時より最早世の名士と交り我名を人に知られたり茲に矢張り舒の人にて周瑜と云へるは策と同年にて周瑜も亦少年の時より英才發達せしが此時に從ふて兵を起せり扱て策は東の方に進み江を渡りて處々へ廻り戰ひしに向ふ處押て敵對する者なかりき人民は孫策が來ると聞き其暴威を恐れ皆心も身に付かぬ計りなりしが孫策の軍の至る處は一物をも犯し取ることなければ人民は皆大いに喜ひたり是れより以前に曹操は董卓を征伐せし時より樂陽に戰ひ夫れより歸りて河内の地に屯營し何程もなく東郡の太守となり郡中の東武陽と云ふ處に役所を立て夫れより又兗州に入りて橋籠り自分にて兗州の刺史となり使者を立て上登せしかば謂あつて兗州の牧とせらる扱て帝ハ長安より洛陽に還幸せしか曹操は入朝し又帝を許と云ふ處に移せり曹操は打て呂布を殺せり是れより以前に呂布は關中より宣術の處へ出奔し其後又去りて曹操に攻められ走りて劉備の處に落付き何程もなく劉備を不意打して不邪と云ふ處に橋籠りたれハ劉備は逃けて曹操の處に落付きたり因て操は備をやりて沛の土地に屯營させたり此時布は陳登を以て使者とし曹操に面會して徐州の牧となることを乞はせたるに操は許さず扱て陳登は歸り布に向ひ私に曹公に面會し呂將軍を養ふは虎を養ふか如く十分に肉に満足させよ若し肉に満足せねば人を食はんと云へは曹公は否かしからず呂布は丁度腹をやしなふ様にて飢へたるときは人に從ふも飽きたるときは飛ひ去るなりと云へりと云ふさて布は又劉備を攻めんとせしかば備は走つて又操の處に落付けり此時曹操は呂布を征伐し下邳に至りしが布は度々戰ふも皆打負け困窮して降参せしかば曹操は捕縛さずとせ彼れは虎なりと云へるが全体虎を縛するには緊しくせねばならぬなりと云ひつゝまり練り殺せり因て備は操に從ふて許に歸れり扱て宣術は以前に南陽に橋籠りしか其後壽春と云ふ處に移れり此時一の豫言書ありて漢に代り天子となる者は路に當りて高しとありければ自分の名字なる公路と云ふが此豫言に當ると云へり是れハ路に當りて高しとは魏の意にて魏に應ずることなりしなり扱て是れより術は帝號を稱し淫亂者修甚しきなり終には財産が尽き果て自分にて身を立つることならぬゆへ宣紹の處に走り倚らんとせしに曹操は劉備をやりて迎へ打たせられたは宣術は敗走して歸り大いに憤りとうとう血を吐て

死したり○孫策既定江東欲襲許未發故所殺吳郡守許貢之奴因其出獵伏而射之創甚呼弟權代領其眾曰舉江東之眾決機於兩陣之間與天下爭衡卿不如我任賢使能各盡其心以保江東我不如卿卒年

二十六○袁紹據冀州簡精兵十萬騎一萬欲攻許沮授諫曰曹操奉天子以令天下今舉兵南向於義則違竊為公懼之紹不聽操與紹相拒於官渡襲破紹輜重紹軍大潰慚憤歐血死○車騎將軍董承稱受密詔與劉備誅曹操一日從容謂備曰今天下英雄唯使君與操耳備方食失匕筋值雷震詭曰聖人云迅雷風烈必變良有以也備既被遣邀袁術因之徐州起兵討操操擊之備先奔冀州領兵至汝南自汝南奔荊州歸劉表嘗於表坐起至厠還慨然流涕表怪問之備曰常時身不離鞍腓肉皆消今不復騎腓裏肉生日月如流老將至功業不建是以悲耳瑯琊諸葛亮寓居襄陽隆中每自比管仲樂毅備訪士於司馬徽徽曰識時務者在俊傑此間自有伏龍鳳雛諸葛孔明龐士元也徐庶亦謂備曰諸葛孔明臥龍也備三往乃得見亮問策亮曰操擁百萬之眾挾天子令諸侯此誠不可與爭鋒孫權據有江東國險而民附可與為援而不可圖荊州用武之國益州險塞沃野千里天府之土若跨有荊益保其巖阻天下有變荊州之軍向宛洛益州之眾出秦川孰不箠食壺漿以迎將軍乎備曰善與亮情好日密曰孤之有孔明猶魚

ひ居れり扱て最早十町計りに近付きたるとき十艘の焼舩に一時に火を掛けたれ火勢は烈くし風力荒く船の飛ぶこと矢の標にて敵船の中に突入り見る見る延焼し北軍の船を焼きつくし烟や火先きは空一面になり人も馬も水に溺れ火に焼かれ死する者は甚た多かりし此時周瑜等は輕く出立ちたる銳き兵を引連れ雷の如く太鼓を打立て大ひに進み打ちたれば北軍の大に打ち崩され曹操は逃げて歸りたり此後度々曹操は孫權を攻めたれどもいつも思ひ通りにならざりければ操は大ひに歎息し子を生ひなれば孫權字は仲謀の權なる者を生むへきことなり先きの劉景昇の子の如き實に豚や犬の子の權なる者なりと云へり扱て劉備は荆州及び江南の諸郡を論し下せり然るに周瑜は孫權に上書し劉備は武勇にてすぐれたる生質ありて其上關羽張飛など勇猛なる大將あることゆへ此三人を一處にして程遠き國端れに居らすときは彼の蛟龍か雲雨を得て上天しいつまでも池の中に居らぬと同様にて恐らくは非常なることあらん夫れゆへ劉備を吳に移し飽まで富貴の樂みをさせ關羽張飛は吳の爲めに使用せんと云ひしも孫權は關羽れさうし瑜は丁度北の方なる曹操を圍らんとせしに病氣に掛りて死去せり因て魯肅は代りて周瑜の兵權を取れり又肅は孫權に勸め荆州を劉備に借し共に操を防かんと云へば孫權は聞入れたり茲に孫權の大將に呂蒙と云ふ者ありしか初めは學問せざりしが孫權は頼りに勸めて書を讀ませたり其後魯肅は呂蒙と事を議し大ひに驚き君は又以前の吳の部下にありし蒙殿にあらざる實に立派なる人物となれり云へば呂蒙は去ればなり志むる士は別れて僅に三日なるも目をすり拭ふて接するものなること云へり是れより以前劉備は關羽を採用して宋陽縣の令とせしに縣下は少しも治まらざりし然るに魯肅は書面を劉備に送り彼の臨統字は士は元百里計り小地方を治める才にあらざるせめて治中別駕となせし其才力を伸るを得んと云へば劉備は別駕に採用して親信せり因て統は益州を取ることを勸めしゆへ劉備は關羽を留めて荆州を守らせ兵を引て江流を逆上り巴郡より蜀郡に入り劉璋を不意打して成都に入り劉備は最早益州を取りたれば孫權は使者を立て先きに貸したる荆州の返却を求めたれども劉備は返すことを承知せず夫れより荆州を争ひしが又和睦して荆州を東西に分けたり劉備は又蜀より漢中を取り自立して漢中王となれり扱て漢中の大將なる關羽は江陵より出て樊城を攻め襄陽を取りたれば許都より南の方はむれこれと遠くより關羽に御方し關羽の威名は支那全國に鳴り渡りたれば曹操は許都を他に移して關羽の鋒先きをよけんと評議するまでに至れり此時司馬懿は扱て劉備と孫權とは外部は親密なれども内心の謀略にて又關羽が斯く思ひ通りにするは孫權は屹度顧ふ所ならず因て人をやり孫權に勸めて關羽の跡を追はせ附ては江南の土地を割き分ちて孫權を封することを許せば必ず承知せんと云へば曹操は此事に従へり此時吳の魯肅は已に死去し呂蒙が代りて軍政を取り心に關羽を奪むる者とし孫權に進め關羽を圍らせたり此時曹操の軍勢は樊城を救ひ又孫權の大將なる陸遜は關羽の後を不意打したれ關羽はうろたへて走り歸りしか程の軍勢は關羽を生取りて切り殺しとうとう荆州を定めり是れより以前曹操は兗州の牧より入りて丞相となり冀州の牧を領し又魏公に封せられ鄴の地に銅雀臺と云ふを作れり其後位を進められて王となり妾り天子の車馬衣冠を用ひ又出入のときは天子と同様に階梯ひをさせたり又子なる丕を王太子となせり操は死去し丕が立ち自分で丞相冀州の牧となれり然るに魏の詳は皆云ふに魏は漢に代り天子となる筈なりと云へば曹操は帝に迫りて

三國 漢

附魏吳二僭國(字解)

(傳)おかすの意にて臣下の身分にて出来ぬことを稱禁よりすることにて乃ち蜀漢が帝號を繼ぎたるに矢張勝手に帝王と云ひ國を立てることゆへ傳と云ふなり扱て此三國記は曾先之の編する所にあらず明の劉劭が改正せしものにて其傳は下の小引に詳らかに記載せり

按曾氏云天下非一統者本可各自一國編集又恐初學讀者迷其時代之先後今但以一國源流相接者爲提頭而附同時之國於其間而曾氏仍陳壽之舊以魏稱帝而附漢吳刻既遵朱子綱目義例而改正少微通鑑矣今復正此書以漢接統云(字解) (按)考なり此一章は改正緒言とも云ふか如し(曾氏)十八史畧の編者なる曾先之とす(提頭)書き上げて何々皇帝と書き出すことを云ふ(陳壽)西晉の時の人にて三國志を著せり(刻明)の劉劭にて此三國記の改正者とす(朱子)宋の朱熹にて通鑑綱目を著す(少微通鑑)宋の江曾氏が著し(講義)明の劉劭が考ふるに曾先之の說に天下が分れて一帝の下に治められぬときは元とより其分れたる國々をす所とす(講義)區別し一國づきの事を記載し彼の春秋戰國の時の如く編集するはずなれども夫れにては又初學なる學者が時代の跡と先きを見失ふの心配あるゆへ今は只分れたる國々の中に正統なる帝位を受け繼ぎたる國を本記として書き上げ其記事の中に同時の國々の事實を附記すると云へり劉劭が思ふに至極尤もなり然るに曾先之が書きたる十八史畧の三國記は陳壽の三國志の舊例に従ひ魏を以て正統の天子とし漢と吳との事實を魏の記事に附記し正統の天子を取違へ居れり扱て劉劭は先きに朱熹の通鑑綱目の例に従ひ少微通鑑を改正し漢を正統とせり因て今又此書をも改正し漢を以て正統の帝位を受け繼ぎたる天子とするなり

照烈皇帝諱備字立德漢景帝子中山靖王勝之後有大志少言語喜

怒不形。身長七尺五寸。垂手下。膝顧。自見其耳。○蜀中傳言。曹丕篡立。帝已遇害。於是漢中王發喪。制服。諡曰孝愍皇帝。夏四月。即帝位於武擔之南。大赧。改元章武。○以諸葛亮為丞相。許靖為司徒。○立宗廟。裕祭高皇帝以下。○立夫人吳氏為皇后。子禪為皇太子。○魏主丕。姓曹氏。沛國譙人也。父操為魏王。丕嗣位。首立九品官人之法。州郡皆置九品中正。區別人物。第其高下。不既篡漢。自立為帝。追尊操為太祖。武皇帝。改元黃初。○帝耻關羽之沒。自將伐孫權。權求利不許。權遣使於魏。魏封權為吳王。魏主問吳使趙咨曰。吳王頗知學乎。咨曰。吳王任賢使能。志存經略。雖有餘閑。博覽書史。不效書生尋章摘句。魏主曰。吳難魏乎。咨曰。帶甲百萬。江漢為池。何難之有。曰。吳如大夫者幾人。咨曰。聰明特達者八九十人。如臣之比。車載斗量。不可勝數。○帝自巫峽至夷陵。立數十屯。與吳軍相拒。累月。吳將陸遜連破其四十餘營。帝夜遁。○魏主責吳侍子不至。怒伐之。吳王改元黃武。臨江拒守。○三年。夏四月。帝崩。在位三年。改元者一。曰章武。諡曰昭烈皇帝。太子禪即位。封亮為武鄉侯。太子既立。是為後皇帝。〔字解〕

〔垂手下膝顧自見其耳〕是れも人相を奇に奇きたるものと見て可なり〔九品〕上は上中下あり中に上中下あり下に上中下あり乃ち九等とす

〔中正〕人物を九等に撰定する役人とす〔蜀〕わかつなり次第すること〔尋章摘句〕一句一章を細かく吟味すること〔魏〕魏を恐れ憚ること〔車載斗量〕車に積み斗にて數へるの意にて多きを云ふ〔講義〕昭烈皇帝の武鄉侯前漢の景帝の子なる中山靖王なる勝の血筋なり全体大ひなる心立ちありて言葉少く又喜ひと立腹とを顔色に見せぬ人にて身の丈七尺五寸ありて手を下にさげれば膝より下に届き耳は大にして自分にて振り向き見らるゝ程なり扱て蜀中にては曹丕が帝位を横取りし漢の獻帝は最早曹丕に殺されしと風聞せしかは是に於て漢中王なる劉備は帝の死去を國中に告げ服喪の禮を行ひ送名を差上げて孝愍皇帝と云へり扱て後漢の最後の帝なる協を孝愍皇帝と云ひしは逆賊なる曹丕が付けたる名にして正統なる帝位を受け繼ぎたる劉備の付けたる乃ち孝愍皇帝なり然れば今魏を借とし漢を正とする以上は前帝の送號をも改め孝愍皇帝と云ふに至當なりとす此事は些細なる嫌なれども臣子として大義名分を既く者は最も重大なりとする所なりとす扱て斯く前帝も殺されたりと聞き此年の夏四月に劉備は武擔山の南の方に帝位に上り大赦の令を下して蜀人を赦し年號を改元して章武と云へり又諸葛亮を丞相となし許靖を司徒となし又先祖よりの廟處を立て前漢の高帝以下代々の天子をも三年目に合せ祭ることとし夫人なる吳氏を皇后とし子なる禪を皇太子とせん扱て魏主なる丕は姓は曹にて沛國の譙縣の人なり其父操は魏王となり丕は其王位を繼ぎ先づ初めに九等の階級を設け人を任官するの法を定め州郡には皆九品中正と云ふ役人を置き人物の才能を區別し其才能により高か低を次第せり扱て丕は漢帝の位を横取りし自分にて立て天子と云ひ父なる操をも追ひ尊ひ太祖武皇帝となし年號を黃初と改元せり扱て帝の關羽殺されたるを耻し自分か大將となりて孫權を征伐せしに權は利睡を乞ふも聞れざりし扱て權は使者を魏に遣したれば魏は權を封して吳王とせり此時魏主は吳の使者なる趙咨に問ひ吳王は六分學を知るやと云へは趙咨は全体吳王は賢者を任用し才能を役使し心立て天下を取り治るを本とせり去れども餘暇あるときは歴史を讀む書生が一句一章を小冊倒に吟味する様のこととせす只大意を見るまでなりと云へり魏主は一体吳は魏を恐るゝやと云へは趙咨は吳には甲兵百萬ありて江漢の大川を堀りてせし者八六百人ありて私の様なる類の者は車に積み斗目にて數へる程にて一々數へられぬことと云へり扱て帝は巫峽より夷陵に至るまでに數十の屯營を設け吳軍と相對陣し月を重ねたり然るに吳の大將なる陸遜は續きに四十餘ヶ所の屯營を打破りたれば帝は夜中に逃げ歸れり此時魏主は吳の人質を召し立てたるに差出さぬゆへ立腹して吳を征伐せり因て吳王は斷然魏に背き年號を改めて黃武となし江水を堀として防ぎ守れり同し三年の夏四月に帝は死去せり在位三年にて改元するとは一つ是れを章武と云へり扱て昭烈皇帝と送名し太子なる禪が位に上り諸葛亮を封して成鄉侯となせり太子は已に即位せり然れども終には魏に降参したるにより送名なく只後皇帝と云へり

〔後皇帝〕名禪。字公嗣。昭烈皇帝子也。年十七即位。改元建興。丞相諸葛

亮受遺詔輔政。昭烈臨終謂亮曰：君才十倍曹丕，必能安國家，終定大事。嗣子可輔，輔之如其不可，君可自取。亮涕泣曰：臣敢不竭股肱之力，效忠貞之節，繼之以死。亮乃約官職，修法制，下教曰：夫參署者，集眾思以廣忠益也。若遠小嫌，難相違覆，曠闕損矣。亮乃遣鄧芝使吳修好。芝見吳王曰：蜀有重險之固，吳有三江之阻，共為唇齒，進可兼并天下，退可鼎足而立。吳遂絕魏專，與漢和。○魏主以舟師擊吳，吳列艦于江，江水盛長，魏主臨望，歎曰：我雖有武夫千群，無所施也。於是還師。○南夷畔，漢丞相亮往平之，有孟獲者，素為夷漢所服，亮生致獲，使觀營陣，縱使更戰。七縱七禽，猶遣獲，獲不去，曰：公天威也，南人不復反矣。○魏主又以前位七年，改元者一曰黃初，諡曰文皇帝。子叡立，是為明帝。叡母被誅，不嘗與叡出獵，見子母鹿，既射其母，使叡射其子，叡泣曰：陛下已殺其母，臣不忍殺其子，不惻然。及是為嗣，即位。○處士管寧，字幼安，自東漢末避地遼東，三十七年，魏徵之，乃浮海西歸，拜官不受。○漢丞相亮率諸軍北伐，魏臨發上疏曰：今天下三分，益州疲弊，此危急存亡之秋也。宜開張聖聽，不宜塞忠諫之路。宮中府中俱為一體，陟罰減否，不宜異同。若有作姦犯科及忠善者，宜付有司論其刑賞，以昭平明之治。親賢臣，遠小人，此先漢所以興隆也。親小人，遠賢臣，此後漢所以傾頽也。臣本布衣，躬耕南陽，苟全性命於亂世，不求聞達於諸侯。先帝不以臣卑鄙，猥自枉屈，三顧臣於草廬之中，諮臣以當世之事，由是感激，許先帝以驅馳。先帝知臣謹慎，臨崩寄以大事，受命以來，夙夜憂懼，恐付託不效，以傷先帝之明。故五月渡瀘，深入不毛，今南方已定，兵甲已足，當獎率三軍，北定中原，興復漢室，還于舊都。此臣所以報先帝而忠陛下之職分也。遂屯漢中。(字解) (約) つゝあるなり(案) 會議の上連印すること(小) 總長官の意に従かはぬと云(三江) 吳淞錢餘浦陽(漢丞相) 此漢の字は不用なり本記は元より漢記なれば云はすとよきことなり乃ち漢帝とか漢將とか甚しきは蜀漢の丞相とかあるは曾先之が魏を本記とせし時の文字にて劉則が改正せしとき疎漏にて餘り居るなり本記中漢の字蜀漢の字を合せ十餘處の不用の字あり一々は説明せず讀者一を聞て他を推して可なり(濤) 大波なり(洶) わくなり(秋) 時なり(宮中) 近臣宮女など(府中) 表役所(不宜異同) 後帝は柔順にして宣者宮女と相親み是等の者親あるも賈貨するの弊あり故に是れを云ふなり(苟) 俗に先つと云ふ如し(大事) 昭烈終に臨み遺言せしことを指す(不毛) 草木の生せざる土地にて孟獲征伐の時を云ふ(獎率) はげまし引連れ(講義) 後皇帝の名ハ禪と云ひ字は公嗣にて昭烈皇帝の子なり年は十七にて即位し建興と改元せり諸葛亮ハ遺詔を受けること(講義) 後事を補佐せり扱て昭烈帝が死去の時になり亮に遺言し君の才智は魏主曹丕に十倍も勝れ居るゆへ吃度能く國家を安んじ遂には天下一統の大事業をも定むるならん夫れに付き我嗣子なる禪を補佐することか出来るなれば補佐せよ若し又補佐出来ぬよとならば君か自分にて帝位を取りても我志を繼ぎ天下を一統せよと云へは亮は感動して涙を流し私ハ手足たるへも力を盡し忠義貞正の心を尽し生命のある限りは嗣君を補佐せんと云ひ扱て亮は夫れより官吏を減少し法律制度を修正し命令を下

し彼の會講連印の法は衆人の意見を集め忠言を陳へ國家の利益を廣めるものなるに若し長官の立案に違ひ自己の意見を立てるを
 遠慮し總て立案通りに賛成し反覆辯論するを恐れ避くる様になりては夫れ爲め名々の職權を空しく事務を失し國家に不利益なり
 と云へり諸葛亮はそこで郭芝を吳にやりて舊好を回復させたり此時芝は吳王に而會し蜀には險阻重なる自然の固めあり吳には三
 大江の要害あり故に二國か合併して口ひらと齒との様に相親み相助けなは進んては天下を合せて取ることも出來り退き守れば三
 國か鼎足の如くに國を立つることも出來んと云へは吳は夫れより魏と交りて第一に漢と連合せり因て魏主は船軍を引連れて
 吳を打けたれば吳は軍艦を江上に陳列し守れり江水の盛長にして容易に手を下し難ければ魏主は望み見て歎息し我れに千隊の武
 夫あるも實に手を附る所なしと云ひ是れより軍勢を引返せり蓋に南方の夷が謀叛せしかい丞相なる亮は往て平定せり初め南夷に
 孟獲と云ふ者ありて元より夷人にも漢人にも其勇氣に恐れられしか亮は打て獲を生取りにし御方の兵營なり隊伍なりを見て追
 放つ改めて來戰させ七度まで追放ち七度まで生取り擒其上孟獲を放ちたるも最早孟獲は立ち去らず實に君は天威を備へたる名將
 と云へり是れより南夷は亮の威を德とに心服し又と叛かさりし然るに魏主は又船軍を引連れて吳に向ひしか大江の大波が盛んに
 湧き躍るを見て大ひに歎息し扱ても盛なるよと哉是れは賊に天より南北を隔り隔つる障なりと云ひ又軍を引返せり已にして魏主
 曹丕は死去せり帝位を犯し居ること七年改元するものは一つにて黃初と云へり遂に召して文皇帝と云ふ子なる叙か立てり是れを明
 帝と云へり叙の母は先きに殺されしに其後不ば或る時叙と侍りに出て母鹿と子鹿とを見付け召は已に母鹿を射取り叙に子鹿を射
 よと云へは叙は涙を流し陛下は早や母鹿を殺されたれば私に其子鹿まで殺すにはたへられぬことと鹿に寄せ我母のよとを云ひた
 れい否も不憫に思ひ弓を捨てたり扱て此時に至り叙は嗣となりて位に即けり扱て處士なる管寧と云ふい字を幼安と云ひ後漢の末
 より私を避けて遼東に移り三十七年に及ひしか魏は使者を以て召したるゆへそこて海路より四歸りしゆへ官に拜命させんとせし
 も辟退して受けさりし扱て丞相なる亮は諸軍を引連れて北なる魏を征伐せしか出發する時上書せり是れを前山師の表と云ふ其言
 葉に今天下は三つに分れ我益州は疲れ体なしになれり是れ實に危く差迫り承らへるか亡ぶるか分れぬの時なり故に耳を開きて
 忠言を聞入れられよ忠謀の路を盡かれまし又宮中の諸近臣も表後所の諸官吏も共に一体として善は登し惡は罪し取扱ひに親疎の
 別なく姦惡をなして法を犯し又忠善の行ひある者は夫れ夫れ役人に引渡して正しく刑罰と賞典とを論定して陛下か公平正明の治
 め方を明かにせられよ賢明なる君子を親密にし邪曲なる小人を疎遠にするは前漢か起り盛んになりし譯なり又邪曲なる小人を親
 密にし賢明なる君子を疎遠にするは後漢の傾き崩れたる譯なり扱て私は元と無位無官にて自分にて南陽に農業をなし先づ乱世に
 命を全ふし名の聞へ身の出世を請大名に求めさうしに先帝は賜し私を捨てられす例外にも御自分より乗物を曲げ身を屈めて二
 度まで私の坤の腹を訪はれ私に當世の事務を問はれたり是れによつて私は心に感し脚み先帝の爲めに奔走し仕へることを承知し
 たりさて先帝は私の憤み謹しむことを知られ困て崩御のとき私に申付けるに國家の大事を以てせらる私に命を授けてより以來朝
 に夜に心配し若しも遺命の實効なきときは先帝の目鏡ちがいとなるを恐れ夫れゆへ暑中には往けぬ處なるも五月に滻水を渡り

て深く不毛の地に攻め入り今や南の方已に平定し兵器甲冑も最早十分ゆへ三軍を勵まし引連れ北の方中原を定め漢の帝室を起
 し大ひにし元の都に遷幸せらるゝ標にするは是れ私か先帝の恩に報し陛下に忠なる所の職分なりと云ひ夫れより出て、漢中郡に
 屯營せり是れ實に
 建興の五年なりし

○明年率大軍攻祁山。戎陣整齊。號令明肅。始魏以照烈既
 崩。數歲寂然無聞。畧無所備。猝聞亮出。朝野恐懼。於是天水南安安定
 皆應亮。關中響震。魏主如長安。遣張郃拒之。亮使馬謖督諸軍。戰于街
 亭。謖違亮節度。郃大破之。亮乃還漢中。已而復言於漢帝曰。漢賊不兩
 立。王業不偏安。臣鞠躬盡力。死而後已。至於成敗。利鈍非臣所能逆觀
 也。引兵出散關。圍陳倉。不克。○吳王孫權自稱皇帝於武昌。追尊父堅
 爲武烈皇帝。兄策爲長沙桓王。已而遷都建業。○蜀漢丞相亮。又伐魏
 圍祁山。魏遣司馬懿督諸軍。拒亮。懿不肯戰。賈詡等曰。公畏蜀如虎。奈
 天下笑何。懿乃使張郃向亮。亮逆戰。魏兵大敗。亮以糧盡。退軍。郃追之。
 與亮戰。中伏。弩而死。亮還。勸農講武。作木牛流馬。治邸閣。息民休士。三
 年。而後用之。悉衆十萬。又由斜谷口伐魏。進軍渭南。魏大將軍司馬懿
 引兵拒守。亮以前者數出。皆運糧不繼。使己志不伸。乃分兵屯田。耕者
 雜於渭濱。居民之間。而百姓安堵。軍無私焉。亮數挑懿戰。懿不出。乃遺

以巾幗婦人之服。亮使者至懿軍。懿問其寢食及事煩簡而不及戎事。使者曰。諸葛公夙興夜寐。罰二十以上。皆親覽。所噉食不至數升。懿告人曰。食少事煩。其能久乎。亮病篤。有大星赤而芒。墜亮營中。未幾亮卒。長史楊儀整軍還。百姓奔告懿。懿追之。姜維令儀反旗鳴鼓。若將向懿。懿不敢逼。百姓爲之諺曰。死諸葛。走生仲達。懿笑曰。吾能料生。不能料死。亮嘗推演兵法。作八陣圖。至是懿案行其營壘。歎曰。天下奇材也。亮爲政無私。馬謖素爲亮所知。及敗軍流涕斬之。而卹其後。李平廖立。皆爲亮所廢。及聞亮之喪。皆歎息流涕。卒至發病死。史稱亮開誠心。布公道。刑政雖峻。而無怨者。真識治之良材。而謂其材長於治國。將略非所長。則非也。初丞相亮嘗表於帝曰。臣成都有桑八百株。薄田十五頃。子弟衣食自有餘。不別治生。以長尺寸。臣死之日。不使內有餘帛。外有贏財。以負陛下。至是卒如其言。諡忠武。〔字解〕

(武侯)兵陣の如し(節度)指揮なり山に上り水の手
を絶ち切られしこと(備安)かたより一時を安んず
るに(輔射)身を勉めること(逆視)以前より見抜くの意(木牛流馬)險路に用ゆる小車にて木牛は引き車流馬は推し車とす五雜俎
其他に其製造法を書し或は舌の拾ふりて或は止まり或は動くなど種々の説あるも信するに足らず(郎閣)米倉なり(安堵)人民其
居に安んずること(巾幗婦人之服)幗音こくなり音くはいと云ふは非なり髪二ふみの類にて婦人の身に付けるもの(噉食)二字にて
くらふなり(升)我一合とす(芒)尾を引くこと(八陣圖)天地風雲龍虎鳥蛇にて八八六十四陣とす(史稱)陳壽の三國志のよと(薄田)

利の薄き田地〔講義〕

明年に至り丞相なる亮は大軍を引連れて祁山を攻めたり其戎陣は調ひ揃ひ號令は明かに正し是れより以
(蘇)わまり 前魏は昭烈が最旱死去してより數年の間何事も聞ゆることなきゆへ國端の守りも忘り大方打捨て置きた
るに今俄に亮が打出てたるを聞き朝廷の人も田舎の者も大ひに恐れたり因て天水安定等の諸郡は皆亮に通したれば關中の土地の
上下ともに動き驚けり是に於て魏主は洛陽より長安に往き先づ張郃をやりて防かせたり此時亮は馬謖に諸軍を引連れ街亭と云ふ
處にて戦はせたるに郃は亮の指擧に違ひしより大ひに張郃に破られたり亮はそこで漢中に引歸り後又當に上書せり是れを後出師
の表と云へり其言葉に漢と賊とは到底共に立つものならず又帝王の業は今日の如く益州の一角みに片寄り安んずるものにあらず
因ては私は勉強し力のあらん限り死して後已むまてなり然れども事の成ると成らざるも軍の利なるも鈍なるもは私か始め
より見極める所にはあらざるなりと云ひさて兵を引連れて散關を出て陳倉縣を取り巻きたれども勝たずして引上げたれは亮は
主なる孫權は自分にて武昌にて皇帝の名を稱へ父なる堅を追ひ尊んで武烈皇帝と云ひ兄なる策を長沙桓王と云ひ其後孫 建業と
云ふ處に移せりさて又丞相なる亮は魏を征伐し祁山を取り巻きたれば魏は司馬懿に諸軍を引連れて亮を防かせたり然るに懿は戰
ふことをせざりければ其大將なる賈詡は若は蜀を恐るゝこと虎を恐るゝ機なり是れにては天下の笑ひを何とせらるゝやと云へは
懿はそこで張郃に亮に向いせたるに亮の迎へ戦ひ魏の兵は大ひに破れたり然るに亮は兵糧か盡きたるゆへ軍を引上げたれば郃は
軍掛け亮と戦ひ伏兵に逢ひ石弓に當りて死したり亮は已に歸り農業を勤め武藝を習はせ又木牛と流馬と云ふ小にして便なる運送
車を作り又米庫を取り立て人民をも士卒をも休息させるも三年にして後には又用ひ十萬の軍勢を悉して又斜谷口より出て魏を征
伐し進んで渭南に陣取りせり魏の大將軍なる司馬懿は兵を引けて屯田の制をなし其農業する者は渭水の邊なる百姓の間に雜居した
自分の心立てをも十分に伸へられぬことゆへ此度兵を分けて屯田の制をなし其農業する者は渭水の邊なる百姓の間に雜居した
るも軍令か嚴明なるゆへ百姓も安心して騒かず軍人にも少しの私曲なかりしとせり此時亮の使者が懿の陣に往きたれば懿は亮か
ゆへそこで巾幗とて婦人の身に付ける物を送り懿を女子に見立て立腹させんとせり此時亮の使者が懿の陣に往きたれば懿は亮か
厭る時間及び食物の分量より事務の煩雜なるや又問暇なるやを問ひ少しも軍事の問はざりし因て亮の使者は諸葛公は朝早くより
起き夜に入りて眠り杖非二十以上に處せらるゝ者は皆自分にて檢閲し罪の當否を調へさて食物は數合なりと云へは其後懿は人に
向ひ孔明は食物少くして事務多ければ何とて久しく健全ならんやと云ひしか果して亮は病に掛り段々重くなり大ひなる星あり
て赤色の尾を引きて亮の陣屋の中に落ちたるかまた何程も立てずして亮は死去せり因て長史なる楊儀は軍勢を揃へて引歸りたれ
ば百姓は走つて其由を懿に告げ知らしたれば懿は追打てりさて姜維は楊儀に旗を立て直し太鼓を鳴らし懿の軍に向ふ機にさせた
れば懿は又策とかと思ひ追ひ詰めすして歸れり因て百姓共は懿言を作り死せる孔明が生ける仲達を走らすと云へは司馬懿は笑ひ
我れは生て居る者ならは計ること出來るも死したる者は計ること出來ぬなりと責信を云へりさて亮は以前に古の兵法を推し廣
めて八門六十四陣の組立てしか此度懿は其陣營の跡を巡檢し其陣立てを見てさて天下の奇才ある人かたと驚きたり全体亮が敗

へなり(矣) 【講義】魏主の生質の普請を好み是れより以前己に許昌宮を尊請し又洛陽宮を作り長安にある秦漢よりある鐘臺や
 たり又大なる土山を芳林園中に築き種々の樹木を其の艸を植へ廣く珍異なる鳥獸を捕へさせて其中に飼ひたり諸の諫むる者ある
 も皆聞入れざりし其後魏主は病氣に掛りたれば司馬懿を召し入朝させ曹爽を大將軍とせり明年魏主なる叙は死去せり帝位に犯
 し居ること十四年にて改元する者は三つ太初曹龍景初と云へり其子なる芳加立てり是れを廢帝邵陵の厲公と云へり芳は八歳にて
 位に即きたれば懿と曹爽とが遺命を受けて政事を補佐し懿は太傅となれりさて丞相なる亮が死去せしより蔣琬が政事を執れり然
 るに楊敏と云ふ者は琬を諂り政事をするに乱雜にして前人孔明にても及ばぬなりと云へり因て或る人は敏を捕へ其證據を推し
 窮めんと云ひしに琬は我れは實に孔明に及ばぬことゆへ別に推し窮めざるまじと云へりさて琬が死去し費禕と董允とが政事
 を取りしか公平明亮にて忠を盡せり又允は死去し姜維と費禕とが並ひて政事をなせり時に魏の曹爽は高振り修ること限りなきに
 より司馬懿は曹爽を殺し魏の丞相となり九色の特許物を許されしを受けざりし茲に曹爽の徒黨なる夏侯淵が蜀に逃げ來りたれば
 姜維は蜀に尋ね司馬懿は政權を得しより又征伐するの心立てありしやと云へは爾は彼れ我が家門の利益をのみ營みまた中々外の
 事をするの暇まはあらざるなり然るに鍾會字は士季と云ふ者あり年少なりとは雖も若しも政事を支配せば實に吳と蜀との心配と
 ならんと云へりさて魏の司馬懿は死去したれば其子なる師を撫軍大將軍となし餘尚書中となせり又吳主は死去せり因て大皇帝と
 送名し子なる亮が立てりさて大將軍なる曹禕は廣く衆人を親愛する性質にて少しも人を疑はざるより魏の降参人の爲めに殺され
 たれば姜維は政事を取り度々兵を出して魏を攻めたり茲に魏の李豐は度々魏主に召されたれば司馬懿の自分の事を評議するを知
 り李豐を殺したれば魏主は甚だ不平なり因て近臣は師を誅殺することを勧めたるも魏主は押切て事を起さざりしか師は遂に魏主
 を廢したり帝位を犯し居るも十六年にて改元する者は二つ正始嘉平と云ふ師は高貴郷公を迎立す是れは廢帝と云へり其名の魏
 と云ひ文帝の孫にて明帝の姪なり年は十四にて即位せり時に魏の楊州の都督なる母丘儉と刺史なる文欽とが軍を起して司馬懿を
 征伐せしに師は却て打破れり已にして師は死去したれば師の弟なる昭が大將軍となり餘尚書中となれり其後大都督となり黃毓と
 假りて曹芳を我儘にせり因て楊州の都督なる諸葛誕は兵を起して昭を打ちしか昭は却て攻め殺せり昭は遂に相國となり晉公に封
 せられ九色の特許物を許されたるも受けざりしさて魏主なる亮は政事を自分にて行ひ度々中書省に出て太帝の時の舊例などを見
 聞せり又或る時生梅子を食ふとて甘露を付けんとして求めしに靈の中に鳳の義ありたり因て靈の禽役人を呼び以前に側付きなる黃
 門が其方に靈をくれと云ひしことなりと云へは役人は先きにこれと求めしもやらざりしと云へり因て其門に禽役人を罪に落
 さん爲め鳳の義を入れしならんと云ひしも黃門は中々罪をせざりし因て亮の先づ鳳の義を折らせしに靈の中は能く乾き上へのみ
 濡れ居たれば今黃門が禽役人より靈を受取り持ち來る途中にて入れたること判然したれば亮は笑ひながら若し燕か前より靈の中

にわれは中も上へも同様には濡れ居る管なるに今上へ計り濡ひ中の乾くは屹度黃門の仕業なること云ひ夫れより問ひ詰めたれば其
 通り服罪したり因て左右近臣は驚き恐れたり又大將軍なる孫琳は亮が難題を問ひ掛けること多く返事出來ぬにより病氣と云ひ立
 て、出動せず遂に兵を引き宮を取巻き亮を廢して會稽王となし瑯琊王なる休を迎へ立てたり休は已に立ち琳を以て丞相となした
 るか琳は又新君なる休に無禮なり
 人所知也。率殿中宿衛蒼頭官僮。鼓譟出欲誅昭。昭之黨賈充入。與魏
 主戰。成濟抽戈刺魏主。殞于車下。追廢爲庶人。僭位七年。改元者二。
 曰。正元。甘露。司馬昭迎立常道郷公璜。是爲魏元皇帝。常道郷公元皇
 帝。初名璜。燕王宇之子。操之孫也。年十五。卽位。改名奐。○漢姜維屢伐
 魏。司馬昭患之。遣鄧艾鍾會將兵入寇。會從斜谷駱谷子午谷趨漢中。
 艾自狄道趨甘松沓中。以綴姜維。維聞會已入漢中。引兵從沓中還。艾
 追躡之。大戰。維敗走。還守劍閣。以拒會。艾進至陰平。行無人之地。七
 百里。鑿山通道。造作橋閣。山高谷深。艾以氈自裹。推轉而下。將士皆攀木
 緣崖。魚貫而進。至江油。以書誘漢將諸葛瞻。瞻斬其使。列陣綿竹。以
 待。敗績。漢將軍諸葛瞻死。瞻子尙曰。父子荷國重恩。不早斬黃皓。使敗
 國。殄民用。生何爲策。馬胃陳而死。○漢人不意魏兵卒至。不爲城守。乃
 遣使奉璽綬。詣艾降。皇子北地王諶怒曰。若理窮力屈。禍敗將及。使當

父子君臣背城一戰同死社稷以見先帝可也奈何降乎帝不聽諫哭於於烈之廟先殺妻子而後自殺艾至成都帝出降魏封爲安樂公帝在位四十一年改元者四曰建興延熙景耀炎興右自高帝元年乙未至後帝禪炎興癸未凡二十六帝通四百六十九年而漢亡○吳主休歿諡曰景皇帝兄子烏程侯皓立○魏司馬昭先是已受九錫已而進爵爲晉王昭卒子炎嗣魏主奐僭位六年改元二曰景元咸熙炎迫魏主禪位封爲陳留王後卒晉人諡之曰元○魏自曹丕至是凡五世四十六年而亡○自漢亡後又歷甲申闕正統二年(字解) (蒼頭)下部(官值)官奴の職すること(綱)つゝるなり兵を以て敵に結び付け外にやらぬ様に喚ひ留め居ること(追隨)追ひつかること(福)福道なり(魚貫)魚貫の様につゞき行くこと(黃皓)後人なり(歷)甲申闕正統)先きに曹先之は魏を正統とせしゆへ晋に續きしが劉劭か漢を正統に改正せしゆへ甲申の年一年(講義)魏主の薨は威光權力が日々司馬氏に移るを見て怨み立腹にたへられず司馬昭が位を奪はが問が明く様になるなり(講義)んとする心は路行く人も知る所なりと云ひ殿中の宿衛や若頭や官值を引連れ太鼓を打ち時を聲を上げて打出で昭を誅殺せんとせし昭の徒黨なる賈充は入つて魏主と戦ひし矢張り昭の徒黨なる成濟は矛を抜て魏主を突きたれば車より落て死去せり因て追隨して平民となせり位に犯し居ること七年にて改元すること二つ正元甘露と云へり昭は當道郷公なる賈を迎ひ立てたり是れを魏の元皇帝と云へり初めの名は瑛と云ひ燕王なる字の子にて瑛の孫なり年十五にて位に即き名を奐と改めりさて姜維は度々魏を伐ちたれば司馬昭は心配とし鄧艾鍾會の二人に兵を引きて攻め入らせたり鍾會は斜谷駱谷子午谷なる險阻を渡り漢中に趣き鄧艾は狄道縣より甘松谷中に趣きて姜維の軍に結び付きたり然るに姜維は鍾會が已に漢中に入りたるを聞き兵を引て谷中より引返せり因て鄧艾は追ひすがりて大に戦ひたれば姜維は破れ走り歸て劍閣の要害を守り鍾會を防げりさて鄧艾は進んで陰平に入り無人の山中を行くこと百二十里計りて山を切り削りては道を通し棧橋を掛け又山高の谷深くして如何ともしようなき處は鄧艾は毛氈にて身体を包み人に推し落とさせざるがりて落ちたり大將士共い皆木にすかり崖によ

り大繩を掛け目ざしの魚の様に並ひて進みとうとう江油に至りさて書面を以て諸葛亮の子なる將軍諸葛瞻を招き降さんとせしに瞻は其使者を切り綿竹縣に陣立てして待ち合戦して破れ打死せり瞻の子なる尙いさて我々父子は國の重き恩を負ひながら早く後人黃皓を切らす遂に國を破り民を亡はさせたり斯くて生存するも何をなさんやと云ひ馬に鞭打て敵陣に突入り戦死せり此度不意に魏の兵かつまり攻め入りたれば最早城を守ることもならずさて使者を立て帝の印璽と印綬とを待たせ鄧艾の陣に行き降参せり此時皇子なる北地王の諱は大ひに立腹し若し勢盡き力窮まり禍敗至らんとせば乃ち父子君臣共に城を打出て一戦し共に國の爲めに打死し先帝に拜賜すへき管なるに何とて降参することわらんやと云へ帝は聞入れさうき因て諱は昭烈皇帝の廟號に至りて號哭し先つ妻子を殺して後に自殺せりさて鄧艾は成都に至りたれば馳は出て降れり因て魏は帝を封して安樂公となせり帝在位四十一年にて改元するものは四つ建興(昭烈)景耀(奐)炎興(皓)と云へりさて高帝元年乙未の歲より後帝禪の炎興癸未の年に至るまで總て二百六帝にて通計四百六十九年にして漢はくく亡ひたり此年吳主なる休は死去せり送名して景皇帝と云ふ兄の子なる烏程侯の皓を立てり是れより以前魏の司馬昭は已に九色の特許物を受け夫れより又位を進められ晋王となりしか昭死去して子なる炎か續けり魏主奐は帝位に犯し居ること六年にて改元すること二つ景元咸熙と云ふ炎は無理に魏主に迫りて位を譲らせ奐を封して陳留王となし後には死去せり晋人は奐を送名して元と云へりさて魏は曹丕より茲に至るまで總て五世にて四十六年にして亡びたり然るに漢亡びしより甲申の年一年は正統の天子なかりし

西晋(字解)

(西晋)洛陽に都せり三帝を歴て建業に都を移せり故に洛陽は西にて建業は東に當るを以て西晋と云ふなり

西晋世祖武皇帝(姓)司馬(名)炎(河内)人(昭)之子(懿)之孫也(昭)爲(晋)王(議)立(世)子(議)者(以)炎(髮)立(委)地(手)垂(過)膝(非)人(臣)之(相)遂(立)已(而)嗣(爲)王(即)帝(位)追(尊)懿(爲)宣(皇)帝(師)爲(景)皇(帝)昭(爲)文(皇)帝(大)封(宗)室(晋)有(吳)之(志)以(羊)祜(都)督(荆)州(事)吳(以)陸(抗)都(督)諸(軍)祜(與)抗(對)境(使)命(常)通(抗)遺(祜)酒(祜)飲(之)不(疑)抗(疾)祜(與)之(成)藥(抗)即(服)之(曰)豈(有)醜(人)羊(叔)子(哉)祜(務)修(德)政(以)懷(吳)人(每)交(兵)刻(日)方(戰)不(掩)襲(抗)亦(告)其(邊)

成各保分界而已。毋求細利。時吳主皓不修德政。而欲兼并。使術士筮取天下。對曰。庚子歲。青蓋當入洛陽。蓋謂銜璧之事。而皓不悟。用諸將謀。數侵盜晉邊。抗諫不聽。抗卒。祐請伐吳。議者多不同。祐歎曰。天下不如意。事十常七八。惟杜預張華贊其計。祐病求入朝。面陳。晉帝欲使祐臥護諸將。祐曰。取吳不必臣行。但平吳之後。當勞聖慮耳。祐卒。以杜預為鎮南大將軍。督荊州軍事。吳主皓淫虐日甚。預表請速征之。表至。張華適與帝共。即推枰斂手。贊其決。帝許之。山濤告人曰。自非聖人。外寧必有內憂。釋吳為外懼。豈非算乎。時濤為吏部尚書。濤昔在魏晉之間。與嵇許康阮籍籍兄子咸。向秀。王戎。劉伶相友。號竹林七賢。皆崇尚老莊。虛無之學。輕蔑禮法。縱酒昏酣。遺落世事。士大夫皆慕效之。謂之放達。惟濤仍留意世事。至是典選甄拔人物。各為題目。而奏之。時人稱之為山公啓事。(字解) (發委地手過膝) 是れ亦實に見ゆ方可なり。(飲) 季がいのこと。(晉書) 王侯の車の日照ひ。(銜璧) 降參するなり。(傳) 甚盤(虛無)無_レ (講義) 世祖武皇帝は姓は司馬にて名は炎と云ふ河内の人にて昭の子懿の孫なり。昭が晋王以て本とすること。(啓事) 上申なり。 (講義) となり世續きを評議するるとき實充等は炎の發は立て地に屆き手は垂れて膝より下に屆き人の臣下たる人相に非すと云ひしゆへとうとう世子に立てられたり其後嗣て王となり又帝位に上り懿を追ひ尊ん。宣皇帝となし師を景皇帝となし昭を文皇帝となせり又大ひに一族を大名とせりさて晋は吳を亡ぼすの志ありて羊祜を以て荊州の都督となせり因て吳も抗を以て諸軍の都督とせり羊祜と抗とは互に國界に居り使者は常に往復せり抗か或る時祐に酒を送りしに祐

の少しも疑はず其酒を飲みたり又抗か病氣の時祐は調合せし藥を送りたれば抗は直ぐに服藥し何とて人を毒害する様な事なる羊叔子ならんやと云へりさて羊祜は十分に德政を修めて吳人を手なづけ合戦する度に毎に先づ日限を定めて戦ひ不意打なせせさりし因て抗も亦其國界の守る者に告げ自分自分の領分を持ち固める丈けにて些細なる利を求めぬ様にさせたりさて此時吳主なる皓は德政を修めず天下を兼ね合さんと思ひ先づ方術の士に天下を取ることを占はせたるに方術の士は庚子の年に晉軍の車が洛陽に入る管なりと云へり夫れは庚子の年に降参し晉軍に乗り洛陽に入朝するを云ひたるか皓は其事なるを悟らず祐將の計とを用ひ度々晉の國端とを犯し盗みたれば抗は諫めたるも聞入れし後に抗は死去したれば羊祜は吳を打つを乞ひしに人皆賛成せざれば祐は歎息し天下の事は心の儘にならぬこと十中に入九なりと云へり然るに只杜預と張華とは其計とを賛成せりさて羊祜は病に掛り入朝して直ぐ直ぐに上申せんと求めたれば帝は祐に病氣なから諸將を監督させんとせしに祐は吳を取ることは別に拙者が行くの必用なきも只吳を平らげたる後は尤も聖慮を勞すべしと云へりさて祐は死去したれば杜預を鎮南大將軍となし荊州の軍事を總督させたり此時吳主なる皓は淫亂にて下を苦しめること日々に甚しくなりたれば杜預ハ上書して早く征伐せんと乞へり此上書が來りたる時張華は丁度帝と棋を打ち居たるが直ぐ棋盤を推しのけ手を收めて吳を征伐するの決斷を助けたれば帝は許したり此時山濤は或る人に向ひ聖人以外の人は外か安くなれば吃度内に心配が出来ぬものなれば先づ吳を征伐して外の恐となし内に起る心配のなき様にすは妙計ならんやと云へり時に山濤ハ吏部尚書となり居れり昔し山濤は魏晉の間ありて無庸阮籍及び籍の兄の子なる咸と向秀王戎劉伶と相交はり常に竹林に相會せしゆへ竹林の七賢と云へり此七人は皆老子莊子の虛無の學を尊び禮儀を見下だし酒を恣まゝにして酔ひ昏らみ世の中の事を打忘れしが時の士大夫は皆慕ひ習ひ名けて放達と云へり然るに濤は獨り矢張り心を世の事に留めたり此時に至り機變を司せりしが人物を甄別して抜き上げ人々の生實學術の名目を付けて奏上したれば時の人ハ此事を山公の啓事と云へり ○晉大舉伐吳。杜預出江陵。王濬下巴蜀。吳人於江積要害處。並以鐵鎖橫江。截之又作鐵錐長丈餘。暗置江中。逆拒舟艦。濬作大筏。令善水者以筏先行。遇錐輒著筏而去。又作大炬。灌以麻油。遇鎖燒之。須臾融液斷絕。於是船無所礙。遂先克上流諸郡。預遣人率奇兵夜渡。吳將懼曰。北來諸軍。乃飛渡江也。預分兵與濬合。攻武昌。降之。預

謂兵威已振。譬如破竹。數節之後。迎刃而解。無復著手處也。遂指授群帥方畧。徑造建業。潛戎卒八萬。方舟百里。舉帆直指建業。鼓譟入石頭城。吳王皓。面縛輿櫬。降封歸命侯。遂符庚子入洛之讖。自大帝至。是四世。稱帝者。凡五十二年而亡。遯孫策定江東。以來。通八十餘年。晉代魏十有六年。至太康元年而滅。吳又十年。帝崩。帝初即位。嘗焚雉頭裘於太極殿前。以示儉。既而修縱後宮數千。常乘羊車。宮人插竹葉于門。洒鹽以待之。羊車所至。即留酣宴。與群臣語。未嘗有經國遠謀。自吳既平。謂天下無事。盡去州郡武備。山濤獨憂之。漢魏以來。羌胡鮮卑降者多處。塞內諸郡。郭欽嘗上疏。謂宜及平吳之威。漸徙內郡。雜胡於邊地。峻四夷出入之防。明先王荒服之制。帝不聽。卒為天下患。帝在位改元者三。曰泰始。咸寧。太康。太子立。是為孝惠皇帝。(字解) (續)水邊の石ある處にて河原なり

制るに初めは刀にて切り力を入れるも段々勢が付き刀の至て又先きに自然に割れるを云ふ(面縛)前にて縛ること(輿櫬)棺を車に載せ送るも厭いぬと云ふ心を示すなり(雉頭裘)雉の頭毛計りにて製したる皮衣なり(竹葉)羊の好む所なり(經國)國家を經營すること(荒服)郡(講義)さて晉ハ大軍を起して吳を征伐し杜預は江陵より出で王濬は巴蜀より下れり吳人は河原より二千里外の土地を云ふ(講義)の要害の處にて鉄の鎖りにて江を横切り又鉄の鎖の長一丈餘りなるを作り見へぬ様に江水の中に立て船艦を迎へ防ぐ様にせり因て王濬は大ひなる筏を作り水を手上に泳ぐ者に筏に乗りて先きに進ませ雉に出逢へば筏に突きたたせて雉を抜き取り又大ひなる松明を作り麻の油を掛け鎖に達せば燒きたれと暫らくにして鎖は柔かになり切れたる

斯くて船の邪寇なる所のものなく遂に三みみ河上みの諸郡に攻め勝ちたり杜預は人をやり奇兵を連れて夜中に渡りたれば吳の大將は大ひに恐れ北より來る敵の諸軍は江を飛び渡りたるかと云へりさて杜預は兵を分ちて王濬と合し武昌を攻め降せり此時杜預は今や我が兵威は已に振はたれば丁度竹を割るに五六節より後ハ刃を迎へて自然と割れ則に力を入れる處もなきなりと云ひ夫れより群がる大將に手立て策略を示し授け直ぐに建業を攻め寄せたり王濬の軍勢は八万にて舟を比べることは凡そ十七里に連なり夫れ夫れ帆を上げ直ぐに建業に向ひ太鼓を打ち時の聲を上げ石頭城に入りたれば吳主なる皓は面縛して棺を車に載せ降参したれば歸命侯に封せり是れつまり先きの占に庚子の年洛に入るを云ふ豫言に符合したりさて大帝より茲に至るまで四世にて帝と云ひ居りしは總て五十二年にて亡びたり又以前に遯上り孫策が江東を平定せしより以來は通じて八十餘年なりしさて晉は魏に代りしより十六年にて太康元年に至りて吳を亡ぼし又十年にて帝は死去せり初め帝が位に即きしとき兼て雉頭裘を太極殿の前にて燒き捨て節儉を示したるが其後は大ひに奢り恣まらにて後宮の宮女ハ數千人の多きに至り常に羊に車を引かせたれば宮女は自分自分の門に竹の葉を差し遣はし羊を引寄せ手立てをなし帝の御幸を待ちさて羊の至る處にて留まりて酒宴せり又群臣と語るにまた國家を經營するの遠大なる計畧を用ひしことなし又吳が亡びしよりは天下は又平事なしと思ひ州郡の武備を全廢せり因て山濤は獨り此事を心配せり全体漢魏より以來羌胡なり鮮卑なりの降参する者は多くは國端し塞城内なる諸郡に置きたれば郭鉄は或る時上書し何卒吳を平定するの威勢ある時に乘じ段々と内郡に雜居る胡人を國端し外に移し四方なる夷の出入を嚴近にし先王が立てられたる荒服を區別するの制度を明かにせられよと云ひし帝は聞入れざりし因つてつまり此夷が天下の心配の種となり帝位にありて改元するものは三つにて泰始咸寧太康と云へり太子が位に即き是れを孝惠皇帝と云へり

〔孝惠皇帝〕名衷。性不慧。為太子時。納妃賈氏。充之女也。多權詐。衛瓘嘗侍武帝。陽醉跪于前。以手撫牀。曰。此座可惜。武帝悟。密封尚書疑事。令太子決之。賈氏大懼。倩外人具草代對。令太子自寫。武帝悅。得不廢。至是即位。賈氏為皇后。預政。皇太后楊氏。乃帝母。楊后之從妹。父駿。為太傅。賈后殺駿。而廢太后。殺太宰汝南王亮。殺太保衛瓘。殺楚王瑋。以殺望。用張華。裴頠。王戎。管機。要華。盡忠。帝室后雖凶險。猶知敬重。與頠同

上げたれば武帝は是れを見て誠と思ひ愚ならざるを悦び故に廢せられぬを得しなりさて此時に至りて位に即けり因て賈氏を皇后となし政事に關預させたりさて皇太后なる楊氏は帝の生母なる楊后のいとこにて第二の皇后なり此太后の父は駿と云ひ太傅となり此時賈氏は駿を殺して太后を廢し又太宰なる汝南王の亮を殺し太保なる衛璜を殺し楚王なる璋を殺し全く權勢を取込み更に衆人の望みに從ひ張華斐頌王戎の三人を用ひ万機の要務を支配させたり張華は帝室の爲めに忠義を盡したれば如何に賈后の凶險なるも猶ほ敬ひ重んずるを知れりさて張華ハ斐頌と心を同くして政事を補佐したれば數年の間は暗愚なる主君が上に立つも朝野共に安靜に治まりたり又王戎は只時勢につれて浮き沈みし別に正し救ふ所なく又生れ付き強慾にて物惜みし田地莊園は天下中何れの處にもあり因て十露盤を持って晝夜となく私財の勘定をなせり又王戎の家が好きすもの木ありしが人が其種を取ること恐れ皆其種を切りて芽の出ぬ様にして又王戎が賞與し擲擲する所の人物は第一に實にも拘はらず名計りの者を取れり或る時阮咸の子なる瞻が戎に面會せしに戎は瞻に向ひ聖人は名教を尊び老子莊子は自然の理を明らかにするが全体其旨は異なるや同じきやと問へば瞻ハ只同きなからんかと云へば戎は大ひに感心し賞讃すること久しくどうとう召して採用せり時の人は瞻を呼んで三語の接と云へり是れは將無同の三語にて接を得たるを云ふなり此時王衍樂廣は皆老莊の談を善くし衍は特に精神明らかに秀でたり少年の時山濤は王衍を見て如何なる老婆か此の如き小供を生みたるや去れとも天下の人民の方向を過まらずは此人ならずと云ふよとなしと云へりさて衍の弟なる澄及び阮咸と成の姪なる修及び胡毋輔之と謝靈運卓之は皆任放を以て達道と思ひ大醉裸体も惡しきこととせざりし畢卓が隣りの郎官の家を酒を造り出來上りたれば卓は夜中に酒壺の間に忍び行き酒を盗み飲みしか番人に捕縛せられり扱て明朝になりて能く見れハ吏部官なる畢卓なりし樂廣は此を聞きて大ひに笑ひ名教の中に自然の樂みの處あるに何とて是非酒を盗み飲みて樂しむことするやと云へり是れ以上以前魏の時に何晏などハ議論を立て天地万物は皆無を以て本とすと思ひ云ひしに王衍などは此論を愛し重んぜり因て斐頌は崇有論と云ふ文を著ししたるも世の勢の斯く浮薄になりたるを救ひ正すこととは出來ざりし扱て太子なる暹は賈后の生みし所ならぬは賈后は太子を廢して殺せり此時征西大將軍なる趙王の倫は帝命を許り云ひ兵を調へて宮中に入り先づ賈后を廢して殺し次ぎに張華斐頌を殺し倫は相國となれり又淮南王なる允は兵を引きて進んで倫を征伐せしか勝たずして打死せり倫は又衛尉なる石崇を殺せり夫れは崇は綵珠と云ふ愛妾ありしか倫の氣に入り孫秀と云ふ者か綵珠を求めしもやらざるより秀は崇を誣訴し崇は允を守り立て謀叛せりと云ひ崇を召取りたり此時崇は下郎共は我れの財産を取らん爲め斯くせしなりと云ふは召取役人は財産か身の禍ひなるを知らハ何ぞ早く財産を散らさざると云ひどうどう殺されたり倫は自分にて九色の特許物を取り一旦常に追りて位を讓らせ扱て倫の徒黨は皆九卿三公となり下奴部卒も亦位を受け朝廷に參會する毎に貂蟬の冠を戴く者か坐に滿ちたり時の人は言華を作り貂の尾か不足にて狗の尾を以て續くなりと云へり此時許昌なる閻は許昌を鎮め成都王なる顓は鄴を鎮め河間王なる顓は關中を鎮めたるか此三人夫れ夫れ共を起して倫を征伐し倫ハ誅殺せられり因て閻は政事を補佐し高振り侈りて權威を我儘にせしより顓は長沙王なる又に閻を殺させたり顓も亦手柄を頼み高振り侈りし

か其後顓と顓とは軍を起して謀反せしゆへ人は帝を守り立て顓と顓と戦へり顓の大將軍なる陸機は戦ひ破れて捕へられ歎息し我が封邑なる華亭の地盤をも亦開くこと出來すと云ひ弟なる雲と共に顓に殺されたり此機と雲とは皆陸抗の子なりし扱て顓は兵を進めて京師に入り丞相となり其後顓に歸れり顓は表裏して皇太弟とせり此時東海王なる越は帝の命を受け顓を征伐せり因て顓は兵をやりに蕩陰にて防る戦ひ官軍は打ち崩され侍中なる蔡邕は身を以て帝を守り遂に殺され其血は帝の衣服に掛れり扱て顓は帝を迎へて鄴に入りたり左右の近臣は帝の衣服を洗濯せんとせしに帝は忠臣蔡侍中の血なれば洗ふまじと云へり顓は帝を連れて洛に歸りしか顓の大將軍なる張方は洛に居りしか帝を又長安に移せり此時顓は太弟なる顓を廢し改めて豫章王なる熾を立て、太弟となせり東海王なる越は又兵を起して西の方なる長安に入り帝を連れて洛に歸れり越を以て政事を輔佐させたり是れより以前に顓は洛陽に權を握り其後長安に奔り又武關より新野に奔りとうとう北の方河を渡り元の大將士共を集めしか頓丘の太守に生け取られ此時の處へ引渡し何程もならず顓は殺されたり

○帝食麪中毒而崩或曰東海王越鳩之也帝昏愚天下大饑帝曰何不食肉糜華林園聞蛙鳴帝曰彼鳴者爲官乎爲私乎左右戲之曰在官地者爲官在私地者爲私方賈氏專政時人知將亂索靖指洛陽宮門銅駝歎曰會見汝在荊棘中耳趙王倫亂後諸王迭相殘滅天下大亂○劉淵興于左國城淵故南匈奴之後匈奴由漢魏以來臣中國其先世自以漢甥冒漢姓父豹爲左部帥生淵幼而雋異博習經史嘗曰吾耻隨陸無武遇高帝而不能建封侯之業絳灌無文遇文帝而不能興庠序之教豈不惜哉於是兼學武事姿貌魁偉初爲侍子在洛豹死武帝以淵代爲五部帥既而爲北部都尉五部豪傑多歸之及帝世以爲五部大都督成都王顓表爲左賢王嘗使將

兵在鄴。淵子聰亦驍勇絕人。博涉經史。善屬文。彎弓三百斤。淵從祖宣曰。漢亡以來。我單于徒有虛號。無復尺土。自餘王侯降同編戶。今吾衆雖衰。猶二萬。奈何。歛手受役。奄過百年。司馬氏骨肉相殘。四海鼎沸。左賢王英武超世。復呼韓邪之業。此其時也。乃相與謀推之。淵說穎請歸帥五部來助。既至左國城。宣等推爲大單于。二旬間。衆五萬。都離石。胡晉歸之者愈衆。乃建國號曰漢。稱漢王。淵有族子曜。生而眉白。目有赤光。幼聰慧。有膽量。亦好讀書。屬文射能。洞鐵七寸。主是爲淵將。○巴西氏李特初以流民入蜀。旬月衆二萬。據廣漢。進攻成都。爲刺史羅尚所敗。斬其首。弟流代領其衆。勢復盛。流死。弟雄代。攻走羅尚。入成都。至是自稱成都王。○鮮卑慕容廆自武帝時已爲寇。既而降。以爲鮮卑都督。廆生皝。自遼東徙居徒河。又徙大棘城。及帝世。慕容部愈盛。○鮮卑索頭拓跋氏。先是有質子在晉。武帝遣歸。既而拓跋力微又遣其子入貢。力微死。子悉祿悉立。及帝世。索頭分國爲三部。一居上谷之北。祿官自統之。一居代郡。參合陂之北。使兄子猗屯統之。一居定襄之盛樂故城。使猗屯弟猗廬統之。晉人附者稍衆。猗屯渡漠北。巡西略諸國。降附者

三十餘國。拓跋氏之盛始於此。夷狄亂華之禍。皆萌蘗於漢魏晉間。至帝之世。乘中國大亂。始四起。○帝在位十七年。改元者五。曰元康。永康。太安。永興。光熙。太弟立。是爲孝懷皇帝。(二字解)

(會)必ずと同一(送)互にたり(傳)傳は後なり(摩)摩古の學校の名(解)大にしてすくれること(屬)屬文を作ること(号)三百斤(号)号は此目方の物を拵けて始めて弦の引けるもの(編)編戸(編)編戸人民の戸籍(奄)奄空なり(百年)一生のこと(族)族子(姓)姓なり(氏)夷の石(質)質子(質)質音ち人質なり(前)前(講)講義(り)全体帝は生れ付き愚昧にして天下が大饑饉のとき帝は米が不足なれば何とて肉を粥にして食せぬことやと云へり又華林園にて蛙の聲を聞き彼の鳴くものは官の爲めに鳴くやと云へり又私の爲めに鳴くやと云へり又左右の者は戯れ官地にあるものは官の爲めに鳴く私地にあるものは私の爲めに鳴くと云へり又帝は後漢の明帝が長安より移せるも亂世になるを知れり此時索靖は洛陽の宮門の前にある銅駝を指差し屹度其方がいばら荒れ草の中に埋もれるを見るならんと云へり果せる哉趙王なる倫が亂を起せし後諸王は互に相殺し亡ぼしやい天下は大いに亂れたり此時劉淵は左國城にて起れり淵は元と南匈奴の後なり匈奴ハ漢魏より以來中國の臣となりしか其先祖は漢の甥なるにより漢の姓を名乗れり淵の父なる約は左部の大將となり淵を生みたり淵は幼少より俊れ異なり廣く經書歴史を習ひ或る時我れは彼の漢の騎河陰賈の二人が武勇なくして高帝に出逢ひしも封侯の功業を立てること出来ず又漢の周勃灌嬰が文學なくして文帝に出逢ひ學校の教を興すこと出来ざるを耻と思ふなり如何にも残念なることならずやと云ひ是れより又武事をも兼ね學へり其身体は大にしてすくれたり以前に人質となりて浴に居りしか父約が死去せしにより武帝は淵を以て五部大將の役に代らせたり其後又北部の都尉となる因て五部の豪傑共は多く淵の子なる聰も亦猛く勇氣ありて人に立超へ又博く經書歴史を通覽し三百斤の弓を引けり淵が從祖なる宣は同黨に向ひて漢亡ししより以來我が單于はいたつらに空しき名ある計りにて又一尺の領地もなく其他諸部の王侯も降つて平民の籍に同じくされり今我が部衆は盛へたるは云へまだ二万あり如何んぞ手を引込めて人に使役せられ空しく一生を送らんや今司馬氏ハ同族相殺し四邊は罪の沸かかしく亂れりそうして我が左賢王ハ秀て武けきこと世人に超へたり又呼韓邪單于の畜業を立つるハ實に此時なりと云ひそて相共に相談して淵を推し立てたり扱て淵は穎の處に居りしか穎に説き歸りて五部の兵を引連れ來り助けんことひやつと穎を欺き歸りて左國城に至りたれば宣等は淵を推し立て大單于とせり因て僅か二十日の間に兵五万になり離石に都を定めり此時晉人胡人の歸服する者甚だ多しそて國號を立て漢と云ひ漢王と稱せり扱て淵の廷に禮と云ふ者ありて生れし時より眉毛

濟者有如此江。愍帝又以春爲丞相都督中外諸軍事。長安陷。春出師。露次移檄北征。實不行。群臣勸即晉王位。明年遂即皇帝位。○太尉劉琨死。初琨與祖逖齊名。琨謂人曰。常恐祖生先吾著鞭。懷愍時爲并州刺史。琨出軍。長史叛降石勒。幽州刺史段匹碑時在薊城。遣人邀琨。琨率衆奔薊。與匹碑歃血同盟。翼戴晉室。有欲襲取薊者。遣書請琨爲內應。書爲邏騎所獲。而琨實不知也。竟爲匹碑所縊。○漢主劉聰卒。子粲立。其臣斬準弒而代之。石勒討準。劉曜自立。封勒爲趙公。曜疑勒自稱趙王。曜亦改號爲趙。勒爲後趙。○略陽臨渭氏晉蒲洪。驍勇多權略。群氏畏服之。劉聰嘗拜爲將軍。不受。在懷帝世。自稱略陽公。至是降于趙主曜。○晉豫州刺史祖逖卒。初逖取譙城。進屯雍丘。後趙鎮戍歸逖者甚衆。逖與將士同甘苦。勸課農桑。撫納新附。帝以戴淵爲將軍。來督軍事。逖以己剪荆棘。收河南地。而淵雍容。一旦來統之。意甚怏怏。又聞王敦與朝廷構隙。將有內難。知大功不遂。感激發病卒。豫州士女若喪父母。○字解(仙音ちう(名論)名望と輿論となり(操屬)屬官なり(江左)建業(東晉)晉仲の字なり(江河之異)洛陽の時時は黃河の邊りに宴し今は楊子江の邊りに宴するの意異なり(楚囚)昔し楚の鐘儀が晉に捕はれしことに比し云ふなり(非惡聲)雞の夜鳴きは亂世の兆と云ふゆへ我々事を成んとする者に取てい惡しき聲にあらす實に好き聲なり(有如此江)此江水の再

○十八史略 東晉 二

の時より自分にて略陽公を稱したるか此時に趙主なる劉曜に降参せりさて晉の豫州の刺史なる祖逖は死去せり是れより以前趙は
 魏城を取り進んで雍丘に屯營したれい後趙の鎮守する者多く遂に歸服せり趙は大将士と苦樂を同し又農業を勸め兵糧をわめ
 新たに附きたる者を安んじたるか帝は戴淵を將軍となし豫州にやうて諸軍事を監督させたりさて祖逖は自分か亂を定め河南の土
 地を取り治めたるに今更淵は苦勞もなく悠然と來り上に立つことゆへ心い甚だ樂しからず又王敦は朝廷と仇を構へ今にも内亂を
 るを聞きたれば到底中原恢復の大功は成就せざるを知り心に感し憤激して病を起して死去したれい豫州の士民男女共に悲しみて
 自分の父母の死去
 せし懐に思へり ○鮮卑慕容廆先是嘗遣使于晉受帝命爲平州刺史至是
 以爲平州牧遼東公○初拓跋祿官死猗盧總攝三部劉琨與猗盧結
 爲兄弟懷帝時表爲大單于封代公帥部落自雲中入雁門琨與以陘
 北之地由是益盛嘗爲琨援大敗劉曜之兵於晉陽猗盧城成樂爲北
 都平城爲南都愍帝進猗盧爵爲王置官屬食代常山二郡猗盧愛少
 子欲立爲嗣而出其長子六修使六修拜其弟不從而去大怒討之兵
 敗而遇弒猗屯之子普根討滅六修而自立尋卒國人立猗盧弟之子
 鬱律至是猗屯之妻殺鬱律而立其子賀偃鬱律之子什翼犍在襁褓
 母匿之袴下得不殺○晉荊州刺史王敦反初帝之始鎮江東也敦與
 從弟導同心翼戴推心任之敦總征討導專機政群從子弟布列顯要
 時人語曰王與馬共天下敦先領揚州刺史都督征討諸軍進爲鎮東
 大將軍都督江揚荆湘交廣六州諸軍事江州刺史尋領荊州特功驕

恣帝畏惡之乃引劉隗刁協爲腹心稍抑損王氏權導亦漸見疎外敦
 參軍錢鳳等凶狡知敦有異志陰爲畫策至是敦遂舉兵武昌以誅劉
 隗刁協爲名隗協勸帝盡誅王氏帝不許導率宗族每且詣臺待罪周
 顛將入導呼之曰伯仁以百口累卿顛不顧入見帝言導忠誠申救甚
 至帝納其言顛醉而出導又呼顛不與言顧左右曰今年殺諸賊奴取
 金印如斗大繫肘後既出又上表明導無罪導不知恨之帝召見導導
 稽首曰亂臣賊子何代無之不意今者近出臣族帝跳而執其手曰茂
 弘方寄卿以百里之命以爲前鋒大都督敦至石頭城據之曰吾不復
 得爲盛德事矣協隗等分道出戰大敗而還帝令百官詣石頭見敦敦
 殺周顛導不救後料檢中書故事見顛表執之流涕曰吾雖不殺伯仁
 伯仁由我而死幽冥之間負此良友敦不朝而去還武昌帝憂憤成疾
 而崩在位六年改元者三曰建武大興永昌太子立是爲肅宗明皇帝
 (字解) (傳)音とく(臨)小兒を賣ふ紐を包むもの(推)心帝か賊を推しての意(與)馬帝ハ司馬氏なり(凶)狡凶惡狡猾なり(論)語の語
 (聲)御史遷に往くこと(百口)家族なり(申)救救ひの申立て(斗大)升程の大きさ(肘後)腋の下なり(百里之命)論語の語
 にて政事を云ふ(盛德)君に仕ふる事の意(料檢)取調へなり(伯仁)顛の字なり(幽)冥人の知らぬことを云ふ(不朝)都に來りな
 らず内せ(講義)鮮卑の慕容廆は是れより先きに使者を晉にやり帝の命を受けて平州の刺史となり此時に至り又平州の牧にて
 すなり(遠)東公となれり是れより以前に拓跋祿官は死去したれば猗盧は三部を總へ支配せり因て劉琨は猗盧と戦

兄弟となり傾帝の時理は上表して猗盧を大軍子となし代公に封せられ部將を引連して雲中より雁門に入れり現は陔北の土地を許し興へたれば是れより段々盛んにたりたり或る時現を助けて劉曜の兵を晉陽にて大ひに打破れり扱て猗盧は成樂の地に城を立て北都と名し平城を南都となせり慈帝は猗盧の位を進めて王となし官屬を置き代と常山との二郡を領分とさせたり猗盧は少子を寵愛して立て、跡續きとせんと思ひ先づ長子なる六箱を逐ひ出し又六箱に弟なる少子を拜禮させ君臣の分を定めんとせしに六箱は拜禮するを承知せずして立去りたれば猗盧は六箱に立腹して征伐せしに却て敗軍して殺されたり因て猗盧の子なる將根は六箱を討ち亡ぼして自立し何程もなく死せり國人は猗盧の弟の子なる戰律を立てたり茲に至り猗盧の妻ハ戰律を殺して其子なる賀傳を立てしに又戰律の子なる什翼犍ハ幼少にてむつきの内にありて母は將の下にて隠したれば殺されざりし茲に晉の荆州の刺史なる王敦が叛反せり是れより以前帝が江東を領せしとき王敦ハ從弟なる王導と心を同くして助け戴き帝も誠心を推して委任し王敦は征伐の事を統へ王導は万機の政を專制し多くの從ふ者や子弟は高き要路に並ひ立ちたれば時の人ハ此事を以て將に作り王導と司馬氏と天下を共にすると云へり扱て敦は先きに揚州刺史を領し征討將軍と都督し進んで鎮東大將軍都督江揚南湘廣六州の諸軍事江州の刺史となり又何程もなく荆州を領し手柄を手頼みにして高擡り我儘なれば帝は恐れ惡みそこで劉曜の協の二人を引入れて腹心の助けなしぼつばつ王氏の權を押し減し王導も亦段々と疎んじ外にせられたり扱て王敦が參軍なる錢鳳などハ惡く奸智ありて敦が叛反心あるを知り内々爲めに計とを定めり此時に至り王敦はとふと兵を武昌に起し劉曜の協の二人を殺すを以て名目とせり因て陳協の二人は帝に勧めて盡く王氏の一族を殺さんと云ひし帝は許さざりし扱て王導は一族を引連れて毎朝御史臺に至り待罪せり或る日周顛が入朝するを見掛け王導は呼び伯仁よ我れハ家族の爲めに君の救ひを願ふなりと云へり周顛は見向きもせず參内し扱て帝に面謁し王導は忠誠誠心ありて王敦と連類ならざるを云ひ十分の言葉を以て辯解したれば帝も其辯解を承知せり斯くて顛は酒を賜はり酔て退出せしとき王導は又呼び掛けたる顛ハ矢張り答へず左右の供人を見廻り膝を乗し王導に聞けがしに大聖にて今年ハ諸の賊奴を殺し金印の升程の大きさを項戴し賊に掛けんものと云ひながら出て去り又書面を以て王導の無罪の由しを明言せり然るに王導は夫れ等の事を知らぬゆへ大ひに周顛を怒めり扱て帝は王導を召し出されしは王導ハ腹に付け乱臣賊子ハ何れの代にもあるものなれとも思はずも今度ハ私の一族より出てたりと云へり帝ははたしまた王導の手を取り度私よ正に君に頼むに政權を以てせんと云ひ王導を以て前鋒大都督となしたり扱て王敦は石頭城に至りて糧儲り扱て我は又君に仕ふる臣下の盛徳の行をするに出来ずと云へり因て協の二人ハ道に分けて出戦し大ひに破れて引歸れり因て帝は百官に石頭城に至らせ王敦に面會させしに王敦は周顛を殺せり扱て王導は隨分救ふ道あるも前日の怨あるゆへ救はざりし其後王導は中書省の政事を取調へたるとき周顛が上書を見當り其中に王導の罪なきを辯明せり王導は其書を取りて涙を流し我れは伯仁を殺したるにもさるも伯仁は我れハ救はざるによりて殺されたり去れり人の知らぬ間にて此の如き良き友に負きたりと云へりさて王敦は參内せずして立ち去り武昌に歸れり帝は王敦の暴虐を怒り心配し夫れより病氣となりて死去せらるる在位は六年にて改元するものは三つ

建武大興永昌と云へり太子が相續し是れを肅宗明皇帝と云へり

肅宗明皇帝名紹幼而聰慧嘗有使者從長安來元帝問紹曰長安近歟日近紹曰長安近但聞人從長安來不聞人從日邊來元帝奇其對一日與群臣語及之復以問紹紹曰日近元帝愕然曰何異問者之言邪紹曰擧頭見日不見長安元帝益奇之及長仁孝喜文辭善武藝好賢禮士受規諫與庾亮温嶠等爲布衣之交敦在石頭以其有勇畧欲誣以不孝而廢之賴嶠等衆論沮其謀至是即位敦謀篡位移屯姑熟自領揚州牧○以王導爲司徒加大都督督諸軍討敦敦復反發兵而病使郭璞筮之璞曰明公起事禍必不久敦大怒曰卿壽幾何璞曰命盡今日日中敦斬之帝自出覘敦軍敦晝夢日環其營驚悟曰黃髮鮮卑兒來邪帝母鮮卑出也亟遣人追之不及帝帥諸軍出屯南皇堂夜募壯士渡水掩敦兄王含軍大破之敦聞含敗曰我兄老婢耳門戶衰世事去矣因作勢起欲自行困乏復臥尋卒敦黨悉平發敦屍斬之有司奏罪王氏兄弟詔曰司徒導以大義滅親將十世宥之悉無所問○以陶侃都督荆湘等州諸軍事侃少孤貧孝廉范逵過之侃母湛氏截

戰死。二子隨之。亦趣敵死。母撫其屍曰。父爲忠臣。子爲孝子。何恨。庾亮出奔。峻兵犯闕。陶侃溫嶠入討。峻斬之。○後趙主石勒大破趙兵。獲趙主劉曜。曜與勒連攻戰。互勝負。曜攻後趙金墉城。勒自將救之。大戰于洛陽。趙兵大潰。曜醉墮馬。爲勒獲。歸殺之。前趙亡。○晉驃騎將軍溫嶠卒。嶠初爲劉琨所遣。使江東。母不欲。嶠絕裾而去。既至。不復得歸。北終身以爲恨。嶠盡心晉室。敦峻之平。皆嶠力。○後趙石勒稱天王。尋稱帝。嘗大饗群臣。問曰。朕可方古何主。或曰。過於漢高。勒笑曰。人豈不自知。卿言太過。若遇高帝。當北面事之。與韓彭比肩耳。若遇光武。當並驅中原。未知鹿死誰手。大丈夫行事。當礪礪落落。如日月皎然。終不效曹孟德。司馬仲達。欺人孤兒寡婦。狐媚以取天下也。勒雖不學。好使人讀書。而聽之。時以其意論得失。聞者悅服。嘗聽讀漢書。至酈食其勸立六國後。驚曰。此法當失。何以遂得天下。及聞張良諫。乃曰。賴有此耳。後遣使修好于晉。晉焚其幣。勒卒。子弘立。○晉太尉陶侃卒。侃都督八州。威名赫然。或謂侃嘗夢生八翼。上天門。至八重。折左翼而下。力能跋扈。每思折翼之夢。輒自制。在軍四十一年。明毅善斷。人不能欺。自南陵至白帝。

數千里。路不拾遺。○後趙石虎殺其主弘。而自立爲趙天王。殺勒種無遺。○成改國號曰漢。李雄以兒子班爲太子。雄卒。班立。雄子越弒班而立其弟期。期忌雄弟漢王壽威名。使出屯于外。壽還襲弒期。而自立。字解。(建請建言しをふこと(可方)並へらるゝの意(北面)臣下の位置(韓彭)韓信彭越の二人(鹿)王位なり(礪々)礪々を同じすく
れること(落々)大ひなること(狐媚)人へつらひまよはすこと(類)幸ひなり(赫然)きつぱりと盛なを云ふ(明毅)万事に明らかにして果
(講義) 昭宗成皇帝の名は折にて母は庾氏なり五歲にて位に即き司徒なる王導と帝の舅なる中書令の庾亮とが政
決なること 事を補佐し太后の朝に臨みて政を聞けり茲に歷陽の内史官なる蘇峻が謀反せり峻の前に臨淮に太守とな
り王敦が二度目に京城に攻め入りたるとき入りて守り手柄ありて威勢人望も段々と世に顯はれ歷陽にあるに及ひ士卒は強く兵器
は其く因て志は朝廷を侮どり夫れより脫走浪人を呼び入れたれば庾亮は石頭城を修葺して其用心をなし又建言し峻を召して大同
慶と云ふ官にせんと乞ひ峻を召したれば峻は遂に兵を起して姑熟を攻め落せり此時尙書令なる卞壘は軍勢を引連れて峻と勉め戦
ひ遂に打死せしかけ壘の二人の子も父に従ひ敵中に入りて打死せりさて其母は死骨を撫て父の國の爲めに打死して忠臣となり子
は父の爲めに従ひ死して孝子となり我れ何とて怨まんやと云へりさて庾亮は出奔したれば峻は京城に攻め入りたれば陶侃溫嶠
ハ入りて峻を打ち遂に切り殺せりさて後趙の主なる石勒ハ大ひに趙の兵を破り趙の主劉曜を生取れり先きに曜と勒とは引續きて
攻め戦ひ何れにも勝負ありしか曜は後趙の金墉城を攻めしに勒は自分か大將となりて救ひ大ひに洛陽にて戦ひ趙の兵は大ひに崩
れ曜は酔て馬より落ち勒が爲めに生取られしなり勒は歸りて曜を殺し前趙は茲にて亡びたり扱て晉の驃騎將軍なる溫嶠は死去せ
り嶠は以前に劉琨の爲めに江東に使にやられしか其母は嶠の往くを怒みとせり嶠は心を晉の朝廷の爲めに盡くし彼の王敦蘇峻
か扱て江東に至りて又北に歸ること出来ざれば生涯母に背きたるを怒みとせり嶠は心を晉の朝廷の爲めに盡くし彼の王敦蘇峻
を平らげしことは皆嶠の力なりし此時後趙の石勒は天王と稱し又次きに帝と稱せり或る時大ひに群臣を饗應せしとき扱て我れは
古の如何なる人主にくらへらるゝやと問へば中書令なる徐光が漢の高帝に過ぎたりと云へけ勒は笑ひながら人々何とて自分の
器量を知らざることあらんや君の言葉は甚だ過ぎたり我れ若し高帝に達へば臣下の列に加はり韓信彭越な心と肩を並へるまでな
り若し光武帝に達へば中原に馬を並へて競争し王位はまた何れの手に入るや分らぬと云ふなり凡そ六丈夫の事をなすにはすくれ大
ひなる心立てハ日月の明らかなる様にすへきことにてつまり曹操司馬懿か人の小供や後家女をだまし媚ひ迷はして天下を取る様
なことには皆はぬなりと云へり扱て勒は學問せざるも人に書を讀ませて聞くことを好み時々自分の心を以て事の當否を論し聞
く者は皆感服せり或る時漢書を讀ませて聞きしか鄭食其が漢王に勸めて六國諸侯の血筋を立つることを聞き勒は驚き此法は失敗

する筈なるに何としてとらう天下を取りたるやと云ひ又張良が漢王を諫め六國を立てることを聞きそめて勸は幸ひに此謀め
 かありしなりと云へり其後勸は使をやりて好みを晋に修めさせしに晋は其送り物を焼きて受けたりし扱て勸は死去し子なる弘か
 立てり扱て晋の大尉なる陶侃は死去せり侃ハ九州の都督となり威勢名望はきつばりと盛んなり一暇に云ふ侃は以前に八つのつ
 ばさ出れきたる天門に上り八重まで至り今一重の處にて左のつばさを折りて落ちたるを夢見たれハ隨分力は我儘の出来程なれども
 いつもの末の翼を折りたる夢のことを思ひ出していつも我儘心を自分にて押へたり扱て軍中にあるよと四十一年にして万事に明ら
 かに果決にして能く決断し人は歎くこと出来ず南陵より白帝城に至るまで數千里の土地は能く治まり路に落ちたる物も拾ひ取る
 者なかりし扱て後趙の臣石虎は其主なる弘を殺して自分にて主となり趙天王となり石勒の一族を殺して殘さうし扱て成が國號
 を改めて漢と云ひ李雄は兄の子なる班を以て太子となし後に雄が死去したれば班の子なる越が班を殺して自分の弟なる越を立て
 たり然るに期は父の弟なる漢王壽の威勢名譽あるも思ひ出でて外に屯營させたれば壽は歸り不意打して期を殺し自分か立
 ちた

○代王什翼犍立。先是代王賀犍卒。弟紇那嗣。紇那出奔。鬱律子翳
 槐立。紇那復還。翳槐奔趙。趙納翳槐于代。翳槐臨卒。命諸大人立弟什
 翼犍。自猗盧死。國多內難。部落離散。什翼犍雄勇有智略。能修祖業。始
 制百官。號令明白。政事清簡。百姓安之。於是東自濊貊。西及破落那。南
 距陰山。北盡沙漠。率皆歸服。有衆數十萬人。拓跋氏自是愈大。○晋丞
 相王導卒。初帝即位。冲幼。每見導。必拜。既冠。猶然。委政於導。導以門地
 王述爲掾。述未知名。人謂之痴。既見。問江東米價。述張目不答。導曰。王
 掾不痴。導每發言。一坐莫不贊歎。述正色曰。人非堯舜。何得每事盡善。
 導改容謝之。導性寬厚。所委任諸將多不奉法。大臣患之。庾亮欲起兵

廢導。或勸導密備。導曰。吾與元規休戚是同。元規若來。吾便角巾歸第。
 復何懼哉。亮雖居外鎮。而遙執朝權。據上流。擁強兵。趨勢者多歸之。導
 內不能平。嘗遇西風塵起。舉扇自蔽。徐曰。元規塵汚人。導簡素寡欲。善
 因事就功。雖無日用之益。而歲計有餘。輔相三世。倉無儲穀。衣不重帛。
 ○晋司空庾亮卒。初蘇峻之亂。亮激之也。峻平。亮泥首謝罪。求外鎮。自
 效。後都督江荆等州諸軍事。辟殷浩參軍。浩與褚裒皆識度清遠。善談
 老易。擅名江東。而浩尤爲風流所宗。亮欲開復中原。上疏請率大衆移
 鎮石城。遣諸軍羅布江沔。爲伐趙之規。蔡謨曰。不能以大江禦蘇峻。安
 能以沔水禦石虎。乃詔亮不聽。移鎮。至是卒于武昌。○晋封慕容皝爲
 燕王。自皝父寗爲遼東公。立皝爲世子。雄毅多權略。喜經術。鹿卒。皝立。
 其下勸稱王。皝使請于晋。遂封之。○帝在位十八年。頗有勤儉之德。改
 元者二。曰咸和。咸康。崩。二子不奕在襁褓。帝母弟瑯琊王立。是爲康皇
 帝。(字解) (紇音きつ(大人)部長なり(浩簡)さうりとして少なきこと(濊音くはい(門地)家柄(元規)庾亮の字なり(休戚)
 苦樂なり(角巾)隱者の頭巾(激之)大司農を以て召したること(泥首)刑人の樣子とす(識度)智識才度(雄毅)勇剛
 なること(經術)聖人の道 (講義) 代王なる什翼犍か立てり是れより以前に代王なる賀犍か死去し其弟なる紇那を相續し紇那が
 を研究する學術と云ふ (講義) 出奔して鬱律の子なる翳槐か立ち又紇那が歸りたれば翳槐か趙に出奔せり因て趙は翳槐を代
 に入れたるが故に翳槐の死去に臨み諸の部長に云ひ付け弟なる什翼犍を立てさせたり全体翳槐が死去せしより國に内乱多くして諸

の部落も散りて離れ離れになりしが什翼犍はすぐれ勇氣にして智計ありて能く先祖よりの事業を續き修め始めて百官を定め號令は明白にして政事は皆事少にして清らかなれば百姓も安堵したり因て東の方は懐順より西の方は破落那にまで及び南は陰山を距り北の方は沙漠を限り大休諸部は皆歸服し兵衆數十万人あり實に拓跋氏は是れより彌ふ大ひなりたり因て晋の丞相なる王導は死卒せり初め帝が位に即さしときは幼少なれば導を見る毎ひに屹度拜禮せり帝已に冠禮を行ひし後も矢張り導を見れば拜禮せり斯かるまじゆへ政事は總て王導に打ち任せたり因て王導は家柄の譯を以て王述を屬官とせり述はまた名を知られぬゆへ人は述を阿房なりと云へり因て述が面會のとき導ハ試みに述に向ひ江東の米の直段を問ひしに述は餘り馬鹿にするゆへ目を張りたるまゝ返事をせざりし因て導は王述は中々阿房ならずと云へり因て導が言葉を終する毎に一坐の者共は贊成歎賞せぬことなり然るに述は顔色を正しくし人は幾舜にあらずれば何として事毎に皆善なることあらんやと云へば導は形を改め正して述に謝したりを休導ハ生質寛大厚にして用ゆる所の大将の中には法を守らぬ者多かりしかは大臣は皆此事を心配せり現に庾亮が兵を起して導を廢せんとせしかは或る人は導に勸め其用心を内々せんことを云ひたれば導ハ我れと元規とは苦學を共にするまじなれば若しも元規が來るなれば我れは直ぐ隱者の頭巾を着て自分の屋敷に歸る計りなり又何とて恐るゝことあらんやと云へり因て亮は外なる藩鎮に居りながら遠くより朝廷の政權を取り河の上み手に櫓籠り強き兵士を抱へ持ちたれば時の勢の好き方に従ふ者は多く亮に從へり因て導も内心には不平にて或る時西風にて塵が起りたれば導は扇を上げて自分の顔を覆ひ靜かに元規の方より來る塵が人を汚すことなりと云へり是れ亮を惡むの言葉とす因て導ハ簡易にして實業を旨とし至て愁少なく又能く事により手柄をなせり其任方は日々に利益なきも一年になりて計れば有餘あり因て三帝の補佐となり私の倉には貯への米なく衣服は絹を重ねざりしさて又晋の司空なる庾亮は死去せり初め彼の蘇峻の乱を起せしは其實亮があらざれば後江荆等の州の諸軍事を都督し殷浩を召して參軍とせりとなり我が罪を詫ひ外鎮を治めて手柄を立て、罪の差引きとせん願ひ後江荆等の州の諸軍事を都督し殷浩を召して參軍とせり浩は積善と傳何れも心立て清淨幽遠にして能く老子易經を談し名望を江東に高くせりをうして浩ハ取りわけ風流の爲めに尊ばれたり因て亮は中原の土地を取り返し開かんと思ひ上書して大軍を引連れ移て石城に鎮營を立て又諸軍をやりて江水汚水の處に布き連らね將を征伐するの計圖をせんと乞ひたれば蘇峻は大江を以てさへも蘇峻を防ぐこと出來ざるに何とて能く汚を以て石虎を防ぐこと出來んやと云へば是こて帝は就に詔し鎮を移すことを許されざりし因て此時に至り武昌にて死去せり因て晋は慕容皝を封して燕王となせり就の父か遼東公となりしより就を立て、世子とせ、就ハ武にして英斷あり又權謀策ありて聖人の學術を喜ひ父亮が死去し就が立ちたれば其家來は勸めて王と稱せんと云へば就ハ王に封せられたりさて帝ハ在位十八年にて大僧勳強倫約の行ひあり改正するものハ二つ成和成康と云へり死去して二人の子なる丕と奕といふ幼少なれば帝の同腹の弟なる瑯琊王を立てり是れを康皇帝と云へり

〔康皇帝〕名嶽。成帝臨崩。以嶽爲嗣。遂即位。○都督荆江等州軍事庾翼。

爲人慷慨。喜功名。不尙浮華。殷浩才名冠世。翼弗之重。曰。此輩宜東之。高閣。俟天下太平。徐議其任耳。時人擬浩管葛。伺其出處。以下興亡。曰。淵源不出。當如蒼生何。翼請浩爲司馬。不應。翼以王夷甫嘲之。瑯琊內史桓温。豪爽有風槩。翼嘗薦之。曰。英雄之才。宜委以方召之任。至是翼以滅胡取蜀爲己任。欲悉衆北伐。移鎮襄陽。詔翼都督征討諸軍。翼以温爲前鋒督。○漢主李壽卒。子勢立。○帝在位三年崩。改元者一。曰建元。太子立。是爲孝宗穆皇帝。〔字解〕

(譯)老莊の學にて浮薄にして實なきを云ふ(高麗)高き物置き(方召)方叔と召伯とにて周の宣王が中興の名臣とす 康皇帝の名嶽と云ひ成帝が死去に臨み嶽を以て跡継ぎとせら

(講義) 康皇帝の名嶽と云ひ成帝が死去に臨み嶽を以て跡継ぎとせら 康皇帝の名嶽と云ひ成帝が死去に臨み嶽を以て跡継ぎとせら

世に第一たるも翼は貴重せず此の如き者は一括げにして高き物置きに投げ上げ置き天下の太平になるを待て辭かに用ひ擲所を評議するたけなりと云へり然るに世の人は空論に迷はざる浩を古の管仲や諸葛亮と比較し官に付くと官を引くとを以て國の起ると亡ぶとを見られること、思ひ淵源がでて、官に仕へされは人民を如何にするか、と云ひ導ひたれば翼は暫らく人民の心を計り浩を司馬と云ふ役にせんと云へば浩は拜命せず因て翼は王衍と同様に世に不必要の人物なりと嘲けり笑へりさて瑯琊の内史なる桓温は心立て強く大ひにさつぱりとして威風と氣力とあり翼ハ或る時温を薦進し實に英雄の才あれば委任するに周の方叔召伯の役目を以てせんと云ひさて此時に至り翼ハ夷を亡はし蜀を取るを以て自分の役目となし兵士を有る限り出し北なる夷を征伐せんとし襄陽に鎮營を移したれば因て帝は翼に詔し征討諸軍の都督とせり翼は温を先手の都督とせりさて漢主なる李壽は死去し子なる勢が立てりさて帝は在位三年にて死去し改元するものは一つ建元と云へり太子が相續し是れを孝宗穆皇帝と云へり

〔孝宗穆皇帝〕名聃。三歲即位。會稽王昱輔政。○庾翼卒。以桓温都督荆

梁等州軍事。翼初表其子領荊州。何充曰。荆楚國之西門。豈可以白面少年當之。桓温英略過人。西任無出温者。丹陽尹劉惔知温有不臣之志。謂昱曰。温不可使居形勝地。昱不聽。竟以温代翼。○漢主李勢驕淫不恤國事。桓温帥師伐漢。拜表即行。進至成都。勢降。送建康。漢亡。○燕王慕容皝卒。子儁立。○趙天王石虎稱帝。尋卒。子世立。其兄遵弑之。而自立。趙亂。晋征討都督褚裒表請伐趙。朝野以為中原指期可復。蔡謨獨以為莫若度德量力。經營分表。恐憂及朝廷。裒遣將果敗沒。○趙蒲洪遣使降晋。洪事趙累世。至是石閔言於趙主遵曰。蒲洪人傑也。今鎮關中。恐秦雍非國家有。遵罷洪都督。洪怒歸枋頭。遂通于晋。○涼州張重華自稱涼王。初惠帝之世。張軌為涼州刺史。威著西土。懷帝陷沒。軌遣兵助愍帝。於長安。帝以軌為涼州牧。西平公。軌卒。子寔立。寔為妖賊所殺。弟茂立。趙主劉曜擊茂。茂降趙。茂卒。寔之子駿立。茂臨終語駿。必奉晋不可失。駿雖復臣於後趙。石勒恥之。成帝時假道於蜀。以通晋。駿卒。子重華立。晋遣使仍拜西平公。重華自為王。○後趙石鑑弑其主遵。而自立。石閔又幽鑑。殺之。而自立。改國號曰魏。殺虎三十八孫。盡滅石

氏。閔姓冉。為石氏所養。至是復其姓。後為燕所破。執而殺之。○蒲洪自稱三秦王。改姓苻。洪先擒趙將麻秋。不殺。而用其言。因宴為秋所鴆。子健斬秋。代領洪衆。健入長安。自稱秦天王。已而稱帝。○燕王儁稱帝。字解。

(白面)少年の形容(西任)西夏を征するの役目(形勝)要害に同じ(拜表)上書なり(度德量力)双方の威徳勢力を計りくらへること(分表)分外なり(陷沒)城落ち身死すること(妖)怪なり(改姓)未だ記に應ずる為め改むるなり(講義)

孝宗穆皇帝の名は卿と云ひ三歳にて位に即き晉王なるは其の政事を佐けり庾翼は死去せり因て桓温を以て荆梁等の州の軍事を都督させたり翼は初め其子申立て、荆州を領治させたり然るに何充は荆楚は國の西門なれば何とて白面少年を以て守らすこと出来んや只桓温の英略人に立超へたれば四方の任務は温の上に出づる者なしと云ひしに丹陽の尹なる劉惔は桓温は謀反の下心あるを知り兇に向ひ温の要害の處に居らすこと出来すと云へし聞入れすつまり温を以て翼の代りとせりさて漢主なる李勢の高擧り淫亂にして國の政事を心配せされば桓温は軍を引連れて漢を征伐し上書して直ぐに出發し進んで成都に至りたれば勢は降参せしゆへ建康に送れり茲にて漢は亡びぬさて燕王なる慕容皝は死去し子なる儁が立てり又趙天王なる石虎は帝と稱し何程もなく死去し子なる世の立ちし其兄なる遵が世を殺して自立し趙は亂れたれば晉の征討都督なる褚裒が上書して趙を伐たんと云へり朝野の人の中原の土地の期限を定めて取戻すこと出来ると思ひしに只獨り蔡謨は敵御方の威徳と勢力とを計りて事を起すに越すことなし若し分限外の事を治めざるとすれば心配の朝廷に及ぶを恐ると云ひしか翼は大將をやりて果して破れて打死せり此時趙の蒲洪は使者を立て、晋に降参せり洪は趙に仕ふるも代々なるか茲に至り石閔が趙王なる遵に向ひ蒲洪はすぐれたる人物なり然るに今關中を鎮撫せり去れば秦雍の土地は我國の所有とならざるを恐るゝなりと云へば遵は洪が都督を免れたれば洪は立腹して枋頭を歸り夫れより晋に降参せり又漢の張華は自分にて涼王と稱せり初め惠帝の時張軌は涼州の刺史となり威勢は四方の土地に顯はれたり後趙の帝が陷沒の時張華は其のやうに愍帝を長安にて助けたり帝は軌を涼州の牧西平公とせり軌死去して子なる寔が立ち寔は妖賊の爲めに殺され其弟なる茂が立てり然るに趙主なる劉曜の漢を打ちたれば茂は趙に降参し漢死去し寔の子なる駿が立ちたりさて茂が死去の時駿に向ひ峻度晋に仕へよ失ふこと出来すと云へり因て駿は又後趙の石勒に仕ふとは雖も心に耻ぢたりさて成帝の時往來の道を蜀に借りて晋に交還せりさて駿は死去し子なる重華が立ち此時晋は使者をやり重華を西平公に拜せり重華は又自分にて王となれり又後趙の石虎は其王なる遵を殺して立せり石閔は又鑑を捕へて殺し自分にて立てり因て國號を改めて魏と云ひ石虎が三十八人の孫を殺し其子石虎をばせりさて閔の姓は冉にて石氏の爲めに養はれ石虎を名乗らし其に及りて本姓を名乗れり後に燕の爲めに石虎を捕らんとせりさてされたり又蒲洪は自分にて三秦王と稱し姓を符と改めたり洪は弟

温(開音)てき大ひにすれたること(三秦)項羽が關中を三分せしより始まる(思)八寸(洛野)田野にある穀物を取り入れ、
 云ふ(平乘樓)船樓なり(陸沉)陸地の陥没にて(講義)趙の姚姦は晋に歸服し又叛けり襄の安なる七仲は南安なる赤亭の姚姦の
 つまり賊に取らるること(安石)安の字なり(講義)會長なり愷帝の末年に夷人も夏人も功を助け老を扶けて七仲に従ふ者數
 万人たれば自分にて扶風公を稱し其後趙趙なる劉曜に歸服し又後趙なる石勒石虎に仕へり石虎は甚た七仲を重んじ冠軍大將軍と
 せり虎は死去して趙亂し冉閔が趙を亡ぼすに至り七仲は使者を立て晋に降参す七仲死去し其部兵を引連れて來りたれハ晋
 は襄に詔して魏城に屯させ後又襄陽に屯させたり然るに揚豫州の都督なる殷浩は壽春にありしか襄が強盛なるを恐み大將をやり
 て不意打させしか襄の爲めに切られたり是れより以前に湘延の中原が大ひに亂るゝを聞き又進み取ること企て浩は其役目を受
 け年々北を征伐せしか手柄なく此時に至り諸軍を引連れて再び北に向ひしに襄は兵を埋伏して迎へ浩が山桑に至りたるとき襄は
 伏兵を起して打ちたれば浩は大ひに破れて逃げたり時に涼の張重華は死去し子なる曜靈が立ちしか其臣か廢して張祥を立てたり
 浩は晋の桓温は殷浩の敗軍せしにより乞ふて浩を廢して平民となしたり朝廷は初め浩を用ひて温に立て付かせたるか浩は廢せら
 れ是れより内外の權力も一つとなり大ひに温の手に入りたり浩は愁ひ怨むとは云へど少しも言葉は顔色に顯さず或る時空中に噴
 霧の怪事の子を書きたり其後鄧超は温に勸め浩を令僕の官に置かんと云ひしにより温は書面にて其由しを告げたれば浩は大ひに
 喜ひさて返事を作り誤字をいなきやと或は開き或は閉り十數度も打返しつたり失りてから箱を歸したれば温は大ひに立腹し
 うとう用ゆるの心を絶ち浩は配流地にて死去せりさて桓温は軍を引連れて秦を打ち秦の兵を大ひに藍田にて破り廻り戦ふて瀾川
 の邊りに至れり此時秦主なる苻健ハ長安の山城を閉ちて保ち守れり因て三輔の官民は皆降参したれば温は居民を諭し治め安堵さ
 せられたは人民は我れも我れも牛肉や酒を持ちて軍人を迎へ慰め男女は路の阿側に立ちて見物し老人は殊に涙を流し今日又官軍
 を見ることとは思ひ計らずと云へりさて北海の王猛字は景略と云ふハすくれ大ひなる性質に大なる心立てありて華陰と云ふ處に
 隱居したるハ此度温が關中に入りたると聞きて鹿未なる短き毛織物の衣服を着て日見へし指にて風を取りひねりながら世上の急
 務を談論し實に仰らに人もなき様なれば温は奇異なる人物と思ひさて猛に向ひ我れは天子の命令を受けて民を善ふ逆賊を征伐す
 るに三秦地方の豪傑はまた一人も歸服し來らぬは何故なるやと云へり猛は君にハ千里の途をも遠しとせず深く敢て攻め入り
 て今長安はつひ八寸か一尺の目の光きにあるに瀾水を渡りて長安に入らぬゆへ人民はまた石の心の全体如何なる目的なるやと
 知らぬゆへ來り従はぬことなりと云へり是れは温ハ眞に賊を打ち民を安んずるの目的にあらす手柄と名譽とを以て東晋の朝廷を
 壓迫せんとし心立てゆへ猛ハ其不臣の意を推し計り知り斯く云ひしなりさて温ハ餘り能く我ハ心を推したる言葉ゆへ一言の返答
 もせざりし夫れより温ハ秦の兵を白鹿原にて戦ひしか利なく又温ハ兵糧乏しくなりし上秦人は田野にある穀物をきれいに
 取り入れたれハ今は留まること出來さず温は猛をも共に連れ歸らんせしに猛は從かばさうし扱て此王猛のまことに付ては大なる
 關係ありて乃ち其先見と云ひ其仕方と云ひ當時第一の人物なりとす其辭は先づ温を助けて天子を尊ひ亂を鎮め民を救はんと思ひ

温に面會して種々談話し温は謀反の下心あるを知りて温に從はず其後賊なる苻堅に從ひ自分にて我ハ名を汚し其代り堅を善
 くに導き義を進め成るへく晋に向ひ軍を出たさぬ様にして又死去のときにも堅に云ひ晋に向ふの不義理にして利なきを教へり是れ猛
 は一身を以て晋と賊との間を切りたるものにて故に猛が死去するまては堅の一兵か晋に向ひしことなし是れ皆猛の力なり若
 し温か忠義の人物なれば猛は學生の力を出し温を助け天子を安んじ賊を亡ぼし民を治むるに至らん實に猛の心中の精忠は生涯世
 に顯はれず空しく賊臣となりて死せり扱ても惜しき人物なるかな我ハ國の三善大江は朝臣にてありながら賊朝を助けり王猛は
 是れと正反對なりとす扱て秦主なる苻健は死去し子なる生か立てり又涼の張祥は淫亂暴虐の爲めに殺され子なる支観か立てり又姚
 襄は燕に降参し北の方なる苻昌に斬殺り又洛陽を攻めたれば桓温ハ諸軍を都督して襄を征伐し進んで河上に至り屬官共と船樓に
 乗り北の方中原を襲みて歎息し中國を新しく賊に取らるゝこと百年にも及ひたるは老莊なる無實の談をなし世を憂へハ王衍など
 諸人か責を受けねはならぬなりと云へりさて又温は伊水に至りしに襄は戦ひ續き破れて逃げたり温は金甌に屯し諸の先世の險
 に拜謁し守の兵を置きて歸れり襄は又關中を取らんと企てしに秦は兵をやりて防ぎ打ち襄を切りたり因て襄の弟なる苻は兵を引
 き連れて秦に降参せりさて秦の苻堅ハ其主なる生を殺し自立して秦天王となれり時に王猛を薦参する者ありて堅は一見して苻を
 交はりある様にて自分にて支那ハ孔明を手に入れし様なりと云ひ一年の中に五度まで彼を上げたり猛は異才ある者を用ひ置きた
 る様を復し製作養業を勤め困窮なる者を救ひたれハ秦の人民は大ひに喜へり又燕の主なる慕容儼は死去し子なる暉か立てり時に
 晋の桓温ハ附安を以て征西司馬となせり安は少年の時より重大なる名譽ありて前後度々天子より地方官より召されたれど皆何
 れも仕官せざりし因て士や大夫は相互に安石か出仕せざれば人民を如何することぞと云へり時に年四十餘にて初て出仕せりさて
 帝は在位十七年にて死去せり改元するものは二つ永和和平と云へり子なきゆへ成帝の子なる瑯琊王か立てり是を哀皇帝と云へり
 (哀皇帝)名丕即位二年而廢疾又一年崩改元者二日隆和興寧弟瑯
 琊王立是爲帝奕(講義)哀皇帝は名丕と云ひ位に即してより二年にして病氣に掛り又一年にして死去せり
 (帝奕)名奕成帝之幼子也既即位以會稽王昱爲丞相○桓温自哀帝
 時爲大司馬都督中外諸軍事錄尚書事加揚州牧移鎮姑孰以郝超
 爲參軍王珣爲主簿人語曰髯參軍短主簿能令公喜能令公怒○燕
 人攻陷洛陽戍將死之温帥師代燕戰于枋頭大敗而還○燕慕容垂

衆の逃れ散り國中は大いに乱れたれば秦主なる苻堅は代を分けて二部となし河より東の方は代の南鄙の大人なる劉曜仁に支配させ河より西の方は匈奴の劉衛辰に支配させ夫れ夫れ其兵衆を統へ治めさせたりさて代の世子なる苻の孫は幼少なれば母なる賀氏か哇を連れて走り賀蘭に依りたるか其後又曜仁に依れり然るに曜仁は哇を守り立て惠みありて勉強し代國の廢れたるを以て心を替へざりし茲に晋は秦人の強く盛るるを心配となし詔を下して北の方なる秦を防ぎ鎮むる所の其將を求めたれば謝安ハ我ハ兄の子なる謝玄と云ふ者を薦舉せり此時謝玄は歎息して安は正明にして能く衆人の才す所に反し國の爲めに親屬を薦舉せり又玄の才は實に驚異せらるるに賀かぬとて我れか以前より其才を用ゆるを見るに草履取りの下部と雖もまた夫れ夫れ役目に協はぬと云ふことなしと云へりさて玄は廣陵を鎮め劉牢之を手に入れて參軍となし願ふて勝たざるふとなければ敵人は北府の兵と號し大いに恐れたりさて秦は兵をやり諸道より晋を攻め諸郡を攻め落し魏陽の刺史なる朱序を捕へて連れ歸り其後又大軍を起して攻め入るを評議せり此時或る人は晋には長江の險ありと云へば苻堅は我が大軍を以て攻むれば何の難きことあらんや名々の持つ馬の鞭を江に投げ入るも其水の流れをせき切ること出来んと云へり此時中外の者共は皆謀めたるに只獨り慕容垂と姚萇とは秦のすきに乗り事をなさんと思ひ兩の方晋を伐つを勧めたり堅はとうとう長安の守兵六十餘万と騎兵二十七万とを起したれば晋は謝石を征討大都督となし謝玄を前鋒都督となし兵八万を引連れて秦を防げり劉牢之は擲り拔きの兵五千を引連れて洛陽に往き直ちに水を渡り秦の前鋒なる梁成を打て切りたりさて石なほは水陸より積き進めり此時苻堅ハ壽陽城に上りて望み見たるに晋の兵ハ諸の部伍陣取りか嚴重に整ひたり又八公山の草や木を望み見て皆何れも晋の兵隊なりと思ひひきかれて恐るる顔色ありたりさて秦の兵は肥水に詰り寄せて陣取りたれば玄は使者をやり陣を移して少しく引き退き我が兵に水を渡るを得させよ其上にて勝負を決せん去れば宜からずやと云へば堅は晋の兵を許して渡らせ半分渡りたるを詰り寄せ打たんと思ひよふて兵を指圖して退せけりさて秦の兵は退きしか大軍ゆへ中々止むること出来ざりし此時先きに捕はれたる晋の朱序は陣の後手にありて大聲を上げ秦の兵は敗れたりと云へりとうとう秦軍は崩れ立ちたり因て玄なほは勝に乗りて追ひ打ちたれば秦軍は大いに敗軍し逃ける者は風の音や鶴の聲を聞くも皆晋の軍勢か追ひ來ると思へり堅はうろたへて長安に逃げ歸れり

○慕容垂叛秦起於河内自稱燕王○姚萇叛秦起於北地自稱秦王是爲後秦○慕容冲叛秦起兵平陽稱帝是爲西燕攻長安秦主苻堅出奔後秦主萇執而弑之○晋太保謝安卒安文雅過王導有德量方秦寇至朝野震動安夷然圍碁賭墅捷書至

安方與客碁覽畢寘坐側無喜色碁罷客問之徐曰小兒輩已遂破賊客去安入戶喜甚不覺屣齒折其矯情鎮物如此○秦主苻堅之子丕稱帝于晉陽○拓跋珪復立爲代王先是劉庫仁爲其下所殺弟頭眷代領其衆庫仁之子顯殺頭眷而自立又欲殺珪珪奔賀蘭部依其舅諸部大人推珪爲主遂即王位徙居盛樂後改稱魏○燕王垂稱帝于中山○西燕人弑其主冲立段隨又殺隨立慕容忠又殺忠立慕容永永擊秦主苻丕不敗南走爲晉將軍邀擊殺之慕容永稱帝於長子○秦疏族苻登稱帝於南安○後秦姚萇先是已入長安稱帝苻登引兵數與後秦戰互有勝負○後秦主姚萇卒子興立擊登殺之○燕主垂擊西燕拔長子殺西燕主永○燕主垂卒子寶立○自苻堅之敗中原大亂其大者慕容氏姚氏迭舉大號其乘時而起如秦故臣呂光據涼州稱涼天王鮮卑乞伏國仁據隴右稱西秦王國仁卒弟乾歸繼之後又有鮮卑秃髮烏孤起河西號南涼○晋自敗秦以後江左無事會稽王道子爲政帝嗜酒流連而已長星見帝舉酒向之曰長星勸汝一杯酒世豈有萬年天子邪○張貴人年三十寵冠後宮醉中戲之曰汝以

兵入建康。殺元顯。又殺道子。立為相國。封楚王。加九錫。已而迫帝禪位。劉裕起於兵京口。討立。與立兵戰。大破之。立出走。斬首於江陵。帝復位。劉裕鎮京口。(字解) (不辨) 自分にて分らぬこと (德) 垂の弟なり (北燕) 後燕と異なる (南燕) 引きつなわれ従ふを云ふ

(講義)

安皇帝の弟の德宗と云ひ功にして愚昧なり口も云ふこと出来ず亦も曇るも能くたるも自分にて分らず 飲み食ひより起るも自分の心より出ることなく皆人のまゝなり已に位に即ち會稽王なる道子が太傅となり政事を 佐けり扱て魏主なる拓跋珪が年々燕を攻め進んで中山を取り奪きたれば燕主なる慕容寶は出奔し後に其家來に殺されたり又燕の 慕容祥が帝を稱したるに慕容麟は不意打ちして祥を殺し自立せり因て魏主なる珪は麟を破りて追ひたれば麟は慕容徳の處に走り 徳に殺されたり扱て徳は往て虜國に稱せり後帝を稱せり是れを南燕をなせり又燕の慕容盛は龍城にて帝を稱せり是れを北燕と 云ふなり又魏主なる珪は帝を稱し平城に都を定めり涼の段業は瑯琊王と稱し張掖に稱する是れを北涼と云ふ扱て晉の會稽王なる道 子は専ら政事を世子なる元顯に委任し晉の政事は亂れ東方は騒がしくなり妖賊なる孫恩は人民の心の騒がしきにより海中の島よ り出で、亂を起せり劉裕は恩を征伐するの手柄あるにより又起れり北涼の沮渠蒙遜は段業を殺して自立せり蒙遜は匈奴の族種な り後に姑臧に移れり涼主なる呂光は死去し子なる紹が立ちしが蒙遜の兄なる蓋が紹を殺して代れり又呂超は蒙遜を殺して其兄なる 隆を立てたり隆は後に秦に降参して涼は亡びたり又龍西の李暠は樹焜に稱せり是れを西涼と云へり後には酒泉に移れり又柔然は 沙漠の北より起り高車の土地を奪ひて茲に居り備の部落を呑み合せ士馬も多く盛にして北方の第一たり先づ其土地の西の方は焉 耆に至り東の方は朝鮮に接し南の方は大沙漠に臨みたれば傍らの小國は皆つながれて従ひ魏と敵國となれり扱て晉の盜賊なる孫 恩は度々劉裕を討ち敗られ海に入りて死したるに其徒黨なる盧循と徐道覆とは又起れり晉の桓玄は謀反せり是れより以前玄は父 温に續きて南郡公となり自分の才智家柄を恃みにして英雄俊傑と自稱せり或る時義興縣を守りしが歎息し父は九州の伯となりし に子は僅かに五湖の長なりと云ひ官を捨て、國に歸れり其後江州の刺史となり何程もなく荆江等の八州の軍事の都督となり江陵 に稱せり茲に至りて軍を起して建康に攻め入り先づ元顯を殺し又道子を殺し玄は相國と爲り楚王に封せられ又九色の特許物を許 され其後帝に無理に迫りて位を讓らせたり因て劉裕は兵を京口に起して玄を伐ち玄の兵を破り大いに打破りたれば玄は出奔し首 を江陵にて切られたり是に於て帝は

故匈奴劉衛辰之子也。○秦赫連勃勃叛秦據朔方。自稱大夏天王。勃勃

侵畧晉邊。劉裕抗表伐之。○北燕爲其臣馮跋所滅。先是北燕主盛爲其下所殺。叔父熙立。跋得罪於熙。弑之而立熙之養子高雲。未幾又弑雲而自立。○魏主殺人之夫而納其妻。與之生子紹。兇狠無賴。弑珪。齊王嗣殺紹而立珪。諡道武皇帝。廟號烈祖。○晉劉裕拔廣固。執慕容超。送建康。斬之。南燕亡。○盧循乘劉裕北伐。出自番禺。直下襲建康。劉裕被徵急還。諸軍力戰。循乃退。裕追破之。循走交州。爲刺史所敗。斬首送建康。○西秦乞伏韓歸爲其下所弑。子熾盤立。○西秦襲滅南涼。先是南涼主秃髮烏孤卒。弟利鹿孤立。卒。弟傉檀立。至是爲乞伏熾盤所襲。以傉檀歸殺之。南涼亡。○後秦主姚興卒。子泓立。晉大尉劉裕伐之。發彭城。由洛陽道武關潼關入長安。泓敗出降。送建康。斬之。後秦亡。○夏主勃勃聞裕伐秦。曰。裕必取關中。然不能久留。若以子弟諸將守之。吾取之。如拾芥耳。至是三秦父老聞裕將還。詣門流涕曰。殘民不霑王化。於今百年。始覩衣冠。人人相賀。公捨此欲何之手。裕還彭城。勃勃陷長安。稱帝。歸統萬。○晉以裕爲相國。宋公加九錫。裕以讖云。昌明之後。尙有二帝。乃使人縊晉帝。弑之。帝在位二十三年。改元者二。曰隆安。義熙。

義熙元年。至十四年。則劉裕爲政之日也。弟瑯琊王立。是爲恭皇帝。字解。(抗表)上表なり(兇狼)惡にして戻ること(無頼)わふれもの(泓)音の(講義) 秦の赫連勃勃、秦に叛きて朔方に稱し、自(拾芥)十分易きを云ふ(殘民)は殘餘の民なり(昌明)恭武帝の名 分にて大夏天王を稱せり、勃々は故の匈奴なる劉裕の子なり、晉は南燕を伐てり、是れより以前に南燕の主なる慕容暍は死去し、兄の子なる超が立ち、晉の國端しを攻め取りたれば、劉裕の上表して征伐せり、却て北燕は其家來なる馮跋の爲めに亡ばされたり、是れより以前に北燕の主なる盛の其家來の爲めに殺され、叔父なる熙が立ちしが、跋の罪を熙に得て、とうとう熙を殺して、熙の養子なる高雲を立て、また何程もならず、又雲を殺して自立せり、魏なる珪は、或る夫を殺して其妻を取り、子なる淵を生ませたり、此淵は惡性にして、人に戻るあふれ、善にて反珪を殺したれば、齊王なる嗣、淵を殺して自立し、珪を道武帝と送り、名し、廟名を烈祖と云へり、却て晉の劉裕は、廣固を攻め、落し、慕容超を捕へ、建康に送り、切り、南燕は亡びたり、賊盧循は、劉裕が北の方を征伐せしに、付け込み、番禺より出で、直に下りて建康を不意打ちせり、此時劉裕は召されて、急に歸り、諸軍は力戦したれば、循はそこで退き、たれば、裕は追ひ打て破りしにより、循は交州に逃げ、刺史の爲めに破られ、首を切て建康に送り、又、秦の乞伏韓歸は、其家來の爲めに殺され、子なる熾盤を立てり、又西秦は南涼を亡ぼせり、是れより以前に南涼の主なる秃髮烏孤は、死去し、弟なる利鹿孤が立ち、又死去し、弟なる俟多彌を立てり、乞伏熾盤に不意打ちせられ、熾盤は捕へられて、歸り、破られ、南涼は亡びたり、又後秦の姚興は、死去し、子なる泓を立てり、晉の大尉なる劉裕は、泓を征伐し、彭城を出立し、洛陽より武關、潼關に道を取り、長安に入り、たれば、泓は敗れて、臨參し、せしゆ、建康に送りて、切り、後秦は亡びたり、夏主なる勃々の裕が、秦を伐つと聞き、却て裕は、乞度、關中を破るならん去れども、久しくは留まること出来ず、故に若し子弟や諸將を以て守らせば、我が攻め取るの易きは、落し、たる芥を拾ふ様なりと云へり、此時に至り、三秦の父兄や長老は、裕が歸らんとするを聞き、軍門に至り、涙を流し、却て我々、殘民が王者の教化を受け、さること今まで百年なるに、始めて中國の衣冠の人を見れば、人々は皆祝へり、然るに君には、今茲を捨て、何れに往んとせらる、やと云へり、然るに裕は、彭城に歸り、たれば、勃々は、又長安を攻め取り、帝を稱し、又統万に歸れり、却て晉は、裕を以て相國、宋公となし、九色の特許物を許せり、裕は、未來記に、昌明の後に、まだ二帝あると云ふにより、そこで王爾に云ひ、付け、晉帝を殺せさせたり、帝在位二十三年にて、改元するものは、二つ、隆安、義熙と云へり、義熙元年より十四年に至るまでは、劉裕が政事を取りし時代なり、却て弟なる瑯琊王が立つ、是れを恭皇帝と云へり

〔恭皇帝〕名德文。即位之明年。劉裕進爵爲宋王。自彭城移鎮壽陽。又明年裕還建康。帝在位改元者一。曰元熙。禪位于裕。己而被弒。東晉自元年。皇帝。至是凡十一世。一百四年。西晉東晉通。一百五十六年而亡。〔講義〕恭皇帝の名は德文と云ひ即位の明年に劉裕の位を進めて宋王となし彭城より鎮を壽陽に移せり又明年裕は建康に歸れり帝は在位中改元するもの一つにて元熙と云へり位を裕に讓り其後殺されたり却て東晉は元皇帝より茲に至るまで總て十一世にて一百四年なり西晉東晉を總計すれば一百五十六年にして亡びたり

南北朝〔字解〕(南北)是れも矢張り土地に付て起るの名とす然れども南を以て書き上げとするものは中國を尊ぶの意とす
 南朝自晉以傳之。宋傳之。齊傳之。梁傳之。陳傳之。北朝自諸國併於魏。魏後分爲西魏東魏。東魏傳北齊。西魏傳後周。後周併北齊而傳之。隋滅陳。然後南北混爲一。今以南爲提頭。而附北於其間。〔講義〕南朝とは晉よりして宋に傳へ宋は齊に傳へ齊は梁に傳へ梁は陳に傳ふるなり北朝とは諸國が魏に合せ取られしより魏は後に分れて西魏東魏となり東魏は北齊に傳へ西魏は後周に傳へ後周は北齊を合せ取りて隋に傳へ隋は陳を亡ぼし然る後に南北混合せして一となれり今南朝を以て書き上げとし北朝の事實は其記事中に附記せりさて此間は盜竊掠奪實に名狀すべからず故に又正統とするに足る者なく皆是れ逆臣賊子に外ならず然れども無茶にせよ帝と稱することゆへ統を立てざれば事を記すること能はず故に暫らく中國の讓りを受けたる南朝を正とせしなり然れども實を推して之を云へば戰國君なきの世と云ふも可なり

宋

〔宋高祖武皇帝〕姓劉氏名裕。彭城人也。相傳爲漢楚元王交之後。裕生而母死。父僞居京口。將棄之。從母救而乳之。及長。勇健有大志。僅識字。小字寄奴。嘗行遇大蛇。擊傷之。後至其所。見有群兒擣藥。裕問何爲。答曰。吾王爲劉寄奴所傷。裕曰。何不殺之。兒曰。寄奴王者不死。裕叱之。即

大臣に遺命を受け〔講義〕明皇帝の名を諷と云ひ即位より八年にて死去せり改元するものは一ツ泰始と云へり帝即位の初め幼君を輔佐するもの〔講義〕より蕭道成は兵を引連れて征伐し手柄ありたれば何程もなく淮陰を鎮め秦傑秀俊の士を引入れ置いたれば國々より來る客は始めて盛んなりし其後南兗州の刺史となり此時に至り褚淵の鷹揚により右衛將軍となり遺命を受けたる大臣と共に政事を司さるる太子が立ち是れを後廢帝と云へり

〔後廢帝〕名昱。明帝無子。昱實嬖人李道兒之子也。明帝子之。殺諸王十五六人。惟恐昱之不立。十歲即位。桂陽王休範舉兵反。攻建康。蕭道成擊斬之。道成爲中領軍。○先是魏獻文帝弘傳位於太子宏。自稱太上皇帝。以宏幼。仍總萬機。太上聰睿夙成。剛毅有斷。而好黃老浮屠之學。故常有遺世之意。其母馮太后有所幸。李奕爲太上所誅。馮太后怒。遂弑之。而稱制。○宋主驕恣嗜殺。中外憂惶。蕭道成與袁粲褚淵謀廢立。粲不可。淵贊之。遂弑之。在位六年。改元者一。曰元徽。安成王立。是爲順皇帝。〔字解〕（嬖人）賤しき者にて氣に入りたるを云ふ（聰睿夙成）明らかたごとく幼少より（講義）後廢帝の名は昱と云ふ明帝の成就したるを云ふ（剛毅）こはく根強きこと（稱制）天子の權を行ふこと（講義）帝は子なく昱は實は嬖人なる李道兒の子なり明帝は自分の子となし夫れより儲王を十五六人も殺せり是れは昱が天子となれぬかと心配し邪魔になりしなる者を殺せしなりさて昱は十歳にて位に即きしが桂陽王なる休範は兵を起して反し建康を攻めしに蕭道成は打て切り因て道成の中領軍となれり是れより以前に魏の獻文帝なる弘は位を太子なる宏に傳へ自分にて太上皇帝と云ひ宏が幼少なるゆへ矢張り魏の政事を總べ取れりさて太上帝は心明らかに敏く早くより徳性備はりたる人にて其上剛勇にして決斷力あり全体黃帝老子の道及び佛法を好み夫れゆへ帝に世を捨てての心あり其母なる馮太后は李奕とて氣に入りたる者ありしに太上帝の奕を殺したれば太后は立腹しどうどう太上帝を殺し自分は天子の權を取れりさて宋主は奮振り我儘にして人を殺すことを好みたれば中外の者は心附し恐れり因て蕭道成は袁粲褚淵と帝を廢するを相談せしに樂い承知せず淵は贊成したれば遂に帝を廢し夫れより又殺せり在位六年にて改元するものは一ツ元徽と云へり安成王が立ち是れを順皇帝と云ふ

〔順皇帝〕名準。桂陽王休範子也。明帝子之。至是即位。○宋袁粲謀誅蕭道成。褚淵以其謀告道成。粲父子俱被殺於石頭城。百姓哀之。曰可憐。石頭城寧爲袁粲死。不作褚淵生。沉攸之亦舉兵江陵。討道成。軍潰。走而縊死。道成爲相國齊公。加九錫。已而進爵爲王。宋主在位三年。改元者一。曰昇明。禪于齊。泣而彈指曰。願後身世世勿復生。天王家齊弑之。而滅其族。自宋高祖至是八世。凡五十九年而亡。〔字解〕（彈指）指をばしくことに

〔講義〕順皇帝の名は準と云ふ桂陽王なる休範の子なり明帝は子となし茲に至りて位に即きたりさて宋の袁粲は蕭道成を誅殺することを企てしに褚淵は其企てを道成に告げ知らせれば粲の父子と共に石頭城にて殺されたり因て百姓は是れを悲しむ歌を作り哀れなることなり石頭城のことはいつぞ袁粲となりて國の爲めに死すとも褚淵となりて國を奪ふの賊に媚びて生存はせぬなりと云へり時に沈攸之も亦兵を江陵に起して道成を征伐せしに軍が崩れ走りて縊死したりさて道成は相國齊公となり九色の特許物を許され又位を進めて王となれり宋主は在位三年にして改元するものは一ツ昇明と云ひ齊に譲り涙を流し指を彈きて痛み何卒我が後身は代々又と天王の家を生ることなき様に願ふなりと云へり齊は帝を殺して又一族をも亡ぼせり宋は高祖より茲に至るまで八世にして總て五十九年にして亡びたり

齊

〔齊太祖〕高皇帝。姓蕭氏。名道成。蘭陵人也。相傳爲漢相國何之後。深沈有。大量。博學。能文。肩有赤誌。如日月狀。宋時在軍中久。民間或言其有異相。宋疑之。而不能殺也。竟代宋。性清儉。每日使我治天下。十年當使黃金同土價。在位四年。殂。改元者一。曰建元。太子立。是爲世祖武皇帝。

〔字解〕 〔赤〕赤あざにて是れ等も例の飾なり〔黄金同土價〕何等の妄言ぞや潘夫云ふ此言葉を以て其生質の虚言者か實言者かを見るに足るなり是れが歴史を讀む人の目の附け處とす先づ此句を評すれば女房さかしくして牛を賣りてそのうと云はん
〔講義〕 齊の太祖高皇帝は姓は蕭氏にて名は道成と云ひ關陵の人なり世に前漢の相國なる蕭何の血筋也と傳へり生れ付きはんと云ふ宋の時に軍中にあると久しく民間にて中には赤あざの異なる人相あるを云ふ者ありたれば宋の難ひたれども殺すことば出来ざりし因てつまり宋に代りて帝となれり帝の性質は清素儉約にていつも我れに天下を治むること十年に及ばずなれば黄金の價と土の價へとを同様にするなりと云へりさて在位四年にして改元するものは一つ建元と云へり太子が立ち是れと世に武皇帝と云へり

〔武皇帝〕名蹟。即位十一年。改元者一。曰永明。太子長懋已卒。太孫立。是爲廢帝鬱林王。**〔字解〕** 〔武〕音さく〔懋〕音まう〔太孫〕孫が帝位を嗣ぐゆへとす
〔講義〕 武皇帝の名は蹟と云ひ位に即き十一年にして死去せり改元するものは一つ永明と云へり太子なる長懋は先きに死去したれば太孫が立ちたり是れを廢帝鬱林王と云へり

〔廢帝鬱林王〕名昭業。即位一年。改元曰隆昌。西昌侯鸞弒之。新安王立。是爲廢帝海陵王。**〔講義〕** 廢帝鬱林王は名を昭業と云ひ位に即き一年にて改元するものは一つ隆昌と云ふ西昌侯なる鸞が殺して追廢し新安王が立てり是れを廢帝海陵王と云へり

〔廢帝海陵王〕名昭文。爲鸞所立。改元延興。鸞自爲宣城王。帝即位未四月。廢而弒之。宣城王自立。是爲高宗明皇帝。**〔講義〕** 廢帝海陵王の名は昭文と云ひ鸞の爲めに立てられ延興と改元す鸞は自分で宣城王となれり帝は即位よりまた四月月ならず鸞は廢して殺せり宣城王が自立す是れを高宗明皇帝と云へり

〔明皇帝〕名鸞。高帝之兄子也。高帝愛之過於己子。而武帝之太子長懋最惡之。及得志。殺高武子孫。無遺類。即位五年。改元者二。曰建武。永泰。太子立。是爲廢帝東昏侯。**〔講義〕** 明皇帝の名は鸞と云ひ高帝の兄の子なるが高帝は鸞を寵愛する最惡之。及得志。殺高武子孫。無遺類。即位五年。改元者二。曰建武。永泰。太子立。是爲廢帝東昏侯。こと自分の子にも立ち超へたりとて武帝の太子なる長懋は

大ひに悪みたりさて帝は思ふ儘にふるに及び高帝武帝の子孫は皆殺して餘さざりし帝は即位より五年にて死去し改元するもの二つ建武永泰と云ふ太子が立ち是れを廢帝東昏侯と云へり

〔廢帝東昏侯〕名寶卷。自在東宮。不好學。嬉戲無度。既即位。不接朝士。惟親信嬖倖。屢誅大臣。○魏主宏。在位二十七年。仁孝恭儉。制禮作樂。蔚然有太平之風。禁胡服胡語。改姓元氏。遷都洛陽。爲魏盛德之主。諡曰孝文皇帝。廟號高祖。太子恪立。○齊主昏淫狂恣。所幸潘妃。以金爲蓮花。帖地上。使步之。曰。此步步生蓮花也。左右用事。賊虐日甚。太尉陳顯達。先舉兵。襲建康。敗死。將軍崔慧景。受命出討。叛州。還兵逼建康。時南豫州刺史蕭懿。將兵在近。齊主急召入。援慧景。敗死。以懿爲尙書。懿弟南雍州刺史衍。使人勸懿。行伊霍故事。不爾。亟還。歷陽。懿不能用。竟賜死。衍起兵。襄陽。引而東。圍建康。齊人弒主。而迎衍。主在位三年。改元者一。曰永元。時南康王先己自立。是爲和皇帝。**〔字解〕** 〔廢〕氣に入りの小人を云ふこと〔昏〕下を害ひ苦しめるを云ふ〔伊霍〕廢帝東昏侯の名は寶卷と云ふ東宮に居りしより學問を好まず遊ひ戯れる伊尹霍光にて共に帝を廢せしもの
〔講義〕 こと常にきまらなくさて位に即きしより朝廷の士大夫に接見せず只氣に入りの小人を親しみ信用し度々大臣を殺せり技に魏主なる宏は死去し在位は二十七年なり主は天性悪み深く親に孝行にして又謙み深く儉約なり禮法を定め音樂を作り盛んして太平の標子あり又夷の衣服服飾を用ゆるを禁止し姓を改めて元氏と云ひ都を洛陽に移せり賊に魏の中にてハ盛徳なる主なるを以て孝文皇帝と諡名し廟を高祖と云へり太子なる恪が相續せりさて齊主は心暗らく行みだらにして其上くるはしく我儘なり又善りを好み金にて蓮の花を作り地上に並べ敷き氣に入りの潘妃に其上を歩行させ美人

は歩む毎に蓮花が生ずると云ひ戯れり。さて此時左右に居る小人が政事をなして下を害し苦しめること日々に甚しくなりたれば大尉なる陳顯達は先づ軍を起して建康を不意打ちして敗れ死したり。又將軍なる崔慧景は命を受けて叛ける州郡を征伐に往きしが兵を引返して建康に迫れり。時に南豫州の刺史なる蕭懿は兵を引連れて近地にありしゆへ齊主の急に懿を召して受けさせれば懿は敗れ死したり。因て懿を尙書となしたり。此時懿の弟なる南雍州の刺史の衍ハ人をも以て兄懿に勸めて帝を廢せよ。若し帝を廢せざれば早く隱陽に歸れと云ひしが懿は其勸めを用ゆること出来ず。つまり死を賜へり。因て弟なる衍は兵を襄陽にて起し軍を引て東に進み建康を圍みたれば齊人は帝を殺して衍を迎へり。主は在位三年にて改元するものは一つ永元と云へり。時南康王が先きに已に自立せり。是れを和皇帝と云へり。

〔和皇帝〕名寶融。東昏末。寶融起兵於江陵。己而稱帝。改元曰中興。未及東歸。齊太后稱制。以蕭衍爲相國。封梁公。加九錫。尋進爵爲王。齊主至姑孰。詔禪于梁。卽位僅一年。被弑。齊自高帝至是七世。凡二十三年而亡。〔字解〕（歸東）建康に歸ること〔講義〕和皇帝の名は寶融と云ひ東昏侯の末年に寶融は兵を江陵に起し夫れより帝と稱し改元して中興と云へり然るにまた建康に歸るに及ばざりしが太后は建康にて天子の事を行ひ蕭衍を相國となし梁公に封し九色の特許物を許し又位を進めて王となせり。さて齊王の姑孰まで至り詔して梁に位を讓れり卽位より僅かに一年にして殺さる齊の高帝より茲に至るまで七世。建元二十三年にて亡びたり。

梁

〔梁高祖武皇帝〕姓蕭氏。名衍。齊之疎族也。母張氏。見菖蒲生花。旁人皆不見。吞之。己而生。衍英達有文學。東昏初。衍鎮襄陽。知齊將亂。乃密修武備。聚驍勇以萬數。伐材沈檀。溪積芣如岡阜。兄懿死。衍建牙集衆。出檀溪。竹木裝艦。葺之以芣。事皆立辨。兵起一年餘。遂入建康。受禪卽帝位。

○魏主恪殂。諡曰宣武皇帝。廟號世祖。子詡立。甫六歲。母胡氏稱制。及魏主既長。好遊。不親視朝。而胡后方淫亂。魏政始亂。將軍張彝之子仲瑀。上封事。排抑武人。喧謗盈路。立榜大巷。尅期會集。屠其家。彝父子不以爲意。至是。羽林虎賁近千人相率至。尙書省詬罵。以瓦石擊省門。上下懾懼。不敢禁討。遂至彝第。焚其舍。曳彝父子。歐擊投火中。仲瑀重傷走免。彝死。遠近震駭。胡后收其凶強八人。斬之。餘不復治。大赦以安之。懷朔鎮。函使高歡。至洛陽。見張彝之死。還家。傾貲以結客。或問其故。歡曰。宿衛相率焚大臣之第。朝廷懼而不問。爲政如此。事可知矣。財物豈可常守邪。歡自先世坐法徙北邊。遂習鮮卑之俗。沈深有。大志。與侯景等相友善。以任俠雄鄉里。○魏胡太后臨朝以來。嬖倖用事。政事縱弛。盜賊蠭起。封疆日蹙。魏主詡。長。太后自知所爲不謹。務爲雍蔽。母子嫌隙日深。時六州大都督秀容。晉長爾朱榮。兵強。高歡見榮。卽勸舉兵。清帝側會魏主。胡太后鳩之也。後諡曰孝明皇帝。爾朱榮舉兵。立孝文之姪長樂王子攸。沈胡后于河。封榮太原王。還晉陽。北海王顥奔梁。梁立之。遣將送入洛陽。子攸出奔。爾朱榮渡河來救。顥走死。子攸

歸加榮天柱大將軍榮蓄不臣之志魏主陰謀誅榮榮入手刺之爾朱世隆與爾朱兆立宗室長廣王暉入洛陽子攸遇弒後諡曰孝莊皇帝世隆又以暉疎遠廢之立孝文之姪廣陵王恭高歡起兵誅爾朱氏入洛陽廢恭而立孝文之孫平陽王脩脩弒恭後諡曰節閔皇帝高歡爲太丞相建府於晉陽居之魏主畏歡謀伐晉陽歡擁兵來魏主奔長安依關西大都督宇文泰以泰爲大丞相歡追魏主不及遂立清河王世子善見於洛陽遷于鄴魏自道武至是十二世一百四十九年而分爲東魏西魏〔字解〕 〔牙〕大將の旗なり遊騎遊獵して山野を馳せること羽林虎賁共に天子の親兵なり〔西使〕書表を〔西魏〕なり〔東魏〕なり〔講義〕 梁の高祖武帝の姓は蕭氏にて名は衍と云ひ齊の遠き一族なり衍の母は張氏にて苻蒲州が安西魏なり〔郡〕東魏なり花を生ずるを見るに片側の人は皆知らざるゆへ其花を呑み込みたるに其後問もなく衍を生みたると云ふ全体支那人は根のたま蕭氏と云ふ者にて蕭の卵を呑むとか花の呑むとか實に取るに足らぬことのみなり又一等動物なる人を云ふに龍頭と牛首とか蛇身と燕領とか虎頭とか左も大増らしく云ふが一等動物が他の下等動物に似れば乃ち下なるなり或る人が他の動物に似ればすべし他の動物が人に似れば妖怪なりと云ひしが是れ何如の道理あるや笑ふべきことなり扱て衍は英で才智たけ其上に學問あり東晉侯の初年に衍は襄陽を鎮め齊の亂れんとするを知りそこで内々武備をなし猛けく勇氣ある者を集め其數は万を以て數へる程なり扱て又材木を伐りて積溪に沈め茅艸を積み立てること大岡の櫟なり彼の兄なる懿が殺されたるとき衍は大將の旗を立て兵を集めしとき積溪に沈めたる竹や木を取り出して軍糧を修め作り屋根をまくには茅艸を以てし皆事は立ち處に調へり扱て兵を起せしより一年餘にてとうとう建康に入り驪りを受けて帝位に上れり扱て魏主なる恪は死去せり送りを好みて朝政を聞くことを自分にてせし又胡后も大に淫亂なれば魏の政治は始めて亂れたり時に將軍なる張彊の子なる仲瑀が封書建白を奉り武人を押しつけ押へんと云へり武人が怒りて惡口することは道路に踏ち扱立札を大通りに立て時を定めて集會

し張氏の家を皆殺しにせんと言ふしに張父子は心に掛けざりしに扱て其定めたる時に至り羽林と虎賁との武人か千人計り相引を連れて尙書省に至り惡口雜言して瓦や石を以て省の門を打ちたれば上も下もおぢ恐れ押して禁止討伐することなかりし夫れより又魏が屋敷に至り火を掛けて家を燒き魏父子を引ずりて打ち叩き遂に火の中に投げ入れしに子なる仲瑀は重き手を負ひながら逃げのび死したる近きも近きも魏の胡太后は朝に臨み政を開きしより以前氣に入りの侯人が政事を取り政事は弛みてきまらなくなり盜賊は蜂の様に亂れ起り領地は日々にせまくなり時に魏主なる朝は段々生長せしかば太后は自分にて爲す所の事かよからざるを知りたれば成るべく贈の事を隠しければ母と子の不中は日々に深くなりた此時六州の大郡皆なる秀容の酋長の姓は爾朱の名は榮と云ふ者は部下の兵が強く盛なれば魏は難に而會し兵を起して帝の左右なる侯人を打ち清めるを勤めり丁度魏主の死去に逢へり是れ胡太后が毒害せしなり後には遠く名して孝明皇帝と云へり扱て爾朱榮は兵を起して孝文帝の姪なる長樂王の子攸を立て胡太后を河に沈めたり因て榮を太原王に封せり扱て榮は晉陽に歸りたれば北海王なる顓が梁に出奔したれば梁は頤を立て大將をやり頤を洛陽に入れれば子攸は出奔せり因て榮は河を渡りて授ひに來りしにより顓は逃げて死し子攸は都に歸れり因て榮を天柱大將軍とせり榮は謀反の心を持ちたれば魏主は内々榮を殺さんと企てたり扱て榮は宮に入りたれば魏主は自分にて榮を刺し殺せり因て爾朱世隆は爾朱兆と共に魏の一族なる長廣王の暉を立て洛陽に入り子攸は殺されたり後には送り名して孝莊皇帝と云へり世隆は又暉は遠き血筋ゆへ廢して孝文帝の姪なる廣陵王の恭を立てたり此時高歡は兵を起して爾朱氏を征伐し洛陽に攻め入り恭を廢し孝文帝の孫なる平陽王の脩を立てたり脩は恭を殺し後には送り名して節閔皇帝と云へり高歡は大丞相となり府を晉陽に立て居れり魏主は歡を恐れ晉陽を去んと企てしに歡は兵を持ち抱へて來りたれば魏主は長安に出奔し關西の大郡皆なる宇文泰により泰を以て大丞相となせり歡は魏主を追ひ打ちたれども間に合はずと云ふ清河王の世子なる善見を洛陽に立て又鄴に引移れり魏は道武帝より茲に至るまで十二世

○先是熒惑入南斗梁主曰熒惑入南斗天子下殿走乃跳下殿禳之及聞脩出奔慙曰虜亦應天象邪脩至長安踰半年又與泰有隙泰鳩之後諡曰孝武皇帝孝武既遇弒泰立

南陽王寶炬。歡與泰連年相攻戰。互有勝負。歡卒。遺言囑其子澄曰。侯景有飛揚跋扈之志。非汝所能御。堪敵景者。惟慕容紹宗。景果以河南降西魏。未幾復附于梁。梁封景為河南王。景使至梁。梁群臣皆不欲納。梁主亦自謂我國家如金甌。無一傷缺。恐納景。因以生事。惟朱异力勸納之。東魏遣慕容紹宗擊景。景敗南走。襲梁壽春。據之。請命。梁就以為南豫州牧。既而東魏求成於梁。意欲得景。景恨梁通東魏。遂反於壽陽。引兵南渡。圍建康。梁主自即位以來。江左久無事。惟崇佛法。屢捨身。佛寺上下化之。及景逼臺城。援兵至者。為景所敗。梁主遣人與景盟。以為大丞相。臺城受圍五月。而陷。景入見。引就三公位。梁主神色不變。謂景曰。卿在軍中久。毋乃為勞乎。景不敢仰視。流汗不能對。景退。謂人曰。吾常跨鞍對陣。矢石交下。了無怖心。今見蕭公使人自懼。豈非天威難犯。吾不可以復見此人。梁主為景所制。飲膳亦被裁損。憂憤成疾。口苦索蜜。不得。再曰。荷荷。遂殂。在位四十八年。改元者七日。曰天監。普通。大通。中大通。大同。中。大同。太清。壽八十六。先是太子統。仁明孝儉。好學。有文。在東宮三十年。而終。梁主舍嫡孫而立別子。至是即位。是為太宗簡文皇帝。

帝(字解)

(英惑)妖惡星と云ふ(南斗)南極星(既)はだし(禍之)まじないするを云ふ(跋扈)魚を取るえりにて大ひなる魚は

帝(字解)りて飛び出ることあり乃ち跋扈と云ふ乃ち我儘にて君の手に合はぬものを云ふ(金甌)金の甌にて疵なきを云ふ(異)音(捨身)帝佛寺に入り法衣を着く群臣一億万錢を以て帝の身を償ひ歸すなり(丁)遂にたり(荷々)阿々と同じ責め怒る聲なり(捕孫)嫡子の子(講義)是れより以前に英惑と云ふ星が南極星の處へ入りたれば梁主は英惑が南斗に入るの天子が股を下り(別子)妾腹なり

て逃げ走るの兆しなりと云ひそこで自分がいだしになりて股を下り其災を拂ひしに其後魏の情が由り奔せし事を聞くに及び心に慚ぢて扱てい夷でも天の星象に應ずるかと云へり扱て脩は長安に至り牛年を越て又宇文泰と不仲になり泰の脩を毒害し後に孝武帝と送名せりさて孝武帝は已に殺され泰は南陽王なる寶炬を立てたりさて歡は泰と年々相攻戦し互に勝負ありしが歡は死去するに臨み遺言して其子なる澄に云ひ付けさて侯景は飛び上り人の自由にならぬ心立てあるは其方が能く沿め使ふ所にわらず只景に敵對出来る者は慕容紹宗なりと云へり其後景は果して河南の地を持って西魏に降参しまた何程もなく又梁に従へり因て梁は景を封じて河南王となせり初め景の使者が梁に至りたるも梁の群臣は皆降参を聞き入れざるを好まず梁主も亦自分で我が國家は金の甌の無疵なる様なれば景の降参を承知すれば夫れより事の起るを恐ると云ひしに只獨り朱异の勉めて降参を許すを勧めたりさて東魏は慕容紹宗をやりて景を打たせれば景は破れて南に走り梁の壽春を不意打して茲に捕羅り封爵の命を乞ひたれば梁は因て南豫州の牧となせり其後東魏の和睦を梁に求めしが其心は景を受取るを願ふなりさて景は東魏と交通するを怨みと云う時陽にて謀反し兵を引て南の方江を渡りて建康を取登きたり梁主は位に即きしより此方江東は久し無事なれば只佛法を尊び信じて度々身を捨て佛寺に施したるが上も下も此風に移れりさて景が臺城に迫るに及び援兵の來る者は皆景の爲めに破られたれば梁主の使者をやりて景を盟ひ景を大丞相となしたり臺城の圍まること五ヶ月にて落ちたれば景は入て而謁せしければ引て三公の座位に居らせたりさて梁主は精神顔色は少しも替らず景に向ひ其方は軍中にあること久しければさぞ苦勞せしならんと云へり此時景は顔を上げて見ること出來ず汗を流して返答すること能はざりし景は退て人に向ひ我れは常に馬鞍に跨がり敵陣に對し矢や石が交はり飛び來るも遂に恐るゝ心なきに今度蕭公に見謁せしに自然と恐るゝ心を起せり是れ何にて天子の威光は犯せぬと云ふものにあらずや我れは再び此様なる人に面會すること出來ずと云へりさて梁主は景の爲めに押へ定められ飲食まで減少せられ愁ひ憤りて病氣となり口が苦きゆへ蜂蜜を求めたるも得ることなし再び呵々と云ひつゝ死せり在位は四十八年にて改元するものは七つ天監普通大通中大通と大同と中大同と太清と云へり壽は八十六なり是れより以前に太子なる統の悪く深く孝行にて心明らかけに儉約の徳あり又學問を好み文事ありて東宮に居ること三十年にて死去したれば梁主の其孫を捨て妾腹の子を立てしが此時に至りて位に即きたり是れを太宗簡文皇帝と云へり

簡文皇帝名綱。在東宮十八年。而後遇侯景之亂。既立。受制於景而已。

湘東王繹鎮江陵。自稱假黃鉞大都督中外諸軍承制。岳陽王譽昭明太子統之第三子也。鎮襄陽。與繹相攻。譽遣使降于西魏。以求援。○東魏大將軍渤海王澄。先是為其下所殺。弟洋為丞相。封齊王。逼東魏主禪位。尋弒之。諡曰孝靜皇帝。東魏建國一十七年而亡。○西魏立梁蕭譽為梁王。○西魏主寶炬殂。諡曰文皇帝。太子欽立。○侯景自立為漢王。廢梁主弒之。尸位不及三年。改元者一。曰大寶。景立豫章王棟。己而篡位。先是始興太守陳霸先起兵討景。湘東王遣王僧辨討景。景篡數月而為僧辨霸先所敗。亡走吳。欲入海。為其下所斬。送尸建康。傳首江陵。截其手足。送於北齊。湘東王立。是為元皇帝。〔字解〕

（是）音さつ（禪位）明れを北齊に是れは神を祭るとき神の代りになりて神座に坐するを尸と云ふ乃ち梁主は位ありて實權なきゆへ斯く云ふなり（其下）羊賜と云ふ者（建康）梁の都（江陵）湘東王の處（北齊）景は初め東魏に叛けりて北齊は東魏の讎りを受け帝となる故なりとす〔講義〕景の乱に達ひ已に位に即きしが總て景に押へ定めらるる計り也此時湘東王なるは江陵の地を鎮め自分にて假黃鉞大都督中外諸軍事承制と稱せり岳陽王なるは昭明太子なる統の第三子にて遼陽の地を鎮めしが總て相攻め合ひ晉の使者をやりて西魏に降参して援軍を求めたりとて東魏の大將軍なる渤海王の澄は是れより以前に家來の爲めに殺され其弟なる洋は丞相となり齊王に封じられ送らるるに追りて位を讓らせ何程もなく殺せり送ら名して孝靜皇帝と云ふ東魏は國を立つるも十七年にして亡びたり西魏は梁の蕭譽を立てて梁王となせり西魏の主なる寶炬は死去し送り名して文皇帝と云ふ太子の欽が立てりて侯景は自立して漢王となり梁主を廢して殺せり位に在ること三年に及はず改元するものは一つにて大寶と云へり景は豫章王なる棟を立て其後ち位を奪へり是れより以前始興の太守なる陳霸先は兵を起して景を伐ち又湘東王も王僧辨をやりて景を伐たせり景は位を奪ひ數月にして僧辨霸先に破られ逃げて吳に走り海に入らんとせし

に其下の者に切られ死骸は建康に送り首は江陵に傳へ手と足を切り北齊に送り湘東王は立ち是れを元皇帝と云へり

〔元皇帝〕名繹。一目眇。性殘忍。卽位于江陵。自侯景之亂。州郡大半入西魏。蜀亦爲魏有。梁自巴陵以下。至建康。以長江爲限。○突厥攻柔然。北齊擊突厥。遷柔然。是時柔然衰。突厥始強大。○西魏宇文泰廢其主欽。而立其弟廓。欽遇弒。○西魏遣柱國于謹伐梁。入江陵。梁主焚古今圖書十四萬卷。以寶劍擊柱。折之。歎曰。文武之道。今夜盡矣。乃出降。或問何意。焚書曰。讀書萬卷。猶有今日。尋被殺。在位三年。改元者一。曰承聖。○西魏取襄陽。徙梁王譽于江陵。使稱帝。屯兵守之。是爲後梁。臣于西魏。王僧辨。陳霸先。奉晉安王。稱制于建康。貞陽侯淵明。先是爲北齊所獲。至是以兵納之。王僧辨奉歸建康。稱帝。陳霸先殺僧辨。廢淵明。立晉安王。是爲敬皇帝。〔字解〕

（眇）目の小なること（殘忍）殘は害ふなり忍は人の出來ぬむごきふとをすることを云ふ（柱國）官名にて或は大柱とか上柱國とか云ひ國の柱ともなるの意なり（文武之道）寶劍を折ることあり故に書と劍とを合せ文武と云ふなり〔講義〕元皇帝の名は繹と云ひ一目小なり其生質は殘忍なりとて江陵にて卽位せり梁は侯景の乱より長江を以て界となせり時に突厥は柔然を攻めたれば北齊は突厥を打ち柔然を移せり此時柔然は衰へ突厥は始めて強大になりたり西魏の宇文泰は其主なる欽を廢して其弟廓を立て欽は殺されたり西魏は柱國なる于謹をやりて梁を伐ち江陵に入りたり梁主は古今の圖書萬卷を燒き寶劍を折り歎息し文武の道は今夜に盡き果てたりと云ひよこて降参せり或る人は如何なる心にて書物を燒きたるやと問へば梁主は書物を讀むこと万巻に餘るも矢張り今日の如く力窮り降参するの場合あるゆへと答へり其後何程もなく殺さるる在位三年にて改元するものは一つ承聖と云へり西魏は襄陽を取りて梁王譽を江陵に移し帝と稱へさせ

たり因て兵を出して江陵を守れり是れを後梁と云へり嘗て西魏の家来となれり此時王僧辨陳霸先ハ晋安王を守り立て建康にて帝
 のことを行へり然るに貞陽侯なる淵明は是れより以前に北齊に生取られしか此時に至り北齊は兵力を以て送り入れたれば王僧辨
 は守り立て、建康に歸り帝と稱せり然るに淵明は僧辨を殺し淵明を廢して晋安王を立てたり是れを敬皇帝と云へり

〔敬皇帝〕名方智。元帝子也。年十三卽位。陳霸先爲丞相。○西魏太師大
 冢宰安定公宇文泰卒。世子覺嗣。年十五。宇文護輔之。未幾以覺爲周
 公。○西魏主廓禪于周。廓遇弒。後諡曰恭皇帝。西魏建國四世。二十四
 年而亡。覺稱周天王。性剛果。惡護之專護。弒之。後諡曰孝閔皇帝。立泰
 之長子毓。○梁丞相陳霸先爲相國。封陳公。加九錫。尋進爵爲王。梁主
 改元者二。曰紹泰。曰太平。尸位未三年而禪于陳。尋遇弒。梁自高祖武
 帝至。是四世。凡五十六年而亡。〔字解〕(大冢宰)冢は大なり宰は支配〔講義〕敬皇帝の名は方智

陳

〔陳高祖武皇帝〕姓陳。名霸先。吳興人也。梁武帝大同中。爲廣州參軍。廣
 有亂。討平之。以功爲將軍。尋爲交州司馬。西江都護。高要太守。督七郡

諸軍。屢平寇亂。侯景陷臺城。霸先時守始興。結郡中豪傑。起兵討景。先
 取江州。爲州刺史。引兵會諸軍。卒以平景。遂爲將相於梁。以至受禪。卽
 位三年。殂。改元者一。曰永定。子二人。昌。頊。皆以江陵陷時。沒入長安。臨
 川王立。是爲世祖文皇帝。〔講義〕(頊)音きよく(没入)長安(西魏の都に生取られしこと)〔講義〕陳の

武帝は姓ハ陳にて名ハ霸先と云ふ吳興の人なり梁の武帝の大同年中に廣州の參軍となりしハ廣州に亂ありしを打ち平けたる手
 稱にて將軍となり尋て交州の司馬西江の都護高安の太守となり七郡の諸軍を都督し度々寇や亂れを平らけ又侯景が臺城を攻め落
 したる時霸先は始興を守り居たれば郡中の豪傑と心を結び兵を起して景を討ち先づ江州を取り州の刺史となり兵を引き諸軍を
 會して遂に景を平らけ夫れより梁の大將大臣となり帝位の讓りを受け位に卽ぎ三年にて死去し改元するものハ一つにて永定と云
 へり子二人の昌と頊とハ昔江陵の攻め落ちしとき長安に連れ歸られたれば臨川王か立てり是れを世祖文皇帝と云へり

〔文皇帝〕名蒨。武帝之兄子也。在武帝平梁亂時。已有功。至是卽位。○周
 王毓稱帝。○北齊主洋盡滅元氏之族。洋殂。諡曰文宣皇帝。○周宇文
 護憚。周帝明敏有識量。進毒弒之。諡曰明皇帝。毓弟邕立。○北齊文宣
 帝之母弟常山王演。廢其主殷而自立。尋弒殷。演立一年而殂。諡曰孝
 昭皇帝。母弟長廣王湛。又廢演子百年而自立。後殺百年。○後梁主營
 殂。太子歸立。○北齊主湛傳位於太子緯。自稱太上皇帝。○陳主起自
 難。知民疾苦。性明察儉勤。在位八年。殂。改元者二。曰天喜。曰大康。太
 子立。是爲廢帝。臨海王。〔字解〕(蒨)音せん(元氏)魏の〔講義〕文皇帝の名は蒨と云ふ武帝の兄なる

才能舉朝莫及。將帥微有過失。即奪兵權。由是文武解體。以至覆滅。○
 後梁主歸祖。太子琮立。隋主廢而滅之。自譽稱帝於江陵。臣於西魏。周
 隋所統數郡而已。凡三十三年而亡。○隋以晉王廣為元帥。帥師伐陳。
 楊素。韓擒虎。賀若弼。分道而出。高穎為元帥。長史問薛道衡。江東可克
 乎。對曰。克之。郭璞言江東分王三百年。與中國合。此數將周。陳主聞有
 隋兵。請近臣曰。王氣在此。彼何為者。孔範曰。長江天塹。豈能飛渡。臣每
 思官卑。虜若渡江。定作大尉公矣。陳主以為然。奏伎縱酒。賦詩不輟。賀
 若弼自廣漢濟江。韓擒虎自橫江。齊采石。守者皆醉。擒虎遂自新林
 進。直入朱雀門。陳主自投景陽井中。軍人窺井。將下石。乃叫以繩引之。
 與張麗華。孔貴嬪同東而上。俘以歸。後主在位七年。改元者二。曰至德。
 曰禎明。陳自高祖武帝至。是五世。凡二十二年而亡。○字解（廢事）太子付の役
人（連延）廣さのこ

（沈攸）沈水帝と稱香とにて名木とす（瓊）珍奇美麗とす（并）草なり（覆道）二重の道なり（狎客）親しき家來（唱和）歌ひたり（六）
 けに付けたりするを云ふ（維精）我儘なること（解休）心の解け君に離れるを云ふ（此數將周）東晉の元帝の南渡より茲に至るまで凡そ
 二百七十餘年なれば三百の年數も早やあまねく滿たんとすと云ふ（王氣）古（楚）の城王が帝王の氣ありとて金を埋めしより金陵
 と云ふなり（定）作太尉公矣（賊）を打つ手柄（講義）けの酒宴をなして位に即てまだ何程もなく隨春綺望仙の三閣を作れり高
 にて定めて太尉に出世するなりんの意（講義）けの酒宴をなして位に即てまだ何程もなく隨春綺望仙の三閣を作れり高
 さは各五六十丈にて五六十間に續きたり此閣は皆沈水梅檀の名木にて作り金や玉や水より出る玉や翠鳥の羽にて飾りなれり又珠
 にて飾る簾や寶にて飾る垂れ結を設け衣服器物に至るまで珍奇美麗を極め其奇りは近世にまだなき所なり又閣の下には石を積み

て山をなし水を引て池をなし其間に其ある草木を交へ植へたりさて陳主は隨春閣に居り貴妃なる張麗華は綺綺閣に居り陳氏孔氏
 の二貴嬪は望仙閣に居り閣と閣との間には二重道を作りて往來せり此時江都の大巨となり陳主は政事を自分にてせず日々孔範な
 ど詩文の上手なる者と後宮にて酒宴せり孔範才を狎客と呼びたりさて諸貴嬪に狎客と歌を唱へ付け合はせさせたり其歌の曲名
 を玉樹とか後庭苑とか云ふものあり君も臣も酣醉歌舞し夕方より朝に至りたればさて宦者や近習の内と外とより心を合せて自由
 をなし皇族外戚は我儘をなし賄賂公然と行はれたり又孔範は貴嬪と兄弟の約を結へりさて孔範は自分に文武の才能は諸官の
 中にて我れに及ぶ者なしと思ひ大將なると少しの過失われれば直ちに兵權を取り上げたれは是れより文官武官とも心か離れ離れ
 になり陳は亡ぶるに至れりさて後梁主なる歸は死去し太子なる琮が立ちしか隋主は廢して亡ぼしたり晉か江陵にて帝と稱せしよ
 り西魏と周と隋とに臣となり治むる所の數郡の土地計りなり總て三十三年にて亡べり隋は晉王なる廣を以て元帥となし軍を引連
 れて陳を征伐し楊素や韓擒虎や賀若弼は道を分つて出て高穎の元帥付きの長史役となりしか薛道衡に向ひさて江東なる陳に勝つ
 こと出来るかと問へば道衡は勝つなり昔し郭璞と云ふ豫言者か江東は分れて王となること三百年にして中國と合併するなりと云
 ひしか其三百年の數は最早滿たんとすと云ふゆへなりと答へりさて陳主は隋の兵か出てたると聞き近臣に向ひ王氣は此處にあるに彼
 れは如何なることをする者ぞやと云へば孔範は此處の大江の天然の堀りなれば何とて能く飛ひ渡ること出来んや私ひいつも彼の
 卑きを心配せしむ若し夷が江を渡り來らば打てて手柄を立て定めて太尉公に出世するならんと云へば陳主は如何にも其通りと
 思ひ矢張り女樂をなし酒を飲み詩を作ることは止まざりし此時賀若弼は廣漢より江を渡り韓擒虎は橫江より夜中に采石に渡りた
 るに守りの兵は皆酔ひ居たり擒虎は夫れより新林より進みて直ぐに朱雀門に入りたれば陳主は自分にて景陽の井戸の中に入りた
 れば軍士は井戸をのぞき上より石を落さんとせしに陳主は叫びに聲を上げしゆへ繩を下して引上りしに陳主は張麗華と孔貴嬪
 と三人一所に括りて上りり因て捕へて連れ歸れり後主は在位七年にて改元するものは二つ至徳禎明と云へり陳の高祖武帝より茲
 に至るまで五世にて總て二十二年にて亡びたりさて江東の六朝と云ふことあり是れは三國の吳と東晉と南朝なる宋齊梁陳の四と
 を合せて云ひ昔金陵に都せり

隋

隋高祖文皇帝姓楊氏名堅弘農人也相傳為東漢大尉震之後及忠
 仕魏及周以功封隋公堅襲爵堅生而有異宅旁有尼寺一尼抱歸自
 鞠之一日尼出付其母自抱角出鱗起母大驚墜之地尼心動亟還見

之日驚我兒致令晚得天下及長相表奇異周人嘗告武帝普六茹堅有反相堅聞之深自晦匿女爲周宣帝后周靜帝立堅以太后父秉政遂移周祚卽位九年平陳天下爲一開皇二十年廢太子勇爲庶人初帝使勇參決政事時有損益勇性寬厚率意無矯飾帝性節儉勇服用侈恩寵始衰勇多內寵妃無寵死而多庶子獨孤皇后深惡之晉王廣彌自矯飾爲奪嫡計后贊帝廢勇而立廣爲太子○龍門王通詣闕獻太平十二策帝不能用罷歸教授於河汾之間弟子自遠至者甚衆○仁壽四年帝不豫召太子入居殿中太子預擬帝不諱後事爲書問僕射楊素得報宮人誤送帝所帝覽之大悲帝所寵陳夫人出更衣爲太子所逼拒之得免帝怪其神色有異問故夫人泣然曰太子無禮帝悲抵牾曰畜生何足付大事獨狐誤我將召故太子勇廣聞之令右庶子張衡入侍疾因弑帝遣人縊殺勇帝性嚴重勤於政事令行禁止雖畜於財賞功不吝愛養百姓勸課農桑輕徭薄賦自奉儉薄天下化之受禪之初民戶不滿四百萬末年踰八百萬然自以詐力得天下猜忌苛察信受讒言功臣故舊無終始保全者在位二十四年改元者二曰開

皇仁壽太子立是爲煬皇帝(字解) (有異紫色の氣か庭に滿つと云ふ是れも虛飾(鞠)發なり(心動)するよとに非ず(奇異)内角とて額に高き肉あると云ふ(普六茹)楊堅の別姓なり(晦匿)才能をかくすこと(卒意)心のまゝを行ふこと(獨孤)二字姓(河汾)黃河汾水(不諱後事)不諱は死のこととて帝の死後の處分のことと云ふ(畜生)俗に人を罵る言葉と同じ(誤我)皇后先きに我を勸めて太子勇を廢し廣を立てしと云ふ(音)音よく惜ひなり(後)賦役(風)雜稅(猜忌)猜音さひ疑ひ深くと忌み嫌ふなり(奇察) (字解) 隋の高祖文帝の姓は楊氏にて名は堅と云ひ弘農の人なり世に東漢の大尉なる楊震の後たりとむとく邪推するよと (字解) 云ひ傳へり父なる忠は魏及び周に仕へ手柄ありて隋公に封せられ堅は位を續きたりして堅か生れしとき奇異なるよとわり國て案の近邊に一つの尼寺ありて其尼か抱き歸りて自分にて養ひしか或る日尼が出つるとき其母に預けて抱かせたるにやがて堅の額より角かはへ身に鱗か逆立ちたれば母は大ひに驚きて地に落としたり此時尼は胸さばぎして直ぐに歸り來り其様子を見てさて我が兒を驚かし天下を取ること運かせたりと云へりと潛夫か筆は斯ることを書するを好まされども謀議なれは是非もなしさて堅は生長するに及び人相奇異なり周の王軌は或る時武帝に告げ普六茹堅は謀反の相ありと云へり因て堅は此本を聞くより深く自分の才能を隠せりさて堅の娘は周の宣帝の皇后となり其後周の靜帝か立ちたれば堅は太后の父なるゆへ政事を取りとらうと周の帝位を取り在位より九年目に陳を平らけ天下は一となれりさて開皇の二十二年に太子なる勇を廢し庶人とせり初め帝は勇に政事を委せしに益する所ありたり勇は生れ付き心廣く手厚くして心のまゝを行ひ上はへ虚飾することなかりしさて帝は生質儉約なるに勇は衣服服用は皆奢れり是れにより恩意を始めて養へたり又勇は氣に入りて女多く妃の寵愛なくして死し妾腹の子多かりしさて獨孤皇后は深く勇を惡みたれば晉王なる廣彌よ自分にて上へを飾り太子の位を擧げりするの計とをなしなれば皇后は帝の意を察成して勇を廢し廣を立て太子となしたり茲に龍門の王通と云ふ者か宮城に至り太子に來り學を受け者多かりしさて仁壽四年に帝は病氣なるゆへ太子を召して宮中に居らせたるに太子ハ兼てより帝の死後の處分方を仕度し晝面に認め儀射なる楊素に相談せしに其返事ありしに宮女は取り違へて帝の所に送られたれば帝ハ見て大ひに立腹せり父帝の氣に入りて陳夫人と云ふか衣服を改める爲め外に出てしに太子に捕へられ恚通せらるゝ處無理にこぼみてやつと逆れ歸りたれば帝は陳夫人の精神顔色の常ならぬを不審に思ひ其罪をしひたれば夫人は涙を流し太子が無禮なることをせしなりと云へば帝は大ひに立腹し陳夫人を叩き畜生何とて天下の大事を委任するに足らんや獨孤皇后は斯る者を勸めて太子となし我れに失策させたりと云ひ元の太子なる勇を召さんせしに廣は此事を聞き右庶子と云ふ役の張衡と云ふ者に入て帝の側らに侍坐させ遂に帝を殺させ又人をやりて勇をも絞め殺せりさて帝の生質は嚴重にして政事に勉強したれば令すれば皆行はれ禁すれば皆止みたり全體財物にの至てしわんばうなるも手柄を賞することには惜まざりし其上人民を愛養し農桑蠶織を勸め賦役を輕くし雜稅を薄くし

自分の用度は十分に儉約なり因て天下の人民も自然と儉約の風に移れり初譲りを受けたるときは人民の戸數四百万に滿たざるに
末年には八百万に滿へたり然れども自分の非儉にて天下を取りたることゆへ疑ひ深く人を忌みむこく邪推し讒言を信用したれば
功臣や故き人も始め終りを全ふしたる者なく皆罪を受けたりさて在位は二十四年にて改元せしものは二の開皇仁壽と云へり太子
か立し是れを煬帝と云へり

煬皇帝名廣開皇末立爲太子是日天下地震卽位首營洛陽顯仁宮
發江嶺奇材異石又求海內嘉木異草珍禽奇獸以實苑囿又開通濟
渠自長安西苑引穀洛水達于河引河入汴引汴入泗以達于淮又發
民開邗溝入江旁築御道樹以柳自長安至江都置離宮四十餘所遣
人往江南造龍舟及雜船數萬艘以備遊幸之用西苑周二百里其內
爲海周十餘里爲蓬萊方丈瀛州諸山高百餘尺臺觀宮殿羅絡山上
海北有渠紫紆注海緣渠作十六院門皆臨渠窮極華麗宮樹凋落剪
綵爲花葉綴之沼內亦剪綵爲荷菱菱芡色淪則易新者好以月夜從
宮女數千騎遊西苑作清夜遊曲馬上奏之○後又開永濟渠引沁水
南達于河北通涿郡又營汾陽宮又穿江南河自京口至餘杭八百里
○置洛口倉於鞏東南原上城周二十餘里穿三千窖置興洛倉於洛
陽北城周十里穿三百窖窖皆容八千石帝或如洛陽或如江都或北

巡至榆林金河或如五原巡長城或巡河右營造巡遊無虛歲徵天下
鷹師至者萬餘人徵天下散樂諸蕃來朝陳百戲於端門執絲竹者萬
八千人終月而罷費巨萬歲以爲常○徵高麗主入朝不至大業七年
帝自將擊高麗徵天下兵會涿郡敕河南淮南江南造戎車五萬乘供
載衣甲等發河南河北民夫供軍須江淮以南民夫船運黎陽及洛口
諸倉米舳艫千里往還常數十萬人晝夜不絕死者相枕天下騷動百
姓窮困始相聚爲盜〔字解〕 (苑囿四方の園ひなきを苑と云ふ園は園ひあるなり〔紫〕紫は天皇聖の御
也遊なり〔色淪〕變色のこと〔清夜遊曲〕魏の曹植の作れる清夜遊西園の詩を曲に作りたるもの〔紫〕穴ぐら〔紫〕塵つかひ〔散樂〕種
々の俗樂〔絲竹〕琴の類は絲なり

煬帝の類は竹なり(軸)と云へ(講義) 煬帝の名は廣と云ひ開皇の末年に立て太子とす此日天下は地震せりさて位に則ち
始めに洛陽の顯仁宮を營作し大江五嶺の地方の珍奇なる材木や奇異なる石を取り寄せ
又海内の異き樹木異なる神や珍奇な鳥等は取りたる毛髪を求めて庭苑中に置き又通濟渠を開き民安の西苑より穀洛水を引きて黃河
に至り黃河を引て汴水に入れ汴水を引きて泗水に入れ夫れより淮水に達せり又人民を起して邗溝を開き江に於て其後江都の地
を造り道に柳を植へたり又長安より西苑に至るまで離宮を造ること四十餘箇所あり又使を江南にや龍首の舟及び他の船數
万艘を造らせて遊幸の用意とせりさて西苑の廻りは二百里ありて其内の海を掘り其海の廻りは十餘里ありて中には蓬萊方丈瀛州
の諸山を造り其山の高さは百餘尺あり宮殿や樓閣は山の上に列なり續けり又海の北手に掘りありて瀛州の海に八り其
廻りに沿ひて十六の院を作り其院門は皆柳々に向ひ奢華美麗を窮め極せりさて宮樹の花や葉が凋み落つれば色淪と切りて花や葉
を作りて綴り付け又水中に魚の類を切りて蓮や大葉や菱や鬼蓮の花や葉を造り其色が變ずれば新規なるものと取替へたり又月夜
に宮女數千人を従へ黒髪に烏髮に遠く清夜遊と云ふ樂曲を作り馬上にて合奏させたり後又永濟渠を開き沁水を引きて其の方河に
達し北の方河に達し又汾陽宮を營作し又江南の河州より京口より餘杭に至り其長さは八百里あり又洛口倉を營造り東南なる原
の上に建てたり此城の廻りは二十餘里ありて中に三千の穴倉を掘り又興洛倉を洛陽の北に建てたり此城の廻りは十里ありて中に
三百の穴倉を掘り此穴倉は皆何れも米八千石を入れるなり帝は或は洛陽に住き或は江都に住き或は北方に巡幸して榆林金河に

至り或は五原に往き長城を廻り或は河右に巡幸し警造と巡幸とは一年もなき年なし又天下の應使ひを召したるに來る者万餘人なり又天下の散樂者を召し諸の夷國の入朝するときは諸の散樂を正門の前に列ね絲竹の樂器を以て人一万八千人ありて正門が終りて止め其神用は万万なり是れ年々の定まりとせり扱て高麗王を召したるも入朝せしゆへ大業の七年に帝は自分が大將となりて高麗を征伐し天下の兵を召して涿郡に集め河南淮南江南に散して兵車五万輛を遣らせ衣服甲冑などを備へ賊を河内河東の八夫を起して軍中の用に充て江水滸水以南の人夫を船にて黎陽及び洛口の諸倉の水を運送させ此船のともと、さき千里も破り往かざるものは數十万人にて晝夜の別なく續きたれば夫れが爲め死する者は相互に枕しよりかゝる計りなり是に於て天下は騒動し人民は困窮し始めて相集り

十三萬餽運者倍之。首尾亘千餘里。帝至遼東。攻城不克。諸軍大敗。而還。明年再徵兵。自將擊之。○楚公楊玄感見朝政日紊。潛謀作亂。至是督運黎陽。遂反。帝引軍還。遣將擊之。玄感自洛陽引兵趨潼關。兵敗走死。帝又如涿郡。伐高麗。高麗遣使請降。帝還長安。已而如洛陽。如汾陽。如江都。巡遊仍無虛歲。○蒲山公李密兵起。密少有才略。志氣雄遠。輕財好士。嘗乘黃牛。以漢書掛牛角讀之。楚公楊素遇而奇之。由是與素子玄感游。初從玄感起兵。玄感敗。密變姓名亡匿。時人皆云楊氏將滅。李氏將興。又有民謠歌曰。桃李子。皇后走楊州。宛轉花園裏。勿浪語。誰道許。謂桃李子者。逃亡李氏子也。莫浪語。誰道許者。密也。密遂與群盜翟讓等起。攻黎陽。下之。健牙統所部西行。說下諸城。大獲。○鄱陽賊帥

林士弘稱楚帝。據江南。○杜伏威據歷陽。○竇建德稱長樂王。○馬邑校尉劉武周。朔方郎將梁師都。各據郡起兵。○李密據興洛倉。略取河南諸郡。稱魏公。○突厥立劉武周爲定陽可汗。取樓煩定襄雁門諸郡。○梁師都取離陰弘化延安等郡。自稱梁帝。○金城校尉薛舉起兵隴西。自稱西秦霸王。○武威司馬李軌起兵河西。自稱涼王。○薛舉自稱秦帝。徙據天水。○蕭銑起兵巴陵。自稱梁王。○唐公李淵起兵太原。克諸郡。入長安。時隋大業十二年。帝在江都。淵造尊爲太上皇。而立代王。是爲恭皇帝。○字解

○字解 (餽)食物を送ること(素)糸のもつれることにて乱るゝなり(皇后)二字とも君にて天子のことか(講義) 扱て涿南の竇建德の兵起れり茲に帝が召す所の四方の兵は皆涿郡に集り其數一百十に太上皇の稱を付けるゆへなり 至り城を攻めしが勝たず諸軍は大いに敗れて歸れり明年再び又兵を召し帝自分が大將となり高麗を打ちたり楚公なる楊玄感は朝政の日々乱るを見て内々乱を起すを企てしが此時に至り黎陽に兵糧運送の監督をなしたるやと謀反せり因て帝の兵を引て歸り大將をやりて征伐させれば玄感は洛陽より兵を引て潼關に走り兵破れて逃げ死したり又帝は涿郡に往き高麗を伐ちたれば高麗の使を以て降参を乞ひしゆへ帝は長安に歸り夫れより又洛陽に往き汾陽に往き江都に往き巡遊の矢張り年なかりし時に蒲山公なる李密の兵起れり密は少年の時より才智謀略ありて志氣はすぐれ速く財産を輕んじて士人を好めり或る時黃牛に乗り漢書を牛の角に掛けて讀みしが楚公なる楊素が途中にて出逢ひ珍敷き人とせり因て密は素の子なる玄感と交れり密は初め玄感に従ふて兵を起したるに玄感が敗れたれば密は姓名を變じて逃げ隠れり時の人皆楊氏は亡びんとす李氏は起らんとす云へり又民間流行歌あり其言葉に桃李に子あり君主は楊州に赴き花園の裡に遊興して歸らず輕率に語るまじ誰れか斯く云ひしとは云へり是れは桃李子とは逃亡せし李氏の子の意なり輕率に語るまじ誰れか斯く云ひしとは云ふは密にするの意にて李密の字を隱し云ふ言葉なり扱て密はとやと群盜の翟讓など兵を起し黎陽を攻めて降し大將の旗を立てて手下を合せ西に進みて諸城を説き下し大い

に分取りありたり扱て鄆陽の賊の大將なる林士弘は趙帝を稱して江南に權籠り又杜伏威は隱陽に權籠り又竇建德は長樂王を稱し
馬邑の校尉なる劉武周と朔方の郡將なる梁師都とは各の郡によりて兵を起せり又李密は興洛倉に權籠りて河南の諸郡を切り取り
て魏公と稱し又突厥ハ劉武周を立て、定陽の可汗となし樓煩と定襄と雁門などの諸郡を取り又梁師都は離陰と弘化と延安などの
諸郡を取りて梁帝と稱し又金城の校尉なる薛舉は兵を隴西に起して自分にて西秦の霸王と稱し又武威の司馬なる李軌は兵を河
南にて起し自分にて涼王と稱し薛舉は自分にて秦帝と稱し移て天水に權籠り又蕭銑は兵を巴陵に起し自分にて梁王と稱し又唐公な
る李淵は兵を太原にて起し諸郡に時ちて長安に入れり此時は隋の大業十二年にて帝は江都にありしゆへ淵は遠くより尊んで太上
皇となし代王を立てたり是れを恭皇帝と云へり

〔恭皇帝名侑。煬帝之孫也。年十三爲李淵所立。改太業十三年爲義寧。淵爲大丞相。封唐王。煬帝在江都。淫虐日甚。酒卮不離口。見中原已亂。無心北歸。從駕多關中人。思歸。遂謀叛。以許公宇文文化及爲主。夜引兵入宮。縊殺煬帝。宗室無少長皆死。惟存秦王浩立之。而自爲大丞相。擁衆而西。○梁蕭銑稱帝於江陵。○隋帝侑卽位。半年禪于唐。隋自高祖至是三世。凡三十七年而亡。〔字解〕（酒卮）杯なり（北歸）江都より長安洛陽を指すなり〔講義〕恭皇帝の名は侑と云ひ煬帝の爲めに立てられ大業十三年を改て義寧と云へり淵は大丞相となり唐王に封せらる扱て煬帝ハ江都にあり淫乱にして下を苦しめると日々甚しく杯は口を離すことなく中國の已に亂るを見て北に歸るの心なかりし然るに供廻り關中の人多ければ皆歸を思ひどうせう謀反を企て許公なる宇文文化及を大將となし夜中に兵を引て宮に入り煬帝を絞め殺し皇族は幼少と壯年との別なく皆殺し只秦王なる浩を残して帝とし文化及は自分にて大丞相となり兵を引連れて西に向へり又梁の蕭銑ハ江陵にて帝と稱せり扱て隋帝なる都は位に即き半年にして唐に隳れり隋は高祖より茲に至るまで三世三十七年にて亡びたり

十八史略講義卷之四終

十八史略講義卷之五

浪華 片岡潜夫 講述

唐

〔唐高祖神堯皇帝〕姓李氏。名淵。隴西成紀人也。西涼武昭王暠之後。祖虎仕西魏有功。封隴西公。及昞於周世。封唐公。淵襲爵。隋煬帝以淵爲弘化留守。御衆寬簡。人多附之。煬帝以淵相表奇異。名應圖讖。忌之。淵懼。縱酒納賂。以自晦。天下盜起。以淵爲山西河東撫慰大使。承制黜陟。討捕群盜。多捷。突厥寇邊。詔淵擊之。淵次子世民聰明勇決。識量過人。見隨室方亂。陰有安天下之志。與晉陽宮監裴寂。晉陽之令劉文靜相結。文靜謂世民曰。今主上南巡。群盜萬數。當此之際。有眞主驅駕而用之。取天下如反掌耳。太原百姓收拾可得十萬人。尊公所將兵復數萬。以此乘虛入關。號令天下。不過半年。帝業成矣。世民笑曰。君言正合我意。乃陰部署。而淵不知也。會淵兵拒突厥不利。恐獲罪。世民乘間說淵。順民心。興義兵。轉禍爲福。淵大驚曰。汝安得爲此言。吾今執汝告縣官。

世民徐曰。世民觀天時人事如此。故敢發言。必執告。不敢辭死。淵曰。吾豈忍告汝。慎勿出口。明日復說曰。人皆傳李氏當應圖讖。故李金無故族滅。大人能盡賊。則功高不賞。身益危矣。惟昨日之言。可以救禍。此萬全策。願勿疑。淵歎曰。吾一夕汝思言。亦大有理。今日破家亡身。亦由汝化家爲國。亦由汝矣。先是裴寂私以晉陽宮人侍淵。淵從寂飲酒。酣寂曰。二郎陰養士馬。欲舉大事。正爲寂以宮人侍公。恐事覺併誅耳。會煬帝以淵不能禦寇。遣使者執詣江都。世民與寂等復說曰。事已迫矣。宜早定計。且晉陽士馬精強。官監蓄積巨萬。代王幼冲。關中豪傑並起。公若鼓行而西。撫而有之。如探囊中物耳。淵乃召募起兵。遠近赴集。仍遣使借兵於突厥。世民引兵擊西河。拔之。斬郡丞高德儒。數之曰。汝指野鳥爲鸞。以欺人主。吾興義兵。正爲誅佞人耳。進兵取霍邑。克臨汾。絳郡下韓城。降馮翊。淵留兵圍河東。自引兵西。遣世子建成守潼關。世民徇渭北。關中群盜悉降於淵。合諸軍圍長安。克之。立恭帝。淵爲大丞相。唐王加九錫。尋受禪。立子建成爲皇太子。世民爲秦王。元吉爲齊王。字解。

(相表) 肉角あり又三乳ありと云ふも信する足らず(圖讖) 李氏起らんと云ふ(宮監) 離宮の監督役(羅羅) 追ひ廻し仕ふこと(乘

間) ひまを見合せること(李金才) 名ハ淵(二郎) 第二子世民(講義) 唐の高祖神堯皇帝は姓は李氏にて名は淵と云ひ隋西なる成(無而之) 峰起する者を安んじ取り入ること(元吉) 第四子(紀) の人に於て西涼の武昭王なる高の後なり祖なる虎は西魏に仕へて手柄あり隋西公に封じられ父なる明は周の世に於て唐公に封じられ淵は父の官位を次ぎたり隋の煬帝は淵を以て弘化の留守となしたり淵は多勢を治めるに胸廣く事少なければ人は多く附き従へり煬帝は淵が人相は奇にして常に異なる上に未來記にも當ることゆへ思ひ恐みたれば淵は恐れ夫れより酒を飲み賄賂を入れて自分の才能を隠せり此時天下に盜賊起りたれば淵を以て山西河東の撫慰大使となし敕命を受けて晉陽をなし群盜を捕へ打ち多く勝ちたり又突厥が國端しを攻めたれば淵に申付け征伐させたり淵の次子なる世民は心敏く明らかに勇氣にして決斷あり又才智度量も人に立ち超へしが隋室の最亂るを見て内々天下を取り治むるの心ありて晉陽の官監なる裴寂及び晉陽の令なる劉文靜と心を合せり文靜ハ世民に向ひ今主上は南方に巡幸し群盜は方を以て數ふる計りなり此時に當り真正の主君ありて追ひ廻して用ゆるなれば天下を取ること就手の平を反すよりも易きなり太原の百姓は集め寄せば十万人は出来るなり又君の父君の引き連れらるゝ兵も數万人あれば此兵を以て空虛に付け入り關中に攻め入り天下に號令するは半年に過ぎずして帝王の事業を成就せんと云へば世民ハ笑ひながら君の言葉は正に我心に適へりと云ひそこで内々手分けせしが淵は此事を知らざるなり初て淵の兵は突厥を防ぎて利あらざるに達ひ罪を得るを恐れしに世民は暇を見合せ淵に説き人民の心に順ひ義兵を起さば禍を幸ひに變ずること出来んと云へば淵は大いに驚き其方は何とて斯る言葉と云ふや我れ今其方を捕へて朝廷に告訴せんと云へば世民は靜かに私ハ天の時と人の事とを見るに今云ふ通りなるゆへ押して云ふなり是非とも捕へ告げんとされば押して死罪をも辭退せぬと云へば淵ハ我れは何とて告訴するに忍びんや只其方は誰ぞ斯ることを口より出すまじと云へり然るに世民は又明日既き扱て人が皆李氏は未來記に當ると云ひしゆへ彼の李金才は譯もなく一族皆殺しにせられたり去れば父上も賊を尽く亡ばしなば手柄は高く賞典をも受け身は危くならん昨日云ひし義兵を起すことは只禍を救ふことにて是れぞ万全の計と云ふなり何卒疑ふなく決斷せられよと云へば淵は歎息し我れは一日ばん其方の言葉を考へ見るに大いに道理あり今日家を破り身を亡ばすも亦其方によるなり家を大にし國となすも亦其方によると云へり扱て是れより以前に裴寂は私に晉陽宮の宮女を以て淵に送り妾とせしが扱て淵は寂の處に酒宴せしに酔ひたるを寂は此度君の御次男が内々士卒軍馬を獲ひ大事を起さんとせらる然るに私ハ宮女を君に送上げたるが事發覺せば私も一處に罪し殺さるゝを恐るゝと云ひ淵の決心を促したり然るに丁厝煬帝は淵が賊を防ぐこと出来ざるゆへ使者を以て淵を捕へ江都に連れさせんとせり因て世民は寂なやと又説き扱て事は最早や迫りたればと云ふ早く計ごとを定められよ其上晉陽の士卒軍馬は強の擲り扱きにて又官監が蓄へ積む處の兵糧は万々あり又代王は幼少にて關中の豪傑は並び起れるゆへ君が若し軍鼓を鳴らして進み西に向ひ裴寂共を安んじ取り入るは袋の中の物を探り取る様なりと云へば淵ハそこで召募して軍を起したれば遠近も皆集りたり因て使者をやりて兵を突厥に借り世民は兵を引て西河を打ちて攻め拔き郡の丞なる高徳儒を責め其方は野鳥を指して鸞鳥なりと云ひ人主を欺きたり我れが兵を起すは正に斯る佞人

を謀する爲めなりと云ひ遂に切り殺せり夫れより兵を揃めて雲色を取り臨汾の郡に勝ち韓城を下し馮朔の郡を下し又淵は兵を留めて河東を圍み自から兵を引て西に進み世子なる建威をやりて道關を守り世民は渭北を論し下したり扱て關中の群陰は悉く淵に下りたれば將軍を合せて長安を圍みて打勝ち恭帝を立てたり淵ハ大丞相唐王となり九色の特許物を許され何程もなく譲りを受け子なる建威を立て、皇太子となし

世民を秦王となし元吉を齊王とせり ○隋東都留守越王侗煬帝之孫也亦爲衆所立稱帝於洛陽○秦王薛舉卒子仁果立○魏公李密與隋兵戰大敗降於唐○字文化及弒其所立主浩自稱許帝○涼王李軌稱帝○唐秦王世民破秦秦王薛仁果降送長安斬於市○李密之將徐世勣據密舊境降唐賜姓李○竇建德取河北諸州自稱夏王○李密叛唐唐人獲而斬之○夏主竇建德破字文化及誅之○隋主侗立一年王世充廢之而自立爲鄭帝尋弒侗○唐遣將襲涼主李軌執歸殺之河西平○沈法興稱梁王於毗陵○李子通稱吳帝於江都○杜伏威降唐○唐秦王世民擊定陽將宋金剛破之定陽可汗劉武周及金剛皆走死○唐秦王世民督諸軍伐鄭○吳主李子通襲梁主沈法興走死○夏王竇建德救鄭唐秦王世民大破擒之鄭主王世充降世民至長安被黃金甲二十五將從其後鐵騎萬匹甲士三萬獻俘太廟斬建德於市赦世充尋使人潛殺之○竇建德故將劉黑闥始起兵於漳南○唐

遣將李靖伐梁梁主蕭銑降送長安斬之○杜伏威擊吳主李子通執送長安伏誅○劉黑闥自稱漢東主○楚主林士弘卒其衆遂散○漢東將執黑闥降唐斬之○唐淮南道行臺僕射輔公祏反於丹陽唐將擊斬之○慶州都督楊文幹反遣秦王世民討平之○突厥入寇遣秦王世民禦之遇於幽州世民帥騎馳詣虜陣告之曰我秦王也虜不敢戰受盟而退〔字解〕唐人盛彥師なり(遺將)安貴與をやるなり(走死)突厥に走り死する 〔講義〕隋の東都の留守なる越王侗

は煬帝の孫なるか大勢の爲めに立てられ洛陽にて帝と稱せり秦の主なる薛舉は死去し子なる仁果を立てり魏公なる李密は隋兵と戦ふて大いに破れ唐に降参せり字文化及は其立つる所の隋主浩を殺して自分で許帝と稱せり又涼王なる李軌は帝と稱せり唐の秦王なる世民は秦を破りたれば秦王なる薛仁果は降参せしゆへ長安に送りて市中にて切りたり又李密の大將なる徐世勣は密の元の領地に斬籠り唐に降参せしゆへ姓を李氏と賜へり竇建德は河北の諸州を取り自分で夏王と稱せり李密は唐に叛きたれば唐人は生取りて切りたり夏主なる竇建德は字文化及を破りて殺せり隋主なる侗は立てより一年にして王世充か廢して自分か立ち鄭帝となり何程もなく侗を殺せりさて唐は大將をやりて涼王李軌を不意打ちし捕へ歸りて殺し河西は平らきたり沈法興は毗陵にて秦王と稱せり李子通は江都にて吳帝と稱せり杜伏威は唐に降参せり唐の秦王なる世民は定陽の大將なる宋金剛を打て破りたれば定陽の可汗なる劉武周及ひ金剛は何れも逃げ走りて死したり又唐の秦王なる世民は諸軍を引き連れて鄭を打ちたり吳主なる李子通は梁を不意打ちしたれば梁主なる沈法興は逃げ走りて死したり夏主なる竇建德は鄭を救ひしに唐の秦王なる世民は大いに破りて建威を生け取りにせり因て鄭主なる王世充も降参せりさて世民は長安に歸れり此時黄金の鎧を着て二十五人の大將は其後に従ひ鉄甲騎兵は一万にて甲士は三万人引連れ生取りを太廟に献上し建威を市中にて切り世充は殺したるか後に内々人をやりて殺させたり建威の元の大將なる劉黑闥は始めて兵を漳南にて起せり又唐は大將なる李靖をやりて梁を伐たせり梁主なる蕭銑を降し長安に送りて切り唐の杜伏威は吳主なる李子通を打ち捕へて長安に送り世充を殺せり劉黑闥は自分で漢東王と稱せり楚主なる林士弘は死去し其衆いとうと散りたり漢東の大將は黑闥を捕へて唐に降りたれば黑闥を切りたり又唐の淮南道の行臺僕射なる輔公祏は丹陽にて謀反せしゆへ唐の大將は打て切りたり又慶州の都督なる楊文幹か謀反せしゆへ秦王なる世民をやりて打ち平らけたり又

突厥か入寇せしにより秦王なる世民をやりて防かせ關州にて出逢へり世民は驍兵を引連れて馳せて夷の陣に至り我れは秦王たりと告げたれば夷は押して戦はず和議の盟ひを受けて退きたり

○唐興七年僭偽皆亡天下既定是歲初置州縣鄉學帝親詣國子學釋奠于先聖先師始定官制頒新律令定均田租庸調法丁中之民給田一頃篤疾減十之六寡妻妾減七皆以十之二為世業八為口分每丁歲入租粟二石調隨土地所宜綾絹絕布歲役二旬不役則收其傭日三尺有事而加役者旬有五日免其調三旬租調俱免水旱蟲霜十損四以上免租損六以上免調損七以上課役俱免民貧業分九等百戶為里五里為鄉四家為鄰四鄰為保在城邑者為坊田野者為村食祿之家無得與民爭利工商雜類無預士伍男女始生為黃四歲為小十六為中二十為丁六十為老歲造計帳三歲造戶籍

○初唐之起晉陽皆世民之謀帝欲以世民為儲嗣世民固辭而止太子建成喜酒色遊畋齊王元吉多過失而世民功名日盛建成乃與元吉協謀傾世民曲意諂事諸妃嬪世民獨不事之由是左右皆譽建成元吉而短世民

○武德九年六月太白經天見秦分建成元吉欲殺世民秦府僚屬勤王行周公之事力請乃決於是密奏兄弟專欲殺臣似

為世充建德報讐明日帥兵伏立武門建成元吉入覺有變欲還世民追射建成殺之尉遲敬德射殺元吉遂立世民為太子軍國事悉委太子處決然後聞奏初東宮官屬魏徵屢勸建成除世民及是世民召徵責以離間兄弟徵舉止自若對不屈世民禮之王珪亦嘗為建成謀皆以為諫議大夫帝自稱為太上皇帝詔傳位於太子是為太宗文武皇帝

帝(字解) (釋奠)孔子を祭るの名(均田)人民に平均に田地を授けること(租)田租なり(庸)賦役なり(調)戶税なり(一頃)百畝に大畧敷と云なるなり(雜糶)糶糶なり(講義)さて唐が起りしより七年にして衰りに帝と稱し王と稱せし者は皆亡つぎ(周公之事)周公は兄と弟とを殺せしことあり

講義 天下は最早や定まりたれば此年初めて學校を州と縣と郷とに立て帝は自分で國子學校に至りて先聖先師なる孔子を祭り又始めて官吏の職制を定め新法律を發布し均田と田租賦稅戶税の法を定めさて丁年中年の人民は一人に田地百畝を授け大病者廢の者は四十畝とし後家なる妻妾は三十畝とし皆其中の十分の二を代々の財産とし十分の八は人頭分けとして田租は丁年者一人毎に年々米二石と定め戶税は土地に合ふ物産にて取立て綾織なり絹なりつむぎなり木綿なりとし賦役は一人一年に付き二十日と定め若し使役せざる時は代物にて納めさせ夫れは一日分地方の産物の總物三尺とし又事故ありて一年分なる二十日の外に十五日使役するときは戶税を免除し又二十日の外に三十日使役するときは田租も戶税も共に免除せり又大水や旱魃や蟲害や霜害ありて稲作の十分の四以上を損したるときは田租を免除し十分の六以上を損したるときは戶税を免除し十分の七以上損したれば賦役をも共に免除せり又人民の身代を計りて九等に區別しさて百戶を里となし五里を郷となし又四戶を隣となし四隣を保の組合となし又都府の土地にては坊となし田舎の土地にては村となせり又官職ある家は人民と利を争ひ商業することを許さず工商雜業の者は官吏の内に入ることを許さず縹て男女の始めて生る者は黃と云ひ四歳を小と云ひ十六歳を中と云ひ二十を丁と云ひ六十を老と云ひ年々に勘定の帳簿を造り三年目に戶籍を改正せりさて初め唐か晉陽より起りしは世民の謀略ゆへ帝は世民を皇太子となさんとせしに世民は固く辭退したれば止めたりさて太子なる建成は酒宴女色や遊遊を好み又秦王なる元吉は過失多くそうして世民の手柄名譽は日々に盛んになりたれば建成はそこで元吉と謀計を合せ世民を押し除けんと企て帝の宮女などに媚ひて氣味取りをなしたり然るに世民は獨り夫れ等の事をせざりし因て帝の左右の

若は皆建成元吉を奪め立て世民を勝りたりと武徳九年の六月に太白星が天体を横切り夫れハ秦の地の上に當りて見へたれば夫れは秦王に臨ありと云へり此時建成元吉ハ世民を殺さんと企てたれば秦王の役所の官吏は秦王に勸め周公が兄弟を殺せし事を引いて建成元吉を殺すを勸め勉めて申立てたれば世民も決心しそこで内々上書し兄弟の者は専ら私を殺さんと企て居れり是れは私か亡はせし世充感徳の爲めに仇を報せんとするものなるか實に道理なきことなりと云へり其明日兵を引き連れて玄武門に埋伏して待ちたりと建成元吉は入り來り變あるを悟り引返さんとせしに世民は追ひ掛けて建成を射殺し又尉遲敬徳と云ふ者は元吉を射殺したり因てどうとう世民を立て太子となし軍事國政は總て太子に打ち任せて處分させ處分したる後に申上る様にせりさて是れより以前に東宮の官吏なる魏徵は度々建成に世民を殺すを勸めたれば此時世民は徵を召し何とて兄弟の間を隔て難す様にせしやと責めたるに徵ハ少しか腫かす平生の通りにて立派に答へ風伏せされは世民は丁寧に扱へり王珪も亦以前に建成の爲めに世民を除くを謀りたるか皆何れも謀議大夫となしたりさて帝は自分にて太上皇帝と稱し位を太子に傳へり是れを太宗文武皇帝と云へ

太宗文武皇帝名世民。幼日有書生見之。曰龍鳳之姿。天日之表。其年幾冠。必能濟世安民。書生去。高祖使人追之。不見。乃探其語爲名。年十八舉義兵。李密降唐。初見高祖。色尙傲。及見秦王。不敢仰視。退而歎曰。眞英主也。高祖以秦王功高。特置天策上將。位在王公上。以秦王爲之開府。置屬。開館。以延文學之士。杜如晦。房玄齡。虞世南。褚亮。姚志廉。李玄道。蔡允恭。薛元敬。顏相時。蘇勗。于志寧。蘇世長。李守素。陸德明。孔穎達。蓋文逵。許敬宗。爲文學館學士。分爲三番。更日直宿。王暇日輒至館中。討論文籍。或至夜分。使閤立本圖像。褚亮爲贊。號十八學士。士大夫得預其選者。時人謂之登瀛州。時府僚多補外。如晦亦出。玄齡曰。餘人

不足。惜如晦。王佐才。大王欲經營四方。非如晦不可。王卽奏留之。使參謀帷幄。剖決如流。玄齡每入奏事。高祖曰。玄齡爲吾兒謀事。雖隔千里。如對面語。秦王功蓋天下。身幾危。賴玄齡如晦決策。至是卽位。首放宮女三千餘人。○突厥頡利突利二可汗。合十餘萬騎。入寇。進至渭水。便橋之北。上自與房玄齡等六騎。徑詣渭水上。與頡利隔水語。責以負約。突厥大驚。皆下馬羅拜。俄而諸軍繼至。旗甲蔽野。頡利懼。請盟而退。○置弘文館。聚四部書二十餘萬卷。選天下文學之士。虞世南等以本官兼學士。聽朝之隙。引入內殿。講論前言往行。商榷政事。或夜分乃罷。取三品以上子孫。充弘文館學士。〔字解〕(幾冠)二十近き年なり(三番)三組なり(登瀛洲)瀛洲は仙人の居り(二可汗)夷の二王なり(羅拜)並び拜伏する也(四部)甲は經書乙は歴史丙は百家丁は詩賦とす(前言往行)古人の言行を云ふ(商榷)計りたしめめる〔講義〕太宗文武皇帝は名を世民と云ひ幼少なるとき一人の書生ありてその人相を見て龍鳳の姿ありて天と地(夜分)十二時 日の相あり因て年二十前に屹度能く世の中を救ひ人民を安んずるならんと云ひ書生は立ち去れり因て高祖は此言葉を開き家來に書生の跡を追はせたるも見へざりしと云ふそこで其言葉を取りにて世民と名付けしなり果して年十八にて兵を起せりさて李密が唐に降参せしと初めて高祖に謁見せしが顔色は矢張り高擡り居たるに秦王に面謁するに及び押して顔を見て見ることせず退て歎息し秦王は眞に英明なる主君なりと云へり高祖は秦王の手柄高きを以て特別に天策上將と云ふ役を設け其位は王公の上となし秦王に其役を授け役所を設けて屬官を置き又學館を設けて文學の士を採用せり其人々は杜如晦と房玄齡と虞世南と褚亮と姚志廉と李玄道と蔡允恭と薛元敬と顏相時と蘇勗と于志寧と蘇世長と薛收と李守素と陸德明と孔穎達と蓋文逵と許敬宗と是を文學館の學士となし三組に分ちて交代して宿直させ秦王が暇ある日には學館に至りて互に文學を講論し

或る時は夜の十二時に至りて、開立本に委ひ付けて、密儀を寫させ、精亮に贊語を作らせ、是れを十八學士と云へり。士や大夫が學士に採用せらるゝ者あれば、時の人々は登瀛洲と云ひて譽め立てたり。時に秦王の屬官が地方官に用ひらるゝ者多く、如晦も亦地方に出されたれば、交辭は秦王に向ひ、餘人は情む程のことなきも、如晦は實に王者を輔佐するの才あり、大王が天下四方を取り治めんとせらるゝなれば、如晦にあらずんば、輔佐すること出来ずと云へば、秦王は高祖に乞ひて留め置き、自分の參謀役となせり。如晦が諸事を決斷するは、水の流るゝ様なりし又、交辭が朝廷に入り、事を奏上する度、毎に高祖は交辭が我が兒の爲めに事を述ぶるときは千里を隔て居るも、丁度對面して語る様なりと云へり。秦王の手柄は天下を蔽ひ包む計りは、夫れが爲め兄弟にせねまれ、身も早や危くなり。交辭如晦の勸めにより、決斷して禍を去り、遂に至りて位に即き、先づ初めに宮女三千餘人を解放せり。さて突厥の頡利と突利の二人の夷王が兵十餘万を合せて攻め入り、進んで渭水の傾橋の北に來りたれば、帝は自分にて交辭を六騎に直ぐに渭水の邊りに往き、頡利と水を隔て、謂り約束に責めたれば、突厥は六ひに驚き、皆馬を下りて並ひ拜伏せり。此時俄かに諸軍も繼ぎ來り、旌旗甲兵は野を蔽ふ計りなれば、頡利は恐れ、盟を乞ひて退きたり。さて弘文館とを設け、四部の書物二十餘万卷を集め、天下の文學の士を撰び用ひたり。漢世南などは、本官を勤め、又學士を兼ねたり。帝は政事を聞く暇には、學士を内殿に引き入れて、古人の言行を論究し、政事を計りたり。かめ或時は夜の十二時に及びて止めたり。又三位以上、上の者の子孫を採用し、弘文館の學士となしたり。

○有上書請去佞臣者。曰。願陽怒以試之。執理不屈者直臣也。畏威順旨者佞臣也。上曰。吾自爲詐。何以責臣下之直乎。朕方以至誠治天下。或請重法禁盜。上曰。當去奢省費。輕徭薄賦。選用廉吏。使民衣食有餘。自不爲盜。安用重法邪。自是數年之後。路不拾遺。商旅野宿焉。上嘗曰。君依於國。國依於民。刻民以奉君。猶割肉以充腹。腹飽而身斃。君富而國亡矣。又嘗謂侍臣曰。聞西域賈胡得美珠。剖身而藏之。有諸。曰。有之。曰。吏受賕抵法。與帝王狗奢欲而亡國者。何以異。此胡之可笑邪。魏徵曰。昔魯哀公謂孔子曰。人有好忘者。徙宅

而忘其妻。孔子曰。又有甚者。桀紂乃忘其身。亦猶是也。○張蘊古獻大寶箴。有曰。以一人治天下。不以天下奉一人。又曰。壯九重於內。所居不過容膝。彼昏不知。瑤其臺而瑤其室。羅八珍於前。所食不過適口。惟狂罔念。丘其糟而池其酒。又曰。勿沒沒而闇。勿察察而明。雖冕旒蔽目而視於無形。雖黈纁塞耳而聽於無聲。上嘉其言。○分天下爲十道。因山川形便。曰。關內。河南。河東。河北。山南。隴右。淮南。江南。劍南。嶺南。○遣將討梁師都。其下殺之以降。以其地爲夏州。○太常祖孝孫奏。唐雅樂。○貞觀二年。又出宮女三千餘人。○故事。軍國大事。中書舍人各執所見。雜署其名。謂之五花判事。中書侍郎。中書令。省審之。給事中。黃門侍郎。駁正之。上謂王珪曰。國家本置中書門下。以相檢察。卿曹勿雷同也。時珪爲侍中。房立齡杜如晦爲僕射。魏徵守秘書監。參預朝政。立齡謀事。必曰。非如晦不能決。及如晦至。卒用立齡策。蓋立齡善謀。如晦善斷。二人同心。徇國。故唐世稱賢相。推房杜焉。徵嘗告上曰。願使臣爲良臣。勿使臣爲忠臣。上曰。忠良異乎。徵曰。稷契臯陶。君臣協心。俱享尊榮。所謂良臣。龍逢比干。面折廷爭。身誅國亡。所謂忠臣。上悅。〔字解〕〔陽怒〕表て計り偽はり立腹するを云ふ。

至誠(真心)後賦役(賦)取り立て物なり(廉吏)愁少なく正しき役人(野宿)監賊なきを云ふ(刻民)人民の物をむく取り立てるを云ふ(賈胡)夷の商人(賄賂)賄賂を云ふ(大寶箴)天子の戒めになるものを云ふ(瑞)音けい玉なり(没々)沈むこと(察々)堀り出すこと(冕旒)冠の前に垂る玉(冠)冠の左右に垂る糸飾りにて俗に耳かくしと云ふ(又)又出宮女三千餘人(即位の初めに三千餘人を解放し又僅かに二年目に又三千餘人を解放せり後の三千人は先の残りか否か半分を放し半分を殺すの不公平ある理なし然らば放して後に又募り集めたるならん已に解放するや否や又集めるとは何等の不推衡なるや全体太宗のする所は皆此の如し父を勤めて帝室を亡ぼし兄弟を殺して父を押し除け已に君臣父子兄弟の大道を破れり故に學者を引き入れて勝の道を繕き宮女を放ち死囚を赦して俗人の耳目を昏まし名譽の山を張りしなり死囚を赦せしことは已に縱囚論あり潛夫が云ふを待たざるなり(雜響)一處に調印するを云ふ(五花判事)事を議決するには五花と云ふ綾紙を用ゆるなり(音審)再調へ(駁正)修正なり(掇案)吟味なり(雷同)人と同意すること(徇)従ふを云ふ(稷契)稷陶(堯舜の臣)龍逢(比干)桀紂の臣(面折)まのわたり君の非を挫くを云ふ(廷争)朝廷にて公然君を諫むる(誹謗)さて上書して佞人を去らんと云ふ者ありて何卒表て計り立腹して其人をためし若し道理を固く取りて風伏せぬ何とて臣下の直を責むることの出来さへや我れのみ真心を以て天下を治めんと云へり又或る人の法律を重くして盜賊を禁制せんと乞ひたれば帝は夫れは奢りを止め入費を減少して賦役を取り立てを少なくし正しき役人を擯び用ひ人民の衣服食物に餘りある様にすれば自然と監みをせぬものなり何とて重き法律を用ゆることをせんと云へり是れより數年の後は路に落ちたる物をも拾はぬ様になり商人旅客も野中にて露宿する様になりたり帝か或る時全体君は國により國は民により起るものなれば民よりむく取り立て、君に差し出すときは丁度自分の身の肉を切りて腹に満たす様に腹が満つれば身か死ぬるなり君か富有にたれば國か亡びんと云へり又或る時側付きの者に向ひ西域の夷の商人か美なる玉を手に入れれば自分の身を切りて其中に隠し入れると云ふことを聞きしか夫れはあることか問へば側付きはあることなりと答へしに帝は役人が賄賂を取りて法律に觸れ天子が奢りに従ひて國を亡ぼす者は何とて此夷の笑ふへき行と異ならんやと云へば魏徵は去れハ昔し魯の哀公が孔子に向ひ好く物を忘れる人ありて案を引越して或か妻を忘れたりと云へば孔子はまた夫れより甚しき者あり桀紂は我身を忘れたりと云ひしか丁度其通りなりと云へり又さて張謐古は太寶箴と云ふ文を献上せり其中に一人を以て天下を治むればとて天下の財産を以て一人に差し上げすと云へり又其中に九重の門を壯大にするも居る所は膝を容る、三尺の場所過ぎざるなり夫れに彼の心暗き桀は此道理を知らず其差を玉にて飾り其室を玉にて飾れり又山海の八珍味を前に並へるも食ふ所は口に適する程に過ぎず夫れに彼の心狂はし紂は其酒の糟にて鬪をなし酒にて池をなせりと云ふ又其中に物事に沈みて心暗くなる勿れ物事を掘り發きて心明かなるとする勿れ冠の前の飾りは目を隠すも無形を察し見よ冠の左右の飾りは耳を塞ぐも無聲にて聞き知れと云へり帝は其言葉最もなりとせりさて天下を分けて十道となし山や川の形の便利によりて區畫せり其十道は關内と河南と河東と河北と山南と隴右と淮南と江南と劍南と嶺

南と云へり又大將をやうて梁師都を征伐させ師都の家來か師都を切り降参せしゆへ其領地を夏州となせり太常なる祖孝孫か雅樂を作りて奏上せりさて貞觀二年に又宮女三千餘人を解放せり扱て以前よりの仕來りに軍事政事の重大なる事は中書舍人か名々の意見を書きて其案に調印し是れを五花判事と云へり扱て中書侍郎と中書令は再調へし給事中黃門侍郎か修正することなり因て帝ハ王珪に向ひ我が朝は元と中書門下の二者を置き相互に吟味せしことなれば其方共は人と同意せず十分に意見を立てよと云へり此時珪は侍中となり房玄齡杜如晦は僕射となり魏徵は秘書監となり皆朝政に交はり關係せり扱て玄齡か事を計畫するに屹度如晦にあらざれば決行すること出来すと云へり扱て如晦か來るときはつまり玄齡の計畫を採用せり夫れと云ふは玄齡ハ能く計畫し如晦ハ能く決行し二人は心を同くして國家の事に従ひたり故に唐の世の賢明なる大臣は房杜を第一と云ふなり徵は或る時帝に向ひ何卒私を良臣とならせ私を忠臣とならよとのなき様にせられよと云へば帝は忠と良とは異なるやと云へば徵は去ればなり稷契皋陶は君臣か心を合せ何れも尊榮を受けたり是れか良臣と云ふ所なり又龍逢比干は君の非をまのわたり挫き公然と諫め身は殺され國も亡びたり是れか忠臣と云ふ所なりと云へば帝は喜ひたり

○初突厥既強、敕勒諸部分散、有薛延陀、回紇等十部、皆居積北、頡利政亂、薛延陀、回紇等叛之、加以民大飢、羊馬多死、奉使者還、及邊帥皆言、突厥可取之狀、詔以李靖為定襄道行軍總管、統諸軍討之、靖襲破突厥於陰山、頡利可汗遁去、唐將擒之、以獻、時突利可汗先已入朝、上處突厥降衆、東自幽州、西至靈州、分突利地為四州、分頡利地為六州、左置定襄都督、右置雲中都督、以統其衆、以突利為順州都督、頡利為右衛大將軍、○林邑遣使入貢、○伊吾來降、置伊西州、○高昌王麴文泰入朝、○先是、四夷君長詣闕、請帝為天可汗、上曰、我為大唐天子、又下行可汗事乎、群臣及四夷皆稱萬歲、自是後、

書賜西北君長皆稱天可汗。○貞觀四年。蔡公如晦卒。上語及必流涕。○是歲大有。季上之初即位也。常與群臣語及教化。曰。大亂之後。其難治乎。魏徵對曰。饑者易為食。渴者易為飲。封德彝曰。三代以還。人漸澆訛。故秦任法律。漢雜霸道。蓋欲化不能。豈能之而不欲邪。徵曰。五帝三王不易民而化。湯武皆乘大亂之後。身致太平。行帝道而帝行王道。而王顧所行何如耳。上卒從徵言。元年。關中饑。斗米直絹一匹。二年。天下蝗。三年。大水。上勤而撫之。未嘗嗟怨。至是天下大稔。米斗三四錢。終歲斷死刑纔十九人。東至于海。南及五嶺。皆外戶不閉。行旅不齎糧。取給於道路焉。上曰。魏徵勸我行仁義。今既效矣。惜不令封德彝見之。蓋德彝元年六月死矣。○五年。林邑新羅入貢。〔字解〕(嶺北)沙漢の北より(邊帥)張公瑾なり(唐將)張寶相とす(四州)順化長の四とす(有季)豐年のこと(舊)かつてなり(漢)世は末になり(講義)初め突厥は已に強くなり救勸の諸部は分故せり扱て薛延陀人は道を誤るを云ふ(不易)元との儘にて教化するを云ふ(回紇)本との十五部ありて皆沙漠の北に居れり頡利の政事か乱れたれば薛延陀回紇などは早や謀反し其上人民は大いに飢へ羊や馬も多く死したり此時唐の使者が歸り來り及び國端しを守る大將か皆何れも突厥は攻め取ること出来る由しを申し立てたればそこで詔して李靖を以て定襄道の行軍總官となし諸軍を引き連れて征伐させられたれば突厥を陰山にて不意打ちを掛けて破りたれば頡利の可汗は遁れ走りたるか唐將は生け取りにして差し出したるなり此時突利の可汗は先きに已に入朝したれば帝は突厥の降参せし兵衆を置くに東の幽州より西の靈州に至り突利の地を分け四州となし又頡利の地を分けて六州となし左には定襄都督を置き右には靈州都督を置き其部衆を總へさせ突利を以て順州の都督となし頡利を以て右衛大將軍となせり又林邑は使者を立てて入貢物を献せり伊吾も亦降参せしゆへ伊州を置きたり又

高昌の王なる麴文泰も入朝せり是れより以前に四方の夷國の君長か朝廷に至り帝か天可汗とならるゝを乞ひたれば帝は我れは大唐の天子となり又下もなる可汗の事をも行ふことかと云へは群臣及び四夷の君長は皆万歳と稱せり是れより後ち御書を西北なる夷の君長に賜ふには皆天可汗と稱せり貞觀の四年に蔡公なる如晦は死去せり帝は如晦の語か出る毎に屹度涙を流せり此歳大いに豐作なりし初め帝か位に即きし時嘗て群臣と語り人民を教へて善に移らすことか語ありたるか帝は大亂の後なれば夫れは治め難きならんと云へは魏徵は腹のへりたる者は食物に満足さすこと易く喉のかきわたる者は飲物に満足さすこと易きゆへ治むるに格別難きことなしと云へは封德彝は否々三代より此方人は強々と末になり道を誤りたるゆへ秦は法律を以て治め漢は武斷政を交へり夫れは教化を以て治めんと思ふも出来ざるゆへなり決して教化を以て治むることを好まざるにあらす己むを得ざるゆへなりと云へり徵は否々五帝三王の人民を其儘にして教化し現に漢王武王は皆大亂の後を受けて自身にて太平を起し帝道を行へは帝と云へり王道を行へは王となりたり只行なふ所にあつたりと云へは帝はつまり徵の言聽き従へり扱て元年に關中大いに飢へ一斗の米が絹一疋に相當せり又二年には天下に蝗虫あり三年には大水あり然れども帝は務めて人民を治め安んじたれば人民は皆だ歡喜むることなり茲に至りて天下の大いに豐作にて一斗の米が三四錢にて一年中に死刑を幾判せしこと纔かに十九人にて東は海に至り南は五嶺に至るまで其間外の戸しまりもせず旅人も食糧を持たず行く先きに謂へたり因て帝は扱て魏徵は我れに勸めて仁義を行はせたるか今果して其體ありたり只以前に異論を立てたる封德彝に此有體を見せざるこそ殘念なりと云へり夫れハ德彝は元年の六月に死せしゆへなり

○党項内附。開其地為十六州。○七年春。宴立武門。奏七德九功舞。魏徵欲上偃武修文。每侍宴。見七德舞。輒俛首不視。七德舞者。秦王破陣曲也。見九功舞。則諦觀之。王珪罷徵為侍中。○上親錄囚徒。見應死者。閔之。縱使歸家。期以來秋就死。仍赦天下死囚。皆縱遣。至期來詣京師。至是皆如期。自詣朝堂。上皆赦之。凡三百九十人。○上奉太上皇置酒未央宮。上皇命頡利可汗起舞。馮智戴詠詩。笑曰。胡越一家。古未有也。○八年。吐蕃遣使入貢。○九年。太上皇崩。上皇

又謂親征異於諸將不可乘危上以遼左早寒草枯水凍士馬難久留且糧將盡敕班師是行拔十城徙戶口七萬三大戰斬首四萬餘級然戰士死者幾三千人戰馬死什七八不能成功深悔之歎曰魏徵若在使我有此行也命馳驛祠徵以少卒復立所製碑○二十年上如靈州遣李世勣擊薛延陀破降之招諭敕勒諸部回紇等十一姓各遣使歸命乞置官司詔曰朕聊命偏師逐擒頡利始弘廟略已滅延陀鎮勒百餘萬戶請為州郡混元以降殊未前聞宜備禮告廟仍頒示天下上為詩曰雪耻酬百王除兇報千古刻石於靈州○二十二年司空梁公房立齡卒上悲不自勝立齡佐上定天下及終相位三十二年號為賢相然無迹可尋上定禍亂而房杜不言功王魏善諫而房杜讓其賢英衛善將兵而房杜行其道理致太平善歸人主為唐宗臣(字解) 房杜降將實也(平壤)高麗の都也(或)長孫無忌也(班)まどめることにて返へすと(驛)續き立て馬なり(少年)半と承との料理とす(偏師)片端のことなり(廟)廟堂の政略(混元)開闢のこと(頡)分つの意(恥)中國が夷に攻めらるゝの恥を云ふ(無跡)誇らぬゆへ其手柄の證據なきと云ふ(王魏)王魏と魏徵と(英衛)英公なる李勣と衛公なる李靖と(宗臣)宗社の大臣とて基本となる名臣を云ふ

(講義) 同し十九年に帝は洛陽を出發して定州に至り諸軍を進めて帝も遼水を渡り遼東城を拔き白巖城を降させ安市城を攻め大いに高麗の加勢を城下にて打破れり然るに安市城は險阻にして兵は強く固く守りて下らざれば或る諸將は烏骨城を拔きて鴨綠江を渡り直ぐに平壤を取らんと思ひ其根本をさへ取らば餘は暇はすして降る者らんと云ひしか又或る人は天子親征ハ諸將の戰畧と異なりて危ふきに乘るよとの出來さすと云へりさて帝は遼東は早く寒く草は枯れ水は凍り士卒も馬も久しく留ま

ること困難なるか上に兵糧も尽きんとするゆへ敕して軍を返へせりさて此度の出征の城を抜くこと十ヶ所にて人民を中國に移し入れること七方に三度大戰して首を切るに四万餘なり然れども戰士の死する者は殆んど三千人に滿ち軍馬の死すること十分の七八に及び手柄を成就さすこと出來さざりしさて帝は記して茲に及び覺へず筆を投し大息する者之を久しくせり讀者諸子も苟くも日本臣民ならは潜夫と感て同くするは云ふを待たざるなり夫れ我が國の歩を清に譲る茲に多年去年初めて時清の盛事に會し九月に平壤を一拂し進んで敵境に入り遼東を席卷する殆んど無人の地を行く如く飛て山東を扼し威武に揚れり因て清人大いに恐れ成を乞ふこと數回終に遼東台灣を納れ財を出せり然るに清や孤なり三國の虎威を借り遂に我をして遼東を放棄せしむるに至る唯三國果して何者之賢に潜夫か勣に伏し膽を嘗むるの仇なり思ふて茲に至れば實に云ふ所を知らず潜夫先きに一時を感せり此詩にして少年諸子の胸裡に置かば豈に小補なからんや因て妄りに茲に附せり蛇足となす可なり此詩の語を取り典を用ゆる平易を旨とせり因て本講義を通讀せば以て其意を得へし其詩に曰く賊利小人常應戮測形量力棄遠限有怨臣子食無味三節何時納朝來乞ふ吟誦せよさて帝は深く後悔し歎き若し魏徵かあるならば我れに斯る行をさせざりしならんと云ひ命して使者を馳せ轡を祭るに少牢の料理を以てし又先きに倒したる碑を立てさせたり同し二十年に帝は靈州に往き李世勣をやりて薛延陀を打ち破りて降させ勣の諸部を招き諭したれば回紇などの十一姓は夫れ夫れ使を立て朝命に従ひ地方官を置くことを乞へり因て帝は詔を下し我れは聊か片端に云ひ付け頡利を追ひ捕へて初て廟堂の政器を廢め己に延陀を亡はしたれば魏徵の百餘万戸は乞ふて我が州郡となれり是れ開闢以來殊にまた前より聞き及ばぬことなれば禮式を備へて太廟に告祭し猶又天下にも布告せよと云ふは詩を作り其言葉は夷か中國を攻むるの恥を洗ひ清めて前の百王にむくひ惡しき夷を誅して千古以來の怨に報するなりと云ふさて此詩を石に刻り付けて靈州に立てたり同し二十二年に司空なる梁公の房立齡は死去せり帝は悲みに堪へざりし立齡は帝を佐けて天下を平定し宰相の位にて死去するまで三十二年の間なりし世の人の号して賢大臣とせり然れども手柄に誇らぬゆへ此事業をなしたりと云ふ跡方は見へざりし帝は禍亂を平定せしに房杜の二人は自分の手柄を云ひ立てす王魏の二人は能く諫めたれば房杜は二人を賢明なりと尊ひ英衛の二人は能く兵を用ひたれば房杜は其道を行ひさて治理の功は太平をなしたるも善事は皆天子の德行なりとせり實に唐の柱石の大臣となれり

○二十三年上有疾謂太子曰李世勣才知有餘然汝與之無恩我今黜之我死用為僕射親任之若徘徊顧望則當殺之耳乃左遷疊州都督受詔不至家而去○上崩在位二十四年改元者一曰貞觀上雖以武功定禍亂終以文德綏海內常自以驕侈為懼嘗曰人

屈意從之。將相多得人。魏元忠、婁師德、狄仁傑、姚元崇、皆名相。宋璟亦顯於朝。師德寬厚清慎。犯而不校。弟除代州刺史。師德謂兄弟榮寵過盛。人所疾也。何以自免。弟曰。自今人雖唾某面。拭之而已。師德愀然曰。此所以為吾憂也。人唾汝面。怒汝也。而拭之。則逆其意而重其怒矣。唾不拭。自乾。當笑而受之耳。師德每薦仁傑。而仁傑每毀師德。墨語仁傑曰。朕用卿。師德所薦也。仁傑退而歎曰。婁公盛德。我為所容久矣。武承嗣三思營求。為太子。仁傑從容言於墨曰。太宗櫛風沐雨。親冒鋒鏑。以定天下。傳之子孫。太帝以二子托陛下。今乃欲移之他族。無乃非天意乎。姑姪與母子孰親。陛下立子。則千秋萬歲。後配食太廟。立姪。則未聞姪為天子。而耐姑於廟者也。墨稍悟。已而又力勸之。遂自房州召廬陵王還都。立為皇太子。以子且為相王。仁傑最見信重。好面折廷爭。墨常屈從。稱為國老。而不名。仁傑卒。墨泣歎。元行沖博學多通。仁傑重之。行沖多規諫。曰。明公之門。珍味多矣。請備藥物之末。仁傑笑曰。吾藥籠中物。何可一日無也。姚元崇等數十人。皆仁傑所薦。或曰。天下桃李悉在公門矣。仁傑曰。薦賢為國。非為私也。〔字解〕(五郎)五郎配行。以先づ先祖は他の配行に入るゆへに數へず其子に甲乙とわれは甲を一と數へ乙を二と數へ甲に男子二人われは三四と數へ乙に又男子二人われは五六と數へる類にて相續人のみを數へ又は兄弟を數へるの數にあらざるなり(告密)密事を告發すること(銀鍊羅織)罪に引き付け入れること(掛刺)押し付けること(權數)權謀術數とて權威を持ち計略あることなり(不校)争はぬこと(愀然)うれいの貌なり(承嗣三思)二人は武后の姪とす(配食)合せ祭ること(耐)耐し(屈從)我意を折り従ふこと(規)たすなり(桃李)賢才〔誦義〕初め武氏は僧伽羅を寵愛し後に張易之と張昌宗とを寵愛せり此兄弟二人にして花あり實あり恩を受け能く報ゆるもの〔誦義〕は宮中に居りて政事を取れり易之は配行五に當り昌宗は配行六に當れり或るへつらひ者は武聖に向ひ人は六郎は蓮花の美に似たりと云ふか我れは蓮花が六郎の美に似たりと思ふと云へり扱て武聖ハ人々が心服せざるを知り其上自分の品行が正しからぬゆへ人々が自分を誹謗するを恐れ盛んに秘密を告發するの路を設け殘酷なる法吏の侯思止や索元禮や周興や來俊臣や吉瑣なをを用ひ誹謗者われを十分に鍊りて罪に引き入れ大抵反逆の罪名を以て誣ひ付け誅殺せしことは多くして一々書き立てられぬ程なり斯く手立を以て天下を押し付けたり然れども武聖ハ全体權威を立て計略ありて上手に人を使ひしゆへ賢才ある人も亦役せらるゝを樂めり又徐有功と云ふ人は惠み深く思ひやりありて法律を執行するに公平なりしが聖はいつも自分の我意を折りて其意見に従へり此時の大將大臣は多く人物ありたり魏元忠や婁師德や狄仁傑や姚元崇は皆名大臣なり宗瑋も亦朝廷に顯はれたり扱て師德は心廣く手厚くして又行ひ清く慎み深く犯すに無禮を以てするも争はずり或時に弟が代州の刺史となりしに師德は我か兄弟は何れも榮達し寵遇を受くること甚だ盛んすぎなるゆへ人の惡む所となり其方は如何なる手立を以て禍を免かれんとするやと云へり弟は今より人が我れの顔に唾を掛けるも立腹せず只拭ひ取らんと云へば師德は大いに憂ひ是れが我れの心配となる譯なり夫れ人が其方の顔に唾を掛けるも立腹させんと思ひてなり然るに其方は其唾を拭ひ取れば先きの心にさからひ先きの立腹を強くするならん扱て唾は拭はずとも自然と乾くゆへ只笑ひて唾を受くるまでなりと云へり又師德は常に狄仁傑を武聖に薦せしに却て仁傑は常に師德を誹れり或る時聖は仁傑に向ひ我れが君を採用せしは師德が薦舉によるなりと云へば仁傑は退きて歎息し董公ハ盛徳あり我れも納れらるゝこと久しかりしと云へり茲に武承嗣武三思の二人は太子となることを企て望みたるが仁傑は武聖に向ひゆるやかに説き扱て太宗は風に髪を吹かせ雨に身を濡らせ自分にて敵の刃物を犯し艱難辛苦して天下を定め子孫に傳へられ又先帝は二人の子を陛下に委托せられしに今は却て他族の太子を立て帝位をも移さんとせらる是れ天の意にあらざるならん扱て又叔母と姪と母と子と何れか親密なるや陛下が子を立つれば陛下下千万年の後は太廟に合せ祭らるゝも若し姪を立てるとせばまだ姪が天子となりて叔母を太廟に合せ祭らると云ふことを聞かずと云へば墨も少しく悟りしに其後又勉めて勸められたらうと云う房州より廬陵王を召して都に返し立てゝ皇太子となし子なる且を相王となせり扱て仁傑は墨の爲に最も信用し重んぜられ好んでまの當り挫き朝廷にて諫めしに墨は常に屈して從ひ仁傑を稱して國老となし名を以て呼ばざりし扱て仁傑は死去したれば墨は涙を垂て歎息せり又元行沖は廣く學問して多く通達したれば仁傑は甚だ重んじたり行沖は諫め正すこと多く扱て明公の門下には珍味なる賢才多し何卒私は齒の末に加はり苦き言葉を進めんと云へば仁

二と數へ甲に男子二人われは三四と數へ乙に又男子二人われは五六と數へる類にて相續人のみを數へ又は兄弟を數へるの數にあらざるなり(告密)密事を告發すること(銀鍊羅織)罪に引き付け入れること(掛刺)押し付けること(權數)權謀術數とて權威を持ち計略あることなり(不校)争はぬこと(愀然)うれいの貌なり(承嗣三思)二人は武后の姪とす(配食)合せ祭ること(耐)耐し(屈從)我意を折り従ふこと(規)たすなり(桃李)賢才〔誦義〕初め武氏は僧伽羅を寵愛し後に張易之と張昌宗とを寵愛せり此兄弟二人にして花あり實あり恩を受け能く報ゆるもの〔誦義〕は宮中に居りて政事を取れり易之は配行五に當り昌宗は配行六に當れり或るへつらひ者は武聖に向ひ人は六郎は蓮花の美に似たりと云ふか我れは蓮花が六郎の美に似たりと思ふと云へり扱て武聖ハ人々が心服せざるを知り其上自分の品行が正しからぬゆへ人々が自分を誹謗するを恐れ盛んに秘密を告發するの路を設け殘酷なる法吏の侯思止や索元禮や周興や來俊臣や吉瑣なをを用ひ誹謗者われを十分に鍊りて罪に引き入れ大抵反逆の罪名を以て誣ひ付け誅殺せしことは多くして一々書き立てられぬ程なり斯く手立を以て天下を押し付けたり然れども武聖ハ全体權威を立て計略ありて上手に人を使ひしゆへ賢才ある人も亦役せらるゝを樂めり又徐有功と云ふ人は惠み深く思ひやりありて法律を執行するに公平なりしが聖はいつも自分の我意を折りて其意見に従へり此時の大將大臣は多く人物ありたり魏元忠や婁師德や狄仁傑や姚元崇は皆名大臣なり宗瑋も亦朝廷に顯はれたり扱て師德は心廣く手厚くして又行ひ清く慎み深く犯すに無禮を以てするも争はずり或時に弟が代州の刺史となりしに師德は我か兄弟は何れも榮達し寵遇を受くること甚だ盛んすぎなるゆへ人の惡む所となり其方は如何なる手立を以て禍を免かれんとするやと云へり弟は今より人が我れの顔に唾を掛けるも立腹せず只拭ひ取らんと云へば師德は大いに憂ひ是れが我れの心配となる譯なり夫れ人が其方の顔に唾を掛けるも立腹させんと思ひてなり然るに其方は其唾を拭ひ取れば先きの心にさからひ先きの立腹を強くするならん扱て唾は拭はずとも自然と乾くゆへ只笑ひて唾を受くるまでなりと云へり又師德は常に狄仁傑を武聖に薦せしに却て仁傑は常に師德を誹れり或る時聖は仁傑に向ひ我れが君を採用せしは師德が薦舉によるなりと云へば仁傑は退きて歎息し董公ハ盛徳あり我れも納れらるゝこと久しかりしと云へり茲に武承嗣武三思の二人は太子となることを企て望みたるが仁傑は武聖に向ひゆるやかに説き扱て太宗は風に髪を吹かせ雨に身を濡らせ自分にて敵の刃物を犯し艱難辛苦して天下を定め子孫に傳へられ又先帝は二人の子を陛下に委托せられしに今は却て他族の太子を立て帝位をも移さんとせらる是れ天の意にあらざるならん扱て又叔母と姪と母と子と何れか親密なるや陛下が子を立つれば陛下下千万年の後は太廟に合せ祭らるゝも若し姪を立てるとせばまだ姪が天子となりて叔母を太廟に合せ祭らると云ふことを聞かずと云へば墨も少しく悟りしに其後又勉めて勸められたらうと云う房州より廬陵王を召して都に返し立てゝ皇太子となし子なる且を相王となせり扱て仁傑は墨の爲に最も信用し重んぜられ好んでまの當り挫き朝廷にて諫めしに墨は常に屈して從ひ仁傑を稱して國老となし名を以て呼ばざりし扱て仁傑は死去したれば墨は涙を垂て歎息せり又元行沖は廣く學問して多く通達したれば仁傑は甚だ重んじたり行沖は諫め正すこと多く扱て明公の門下には珍味なる賢才多し何卒私は齒の末に加はり苦き言葉を進めんと云へば仁

傑ハ笑ひ君は實に我が器入れの中の物にて何とて一日もなくてよからんやと云へり扱て姚元崇なを數十人は皆仁傑の腐敗せし處なれば或る人は仁傑に向ひ天下の賢才なる未だのものしき桃李は皆悉く君の門下にありと云へば仁傑は否を賢才を腐敗するは國家の爲めにし決して自分の身の爲めにあらざる云へり

墨嘗問仁傑欲得一佳士用之仁傑曰有張柬之者雖老宰相才也後竟用柬之爲相墨腹疾甚柬之與崔玄暉敬暉桓彥範袁恕已率羽林將軍李多祚等舉兵討内亂迎太子於東宮斬關入斬易之昌宗於廡下遷墨於上陽宮上尊號曰則天大聖皇帝是冬殂年八十二易唐爲周者十有六年改元者十曰天授如意長壽延載曰萬歲通天曰神功聖曆久視大足長安長安之五年帝復位號唐帝卽位二月而被廢居均州者一年居房州者十三年還爲太子者又八年而後反正韋氏復爲皇后上在房陵每欲自殺后每止之上與私誓異時幸復見天日惟所欲不禁至是每臨朝后必施帷幔坐殿上預聞朝政如武氏在高宗之世上女安樂公主適武三思之子三思以是得入宮禁通於韋后后與三思雙陸而上爲點籌上遂與三思圖議政事張柬之等皆受制五人皆賜王爵而罷政己而遠貶殺之安樂公主等依勢用事請謁受賕降墨敕除官斜封付中書時謂之斜封官凡數千人人

有上言皇后淫亂上面詰之其人抗言不撓中書令宗楚客矯制撲殺之上意快快后及其黨始懼馬秦客楊均皆幸於后恐事泄安樂公主亦欲后臨朝以己爲皇大女乃相與謀於餅餽中進毒上復位改元者二曰神龍景龍景龍四年而遇弒立温王重茂后攝政相王子隆基起兵討亂斬后及安樂公主并其黨皆誅之廢重茂奉相王立之是爲睿宗皇帝(字解)

(内亂)武聖の亂(廡下)殿のひさしの下なり(正位)に復するを云ふ(見天日)天子とならばの意(帷帳)垂れ精(三思之子)崇訓なり(點籌)數をりを云ふ(遠貶)官を下して遠く流すを云ふ(墨敕)朱印なきもの(餅餽)麩包の類(講義)さて墨は或る時仁傑に用ひ一人の良き士を手に入れ採用せんと思ふと云へば仁傑は張柬之と云ふもの(餅餽)麩包の類(講義)云ふ者あり年は老ひたると大臣たるの才ありと云へば後につまり柬之を用ひて宰相となしたりさて墨ハ病氣にて甚しくなりたれば柬之は崔玄暉と敬暉と桓彥範と袁恕已との四人と羽林將軍なる李多祚などを引き連れ兵を起して武氏の亂を討平せり先づ太子を東宮に迎へ宮門を切り入り易之と昌宗との二人を殿廡の下にて殺し墨を上陽宮に押し込め則天大聖皇帝との尊號を奉りたり墨は此冬に死去せり年は八十二にて唐の名を易へて周と云ひしもの十六年に改元せしものは十なり乃ち天授と如意と長壽と延載と万歲通天と神功と聖曆と久視と大足と長安と云へり長安の五年に帝は位に復し又唐と號せりさて帝は先きに位に即きて二月日に廢せられ均州に居りしこと一年又房州に居ること十三年返り太子となること又八年にて再び位に復し韋氏を再び皇后となしたりさて帝が房陵に居るとき度々自殺せんとせしむるも章氏が止めたれば帝は韋氏と共に約束し他日若し幸に帝位に復することあらば何事も其方の欲することば差し止めずと云ひしが茲に至り帝が朝に出づる毎に韋氏は屹度垂れ精を腰げて殿上に出で政事を一處に聞き丁度高宗の時に武氏がせし通りなりし又帝の娘に安樂公主と云ふありて武三思の子に嫁入りしたれば三思は其娘を以て宮中に入ることを得たればどうも章后と密通せり或る時章后は三思と双六せしに帝は二人の爲めを數取りをなしたり其後は三思と政事を相談したれば張柬之など皆三思に押へられたり其後張柬之と崔玄暉と敬暉と桓彥範と袁恕已との五功臣は王の位を授けられて政權を取り上げて又次ぎに位を下して遠く流され次ぎに殺されたりさて安樂公主などは時の勢に乗りて政事を取り私の内謁請託にて賄賂を取り無印の敕書にて官を授け正式によらずして中書省に執行させたり當時是れを斜封官と云ひ斯ることにて拜命せし者は凡そ數千人ありたりさて或る人が皇后は淫亂なりと稷白せしかば帝は直る直るに問ひ詰めたるに其人は中々屈せず十分に辯說せり因て中書令なる宗楚客は事の發覺を恐れ救命と詐り稷白者を打殺せ

安氏故冒其姓。部落破散，逃來。狡黠爲守珪所愛。又有史罕于者，與祿山同里閭，亦驍勇。守珪遣入奏事，上賜名思明。○千秋節，群臣皆獻寶鏡。九齡述前世興廢爲千秋金鑑錄五卷，上之。九齡罷。李林甫兼中書令，上在位久，漸肆奢欲。林甫遂得專政。○二十六年，立忠王爲太子。○二十九年，以安祿山爲營州都督，祿山傾巧善事人，上左右至平盧，皆厚賂歸譽之。上益以爲賢。○天寶元年，以祿山爲平盧節度使。○二年，祿山入朝。○三年，改年曰載。○以祿山兼范陽節度使。○四載，以楊大眞爲貴妃。故蜀州司戶立琰女也。爲上子壽王妃。十年矣。上見其美，令自以其意乞爲女官，且爲壽王別娶，而後納之。遂專寵。○六載，以祿山兼御史大夫。祿山請爲楊貴妃兒。○字解（續編）馬上下引くもの（略直）けつりたる様に直きこと（大真）道號とて神仙宗教の号とす。同三品なる張說、白晝して壯士を召し募りたれば十日の間に撰り拔きの兵分るは是れより始まりたり。同十三年に長從宿衛の名を改めて驍騎となせり。同二十一年に韓休は同平章事となれり。休は生れ付き削り立てたる如く正直にして帝が或は宴遊して些少なる過失あれば直きに左右の者に向ひ韓休は此事を知るや否やと云へり。其言葉が終る間もなく諫言の書面が早や至れり。因て左右の者は休が宰相となりてより陛下の格別に以前より瘦せられたりと云へば帝は歎息し我れは瘠せられたれども天下は肥へたりと云はる。扱て休は止り張九齡は續て宰相となれり。同二十二年に九齡の中書令となり。李林甫は同三品となれり。林甫は柔らかくねじけ狡猾にしてからくりあり深く宦官及び宮女の家と心を合せ帝の驕動を窺ひ

一として知らざる所なく是れによりて奏上啓問する毎に常に帝の心にかなへり。同二十四年に幽州の節度使なる張守珪は收軍の大將なる安祿山を捕へて京師に送れり。張九齡は判決し守珪の軍令を若し行ふものとせば祿山は死刑を免かれぬことならずと云ひしに帝は祿山の才あり勇あるを惜み死刑を赦せり。九齡は勉め争ひ祿山には謀反の相あるゆへ殺さずんば岐度後の心配を殘すなりと云ひしに帝は若し王衍が石勒の謀反心あるを知りたるを以て今又枉て忠良なる者を害する勿れと云ひつゝまり殺さざりし。祿山は元とは營州の雜居の夷にて初めの名は阿摩山と云ひしが母が二度目に安氏に嫁め入りせしゆへ安と云ふ姓を名乘れり。扱て其夷の組合が破れ散りたるゆへ逃げ來りしが狡黠にて守珪に愛せられたるなり。扱て又史罕于と云ふ者ありて祿山と同村なり。是れも亦猛く勇あり守珪は罕于をやり上京し事を奏上させられたれば帝の思明と云へり。千秋節なるの帝の生日に群臣は皆寶鏡を獻じり。九齡は前世の國の興廢を述べて五卷を作り千秋金鑑録と名け獻上したり。扱て九齡は止り李林甫は中書令を兼ねたり。帝は位にあること久しく段々奢りと私欲を思ひまゝにせしゆへ林甫は夫れより政事を氣儘にする様になれり。同二十六年に忠王を立て、太子となせり。同二十九年に安祿山を以て營州の都督とせり。祿山は氣儘を取るに工みに能く人に阿ねり。帝の左右の者が平盧に至れば皆厚く送り物せしかば歸りて祿山を譽めたれば帝は彌よて賢才ある者と想へり。天寶元年に祿山を平盧の節度使となせり。同二十二年に祿山は入朝せり。同十三年に年を改めて載と云へり。此年祿山を以て范陽の節度使を兼させたり。同四載に楊太眞を貴妃となせり。是れは故の蜀州の司戸なる立琰の娘なるが帝の子なる壽王の妃となること十年なり。帝は其器量好きを見て内々旨を諭し表て向き太眞より女官となるを願はせ壽王の爲めには別に妃を迎へ其後太眞を宮中に入れたり。夫れより太眞は帝の寵愛を専らにせり。同六載に祿山を以て御史大夫を兼ねさせたり。又祿山は乞ふて楊貴妃の養子となりて帝の心を取り込みたり。○九載、賜祿山爵東平郡王。兼河北道

採訪處置使。祿山入朝，楊釗兄弟姊妹皆往戲水迎之。釗貴妃之從祖兄也。得出入禁中。先是判度支，屢奏帑藏充物。上帥群臣觀之，由是視金帛如糞土，賞賜無限。賜釗名國忠。○十載，爲安祿山起第，窮極華麗。上日遣諸楊與之游。祿山体肥大，腹垂過膝。上嘗指其腹曰：「此胡腹中何所有？」對曰：「有赤心耳。」祿山入禁中，先拜貴妃。上問其故，曰：「胡人先母而後父。」祿山生日，賜予甚厚。後三日召入，貴妃以錦綉爲大襪，使官

所部兵及奚契丹凡十五萬發范陽引而南步騎精銳煙塵千里時承平久百姓不識兵革州縣皆望風瓦解進陷東京○平原太守顏真卿起兵討賊上始聞河北從賊歎曰二十四郡曾無一人義士邪及真卿奏至大喜曰朕不識真卿何狀乃能如此○常山太守顏杲卿起兵討賊河北諸郡皆應之○十五載安祿山僭號稱大燕皇帝○賊將史思明陷常山執顏杲卿送洛陽祿山數其反已杲卿曰我為國討賊恨不斬汝何謂反也臊羯狗何不速殺我祿山大怒縛而高之比死罵不絕口○真源令張巡帥吏民哭於玄元皇帝廟起兵於雍丘討賊○朔方節度使郭子儀河北節度使李光弼與賊將史思明戰大破之首復河北數郡副元帥哥舒翰與賊戰大敗麾下執翰降賊賊遂入關上出奔次于馬嵬將士飢疲皆憤怒殺楊國忠等及逼上縊殺貴妃然後發父老遮道請留上命太子慰撫之父老擁太子馬不復得行使皇孫俶白上上曰天也使諭太子曰汝勉之西北諸胡吾撫之素厚汝必得其力且宣旨欲傳位太子至平涼朔方留後杜鴻漸迎入靈武請遵馬嵬之命賤五上乃許尊上為上皇天帝上在位四十五年改元者三日先夫

開元天寶太子立是為肅宗皇帝(字解)

(藩將)胡人的大將(控)くつわ(割送)分け送るよと(承)こと(二十四郡)河北道なり(顏果卿)果音より真卿の從弟とす(賊羯狗)なまぐさ羯胡の犬なり(尚)肉を切り骨を切らすとてつま
(機)札なり(講義)同じ十四載に祿山は節度府の大將分は漢人止め胡人とせんと請ひたるも帝はまた祿山の謀計なるを疑は
表書を云ふ(講義)さうし其次ぎに祿山の上表して馬を献上するを請ひ馬の數は三千正にて一正に二人づゝの口取りが付き二
十二人の大將が分け連れ河南に送らせんと云へば帝は始めて謀反を疑ひ使者をやりて馬の献上を差し止めたり祿山は此時床凡に
腰掛けて拜禮をもせず馬を献上せずとも好きなり十月にハ京都へ上るなりと云へり使者が歸りたるに答表もなかりし此冬祿山は
どうとう謀叛し部下の兵及び奚契丹の兵を起し凡そ十五方にて范陽を出發して引き連れ南に進めり歩兵騎兵も皆擧り拔きの銳兵
にて馬糧塵は千里も續けり此時太平が久しく人民は皆軍事を知らざれば州も縣も皆様子を見て瓦の様に解け散りたれば祿山は進
んで東京を落せり時に平原の太守なる顏真卿は兵を起して賊を打ちたり始め帝は河北の地が賊に從ひたるを聞き歎息し二十四郡
に乃ち一人の確理を知りたる士なきやと云ひしが今真卿の上表が来るに及び大いに喜び我れは真卿の如何なる者やを知らず夫れ
に却て能く此の通りなるかと云へり又常山の太守なる顏杲卿も兵を起して賊を打ちたれば河北の諸郡ハ皆御方せり同じ十五載に
安祿山は犯し稱して大燕皇帝と云へり扱て賊の大將なる史思明は常山を落して顏杲卿を捕へ洛陽に送りたれば祿山は自分に戻さ
たるを責めたれば果卿は我れは國の爲めに賊を討することにて其方を切らざるを恐むなり何とて反と云ふや生ま臭き羯胡の犬ぞ
何とて早く我れを殺さぬかと云へば祿山は大に立腹し縛りてなぶり殺しにさせたり杲卿は息の切れるまで悪口し聲を止めざりし
扱て真源の令なる張巡は役人人民を引き連れて老子の祠にて慟哭し兵を雍丘に起して賊を打てり扱て又朔方の節度使なる郭子儀
と河北の節度使なる李光弼は賊の大將なる史思明と戦ひ大いに打破り第一に河北の數郡を取戻せり副元帥なる哥舒翰は賊と戦ひ
大いに敗軍せしかば楨下の者が輪を捕へて賊に降参せしかば賊はどうも關中に入りしゆへ帝ハ出奔し馬嵬と云ふ處に陣取りた
り此時大將士共は皆飢へ疲れて皆憤怒を發し楊國忠などを殺し又帝に迫りて無理に請ひ楊貴妃を絞殺し然る後に出發せり此時
地方の父兄長老は道を切り止めて帝の留まるを請ひたれば帝は太子に云ひ付けて人民を慰め安んじさせしに父老は太子の馬を引
き留め又離さぬゆへ太子は皇孫なる傲をやりて帝に此由し申上げさせたれば帝ハ是れは天命なりと云ひ且つ太子に諭し其方は勉
強せよ西北の諸の夷は我れが治め安んずるよと元とより厚きゆへ其方は吃度其力を得るならんと云ひ其上旨を陳へ位を傳へんと
思ふの心を以てせり扱て此處ハ文字面より見れば賊に正當なることなれども其實は甚だ相違のことあり太子の留まるは已むを得
ざるにあらず自分より留まり位を取らんどの爲めなり故に其心にて肅宗の記を見れば其實を發見するならん扱て太子は平涼に至
りたるに朔方の留後なる杜鴻漸は迎へて靈武に入り馬嵬の命に從ひ帝位に上るを乞へり其上表五度に及び太子はそこで聞き入れ

先づ帝にハ勝手に尊号を付けて上皇天帝と云へり帝在位四十五年にて改元するものは三つ知天開元天寶と云へり太子は立ち居れ
肅宗皇帝と云へり

〔肅宗皇帝〕初名瓊改名亨自忠王爲太子二十年而遇祿山之亂至是
即位京兆李泌自幼以才敏聞上在東宮嘗與泌爲布衣交遣使召之
謁見於靈武事無大小與之謀上皇至成都遣冊寶如靈武○遣使徵
兵於回紇○招討節度使房琯與賊戰于陳濤邪琯用車戰大敗○至
德二載安慶緒殺祿山祿山自起兵以來日昏至是不復見物又病疽
躁暴欲以嬖妾子代慶緒爲嗣慶緒使人弑之而自立祿山僭號僅一
年餘○上至鳳翔回紇遣子葉護將精兵四千人至天下兵馬都元帥
廣平王俶副元帥郭子儀將朔方等軍及回紇西域之衆發鳳翔至長
安擊賊賊大潰大軍入西京俶留鎮撫三日引軍東出至洛陽與回紇
夾擊賊太敗遂復東京安慶緒定保鄴○賊將尹子奇陷睢陽張巡許
遠死之巡先守雍丘移軍寧陵屢破賊既而入睢陽與遠共守屢却賊
食盡或欲棄城巡遠謀曰睢陽江淮之保障若棄之賊必長驅是無江
淮也不如堅守以待救食茶紙盡遂食馬馬盡羅雀掘鼠雀鼠又盡巡

殺愛妾以食士四萬人僅餘四百終無叛者賊登城將士困病不能戰
巡西向再拜曰臣力竭矣生既無以報陛下死當爲厲鬼以殺賊賊遂
陷巡遠被執南霽雲雷萬春等三十六人皆被殺〔字解〕(布衣交)貴賤を問はず同
と國寶となり(躁暴)いらちあらざること(嬖妾)葉音せふ(西京)長安(保障)保つ城なり(羅)網にて取ること(厲鬼)厲
は烈しきこと鬼は祭りを受けざるもの神と異なり〔講義〕肅宗皇帝ハ初めの名ハ瓊と云ひしが又亨と改名せり忠王より太子と
神ハ人死して子孫の祭りをせらるるもの名とす〔講義〕なり二十年にして祿山の亂に遇ひ茲に至りて位に即けり京兆の李泌
ハ幼少の時より才智ありて心さとき風聞ありしが帝が東宮にありしとき泌と交りしが此時使をやりて召て靈武にて謁見し是
れより事の大小を問はせ泌と相談せり扱て上皇が成都に至り玉印國寶を持たせて靈武に送れり扱て此時使者をやりて回紇國の兵
を召したり招討節度使なる房琯は賊と陳濤邪に戦ひ車戰の法を用ひ大ひに敗れたり至德二載に安慶緒は父なる祿山を殺せり祿山
は兵を起せしより此方目がくらみたるが茲に至り又物を見分けること出来ぬ様になり其上疽と云ふ腫物が出来き心いらち行ひあ
らく氣に入りの手掛の子を立て、慶緒に代へ跡續きとせんとせしかば慶緒は家來に云ひ付けて父を殺させて自立したり扱て祿山
ハ傳号を稱せしより僅かに一年餘なり扱て帝ハ鳳翔に至りたれば回紇は子なる葉護をやり精兵四千人にて來れり扱て天下兵馬の
都元帥なる廣平王の俶は副元帥なる郭子儀と朔方等の軍及び回紇西域の衆を引き連れて鳳翔を出發し長安に至り賊を打ちたれ
ば賊は大ひに崩れたれば大軍は長安に入りたり扱て俶は留りて鎮め治むること三日にて又軍を引て東に出て洛陽に至り回紇の兵
と賊を夾み打ちたれば賊ハ大に敗れ夫れより洛陽を取戻せり因て安慶緒は走りて鄴を持ち固めり扱て賊の大將なる尹子奇ハ睢陽
を攻落し張巡許遠ハ打死せり是れより先き巡は雍丘を守り軍を移して寧陵に至り度々賊を破り夫れより睢陽に入り遠と共に守れ
り又度々賊を退せけしが食物盡きたれば或る人は城を捨てしに巡と遠とは相談し睢陽は江水と淮水とを持ち固める城なれば
若し此城を捨てば賊は屹度勢に乗りて長進せん是れ江淮の地方はなきものならん夫れゆへ此城を固く守りて救ひの軍を待つに
越すことなしと云ひ夫れより茶や紙を食ひしに夫れもなくたりたればどうせう馬を食ひしに又馬もなくたりたれば雀を網にて取
り地鼠を掘りて食ひしに是れも又なくたりたれば巡は寵愛する妾を殺して士卒に食はせたり始めは四万人ありしが今は僅かに四
百人を餘すだけなりしものつり扱て者ハなかりし扱て賊が城に上りたるとき大將士共は困しみ病みて戰ふこと出来ざりし扱て張
巡は四の方なる都に向ひ再拜の禮をなし扱て私は力盡き果てたれば生きて早や陛下の恩に報ゆること出来ざれば死して烈しき鬼と
なり賊を殺し罷さんと云ひしがやがて城はとうとう落ち巡と遠とは捕へられ南霽雲や雷万春などの三十六人も皆共に殺されたり

○上皇發蜀郡還西京。○乾元元年命郭子儀等九節度討安慶緒。○二年史思明引兵救慶緒九節度之兵潰于鄴。思明殺慶緒還范陽。○李光弼代郭子儀為朔方節度使兵馬元帥。光弼號令嚴整始至號令一施士卒壁壘旗幟精明皆變與史思明戰屢敗之。○上元元年太僕卿李輔國遷上皇於西內。上皇愛興慶宮自蜀歸即居之。多御樓及老過者往往瞻拜呼萬歲。上皇常於樓下賜以酒食又嘗召將軍郭英父等上樓賜宴。輔國言上皇居興慶日與外人交通陳玄禮高力士謀不利於上。數啓上遷之。不許。乘上不豫率衆劫遷上皇日以不憚。因不茹葷辟穀寢以成疾。○二年史朝義殺史思明。思明愛少子而惡朝義。因其敗軍欲斬之。朝義使人射殺思明而自立。○李光弼為大尉統八道行營鎮臨淮。○寶應元年郭子儀知諸道節度行營兼興平定國等軍副元帥復入朔方。○上皇崩於西內。傳位後七年也。壽七十八。○上寢疾。聞上皇登遐轉劇遂崩。在位七年。改元者四。曰至德。乾元。上元。寶應。初張皇后與李輔國相表裡專權用事。晚更有隙。上疾篤。后召太子。謂曰。輔國久典禁兵。陰謀作亂。不可不誅。太子恐震驚上體。不可輔

國聞其謀。上崩殺后。而後引太子立之。是為代宗皇帝。〔字解〕(九節度朔方)

魯靈與平の李洸と滑瀾の許叔冀と鎮西北庭の李嗣業と鄆蔡の李廣深と河南の崔光遠と河東の李光弼と澤潞の王思禮との九人とす(嚴整)嚴敷く調ふこと(精明)きつはり見へる様子(西内)太極殿を云ふ(瞻拜)遠くより拜伏するまじ(啓)上申なり(劫遷)兵力にて無理に移すこと(不茹葷)茹は食なり葷は魚菜にて根深なるもの類なり是れは神仙宗教の祝なり(辟穀)五穀を食はぬこと(少子)朝清なり(登遐)天子の死去を云ふ(表裡)表て上皇は蜀都の出發して長安に歸れり乾元の元年に郭子儀等の九節度使に命宮中と政府とより互に氣を合せること〔講義〕扱て上皇は蜀都の出發して長安に歸れり乾元の元年に郭子儀等の九節度使に命の兵は鄆にて崩れたり扱て思明は慶緒を殺して范陽に歸り大燕皇帝と僭號せり扱て李光弼は郭子儀に代りて朔方の節度使兵馬元帥となれり光弼は号令が嚴敷くて調ひたれば始めて來り一度ひ号令を下したれば士卒も城壁も旗幟も皆きつはりとせし様子が見へ以前と替はりたり扱て史思明と戦ひ度々打ち破れり元元年に太僕卿なる李輔國が上皇を西内に移せり上皇は興慶宮を愛し蜀より歸り直ぐに興慶宮に居り多くは樓上に居れり因て父老の宮外を過る者はあれこれ遠くより仰ぎ拜んで万歳と呼びたれば上皇は常に樓の下にて是れ等の者へ酒食を賜へり又或る時將軍なる郭英父などを召し樓に上りて酒宴を賜はりたり因て李輔國は帝に向ひ扱て上皇が興慶に居られ日々に外人と交通し又陳玄禮高力士は陛下の不利なることを企てたりと云ひ度々上皇を移すまじを上申したれども帝は許されざりし然るに帝の病氣に付け込み李輔國は兵を引きて無理に移したれば上皇は是れより日々心に樂まず因て最早泉菜を食はず五穀を食はず段々と病氣になりたり同じ二年に史朝義は父なる史思明を殺せり思明は少子を愛して朝義を惡み朝義が敗軍の罪を以て切らんとせしに朝義の家來に云ひ付けて思明を射殺させて自立せり扱て李光弼は大尉となり八道の行營の兵を統べ臨淮の州を領めり寶應の元年に郭子儀は諸道の行營兵の事を知とし興平定國などの軍の副元帥を兼ね又朔方に入れり扱て上皇は西内にて死去せり位を傳へしより後七年にて年は七十八なりさて帝は病氣に掛り臥したるが上皇の死去を聞き更に甚しくなりと云う死去せり在位は七年にて改元するものは四つ至德乾元上元寶應と云へり是れより以前に張皇后は李輔國と内外より心を合せ政權を我儘にし政事を取りしが未には又不中となり帝の病氣重なりたるとき后は太子を召し輔國は久しく近衛兵を支配し内外亂を起すを企て居れば殺さざればならぬことなりと云ひしに太子は帝が病中に驚かすを恐れ聞き入れざりしが輔國は其計畧を開き帝が死去せらるゝや直ぐに張后を殺し後に太子を引立てたり是れを代宗皇帝と云へり

代宗皇帝初名倂封廣平王為元帥定兩京封楚王改成王已而為太子改名豫至是即位誅李輔國以雍王适為天下兵馬元帥率諸將及回紇援兵討史朝義大敗之賊將李懷仙斬朝義以降以賊將張志忠

鎮成德軍。賜姓名李寶臣。薛嵩鎮盧龍。朝廷厭苦兵革。苟冀無事。因而授之。諸鎮自爲黨援。河朔敢抗朝命。始此。○廣德元年。吐蕃入寇。上出奔陝州。吐蕃入長安。關內副元帥郭子儀擊之。吐蕃遁去。○二年。流宦者程元振。元振初附李輔國。輔國死。元振專權。自恣尤甚。忌諸將有大功者。皆欲害之。吐蕃入。元振掩蔽不以時奏。致上狼狽。中外切齒。至是流秦州。○臨淮王李光弼卒。上之幸陝。光弼不至。上撫之加厚。素與子儀齊名。及在徐州。擁兵不朝。麾下諸大將不復尊畏。光弼愧恨成疾而死。○永泰元年。平盧將李懷玉逐節度使侯希逸。而自知留後。詔因而授之。賜名正巳。○叛將僕固懷恩誘回紇吐蕃入寇。召郭子儀屯涇陽。懷恩道死。二虜爭長不睦。子儀遣人說回紇欲共擊吐蕃。先是懷恩欺回紇謂子儀已死。使至回紇不信。曰。郭公在。可得見乎。使還報。子儀與數騎出。使人傳呼曰。令公來。回紇大驚。藥葛羅執弓矢立陣前。子儀免胄釋甲而進。諸酋長相顧曰。是也。皆下馬羅拜。子儀亦下馬執手與之語。取酒相與誓約而還。吐蕃聞之夜遁。諸軍與回紇共追大破之。〔字解〕

〔兩京〕長安洛陽(厭苦)いやがり苦しむ(因而)取るに任せるを云ふ(黨援)相助けるを云ふ(抗)立て付く(掩蔽)おひかくす(藥葛羅)

羅)大〔講義〕代宗皇帝は初めの名を假と云ひ廣平王に封ぜられ元帥となりて二京を定め楚王に封ぜられ又改めて成王に封ぜられ其後太子となり名を豫と改め茲に至りて位に即き李輔國を殺し雅王なる道を以て天下兵馬の元帥となし諸大將及び回紇の加勢を引き連れて史朝義を征伐させ大に打破れり賊將なる李懷仙は朝義を切り降参せり又賊將なる張志忠を以て成德軍を鎮めさせ姓名を賜ふて李寶臣と云へり薛嵩ハ相衛邢洛貞磁などの州を鎮め田承嗣は魏博德滄瀛などの州を鎮め李懷仙は盧龍を鎮めり扱て朝廷は軍事をいとひ苦しみたれば假りにも無事を望み取りて乞へば節度使の官を授けられたれば諸鎮は自然と相助けをなし河北の地方が押して朝廷の命令に立て付くことは是れより始まれり扱て廣德の元年に吐蕃が入寇したれば帝は陝州に出奔せしゆへ吐蕃は長安に入りたり因て關内の副元帥なる郭子儀は打て吐蕃を逃げ去らせたり同じ二年に宦者なる程元振を流せり元振は初め李輔國に附き輔國が死し元振は政權を我儘にし自分の欲するところは尤も甚しく諸將の大功ある者を忌み嫉み皆殺さんとせり扱て吐蕃の入寇せしとき元振は蔽ひ隠し時々其質を奏上せざりしより帝が大いにうろたへたることを致せり因て中外の者は皆前々咬みて立腹せしが茲に至りて瀋州に流されたり臨淮王なる李光弼は死去せり先きに帝が陝州に幸きせしとき光弼は至らず帝は却て安んじ治まること厚くせり光弼は元より子儀と評判を同じくし徐州に在るに及び兵を抱へ持ちて入朝せざりしに旗下の諸大將は又光弼を厚く恐れざるより光弼は耻ぢ怒みとうとう病氣となりて死去せり永泰の元年に平盧の大將なる李懷玉が節度使なる侯希逸を逐ひ拂ひて自分にて留後となりたれば因て詔して節度使を授け又名を正巳と賜へり扱て謀反せし大將なる僕固懷恩と云ふ者が回紇と吐蕃を引き入れて入寇したれば郭子儀を召して涇陽に陣取らせたり然るに懷恩は途中にて死去し回紇吐蕃の二胡は長となるを争ひて不中なれば子儀は使をやり回紇に説き共に吐蕃を打たんと云ひしに是れより以前に懷恩は回紇を欺き子儀は己に死去せりと云ひしより使が至りたるも回紇は信用せず若し郭公か生存せらるならば面議するを得らるゝやと云へり因て使者が歸り報したれば子儀は五六騎と出て人に云ひ付け令公來れりと傳へ呼ばせられたれば回紇は大いに驚きたり其大帥なる藥葛羅は弓矢を持ちて陣頭に立ちたり子儀は兜を脱ぎ鎧を解きて進みたれば諸の頭人は相見合て如何にも郭公なりと云ひ皆馬より下りて並び拜せり子儀も亦馬を下り手を執りて共に酌り酒を取り寄せて互に飲み盟ひの約束を結びて歸れりさて吐蕃は此事を聞き夜中に逃げたれば諸軍は回紇と共に追ひ掛け大に打破れり ○大曆三年。幽州將朱希彩殺李懷仙。詔因以希彩領鎮。○五年。誅宦者魚朝恩。朝恩在肅宗時。嘗爲觀軍容使。軍容之名始此。九節度相州之敗。正其時也。至廣德初。爲天下觀軍容使。宣慰處置使。專總禁兵。勢傾朝野。大曆初。判國子監。升座。講鼎覆餗。以譏宰相。王瑒